

2017年度
(平成29年度)

工学部履修案内

《平成29年度入学生適用》

東京農工大学工学部

目 次

本学の目的 工学部の目的	1	(7) TAT I・II科目	50
ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー	3	(数学・物理学・化学・生物学・地学)	
I. 授業について	26	3. 全学共通教育科目課程表	52
1. 基本的事項	26	III. 各学科の教育内容について	53
(1) 学年と学期	26	1. 生命工学科	53
(2) 平成 29 年度学年暦	26	2. 応用分子化学科	61
(3) 授業時間割表	28	3. 有機材料化学科	69
(4) 授業時間	28	4. 化学システム工学科	77
(5) 学生証及び学籍番号	28	5. 機械システム工学科	84
(6) 身体に障害がある者の受講措置について	29	6. 物理システム工学科	92
(7) 学科とコースの記号、及びコース決定	29	7. 電気電子工学科	99
(8) 学生への通知について	30	8. 情報工学科	107
2. 授業科目区分と卒業要件	31	9. 工学部共通専門科目	114
(1) 単位数の算定基準	31	10. 開放科目(整合教育)	115
(2) 授業科目の区分	31	11. 東京農工大学グローバル・プロフェッショナルプログラム	116
(3) 卒業について	32	IV. 単位互換制度について	117
3. GPA制度・CAP制度	34	1. 多摩地区国立5大学・東京海洋大学・国際基督教大学・琉球大学・長岡技術科学大学	117
(1) GPA制度	34	V. 資格・免許状について	121
(2) CAP制度	34	1. 教職課程について	121
4. 履修手続について	36	2. 学芸員課程	133
(1) 履修とは	36	3. 電気主任技術者	134
(2) 履修登録の期間	36	VI. 履修関係Q & A	135
(3) 履修登録手続	37	VII. SPICA 基本操作手順	139
(4) 再履修科目、他学部科目、他学科科目 他コース科目、年次外科目について	38	VIII. WEB 掲示板	155
(5) 履修手続についての注意事項	38	1. WEB 掲示板の利用案内	155
5. 試験	39	IX. 平成 29 年度学科長及び 授業関係委員会委員等一覧	157
(1) 試験期間	39	1. 学科長、教育委員会委員、 教職課程小委員会委員	157
(2) 受験心得	39	2. クラス担任	158
(3) 成績評価	40	X. 運動施設等の使用について	159
II. 全学共通教育科目について	41	XI. 建物等配置図(小金井キャンパス)	163
1. 全学共通教育の理念・目標	41	講義室	
2. 科目群について	41	キャンパスマップ	
(1) 大学導入科目	41		
(工学基礎実験・基礎ゼミ)			
(2) 持続可能な地球のための科学技術	42		
(科学技術と社会)			
(3) 共生人文社会科学	44		
(4) リテラシー科目	45		
(英語・第二外国語・国際コミュニケーション演習)			
(5) スポーツ健康科学科目	48		
(6) 日本語科目・日本事情科目	49		

本学の目的

本学は、広汎な学問領域における急激な知の拡大深化に対応して教育と研究の絶えざる質の向上を図り、20世紀の社会と科学技術が残した「持続発展可能な社会の実現」の課題を正面から受け止め、農学・工学及びその融合領域における教育研究を中心に社会や環境と調和した科学技術の進展に貢献することを目的とする使命指向型の科学技術大学を構築することを目標としています。

使命指向型の科学技術大学として、

- 教育においては、知識伝授に限定されず、知の開拓能力・課題解決能力の育成を主眼とし、高い倫理性を有する高度専門職業人や研究者を養成することを目標としています。
- 研究においては、学術の展開や社会的な要請に留意しつつ、自由な発想に基づく創造的研究に加えて、社会との連携により総合的・学際的な研究も活発に展開し、社会的責任を果たすことを目標としています。
- 教育と研究の両面で国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献することを目標としています。
- 本学は、教育研究と業務運営の全活動について、目標・計画の立案と遂行状況の点検評価を実施・公表し、開かれた大学として資源活用の最適化を図り、全学の組織体制と活動内容の絶えざる改善を図ることを目標としています。

工学部の目的

工学部においては、工学分野の科学技術に関する基礎及び専門的知識・技術を教授し、解決すべき諸問題の本質を見抜く能力の涵養とそれらを持続可能な社会の実現に生かすことの出来る幅広い教養と専門知識を有する人材を養成することを目的としています。

ディプロマポリシー・
カリキュラムポリシー

東京農工大学は、大学憲章において「使命志向型教育研究(MORE SENSE)」を行うことを基本理念として掲げています。これは、本学の教育目標が、課題解決能力のある実践的な人材の育成にあることを意味します。この基本理念に沿って、専門分野別の学部・学科における教育の到達目標を定めたものがディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)です。

学部のディプロマ・ポリシーには、所属する学科を超えて、新入生の皆さんが卒業するまでに身につけて欲しい能力が示されています。そこでは、基礎学力・専門知識・応用力・社会性の4つの観点に基づいて、必要な能力が文章で述べられています。

履修案内には、皆さんがこれから4年間で学ぶ科目を示した課程表、履修する科目の順番を示したコース・ツリーが掲載されています。これらは、大学が皆さんにどのような科目を提供しているか、すなわち、大学側の取組みを示しています。これに対して、ディプロマ・ポリシーには、それらの科目を学ぶことによって、皆さんがどのような能力を身につけることができるか、すなわち、皆さん自身の成長目標が示されています。実験・実習科目で身につく能力はわかりやすいと思いますが、講義では知識を吸収するだけでなく、考え方や要点をまとめる能力及び文章で表現する能力を修得することが大切です。

学科のディプロマ・ポリシーには、それぞれの専門分野に即して、身につけて欲しい能力が観点別に説明されています。カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャートを確認することによって、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの観点に対応するのか理解できるようになっています。学年が進むに連れてこれらの表を見返すことによって、どのような能力が身についたか、また、どのような能力が不足しているかを確認しながら、学習を進めるようにして下さい。4年後、皆さんがディプロマ・ポリシーの掲げる能力を身につけ、自信を持って卒業することができるよう、大学も応援しています。

工学部学士課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 学士課程の卒業にあたっては、以下の点を達成していることを基準とする。
 - (A) 工学系学部卒業生に相応しい自然科学に関する基礎的学力を身につけていること。
 - (B) 各学科で求められる研究領域の学識を身につけ、原理・原則に基づいた論理的思考と洞察する能力を備えていること。
 - (C) 使命志向の立場から、持続的な問題解決・研究開発を行う姿勢を身につけていること。
 - (D) 技術者、研究者として国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につけていること。
2. 所定の年限在学し、カリキュラム・ポリシーに基づく所定の単位数を修得した者に学士（工学）の学位を与える。

	生命工学科	応用分子化学科	有機材料化学科	化学システム工学科
A	専門知識のベースとなる関連領域（数学・物理学・化学・生物学・情報）の基礎を習得していること。	化学を本質的に理解するのに必要な数学、情報技術、自然科学などの基礎知識とそれらを活用できる能力を身につけていること。	有機材料化学の基礎となる化学・物理学・物理化学・数学などの自然科学系基礎科目と高分子化学などの専門科目との連携を重視した一貫性のあるカリキュラムを通じて知的好奇心を喚起し、体系的な基礎学力の向上を目指すとともに、サイエンスの本質を深く理解する力を身につけていること。	課題の発見と解決：マクロな流体や粉体の挙動、熱・物質運動、分離を伴う反応装置・触媒等の開発・設計、より大きな物質・エネルギー変換システムとしての「プロセス」の開発・設計・運転までを見渡すことができ、各種技術・教育研究活動を推進する能力を身につけていること。
B	分子の挙動に基づいた工学的総合技術である「生命工学」の専門知識を習得するとともに、原理原則に基づいて論理的に先端領域に対応するための力を身につけていること。	物質を原子・分子レベルで理解、制御、応用するために必要な基礎化学の知識と能力を習得していること。	有機・高分子化合物を中心とした材料に対するキーテクノロジーを将来に向けて継承することができる基盤力と、自らの知識や考え方を基にネオマテリアルを創製できる展開力を習得していること。	化学工学の能力と研究活動：原理・原則に基づいた論理的思考と経験的直観力をもとに現象を把握しモデル化して設計に至るまでの自らの考えを論理的に記述し、分かりやすく表現し、国際的な社会に対して伝達する能力を身につけていること。
C	生命工学に要求される社会的ニーズを理解し、持続的な社会発展に向けた問題解決および研究デザイン能力・研究開発姿勢を身につけ、自主的・継続的に学習する能力を習得していること。	①実践的な研究を実施するのに有用な先端化学分野の知識や先端機器の原理を理解し、それらを様々な問題解決に活用できる能力を身につけていること。②独創的かつ論理的思考をもとに最先端分野の情報や実験機器などを活用して創造的な研究を実施し、情報発信する能力を身につけていること。	有機材料を原子レベルから分子集合体レベルまで洞察する能力を有し、有機材料の合成、構造解析、物性、機能設計、および環境に配慮した応用までを可能にする専門的知識を身につけていること。	論理的思考と国際対応：使命志向の立場から知識・技術を身につけ、持続的な問題解決や研究開発ができる能力を身につけていること。
D	社会や倫理など科学・技術にとどまらない多様な観点、地球的視点から「生命工学」の研究の意義を理解し、最新の技術情報とともに国内外に伝え、議論できる能力、他者と協働できる能力を身につけていること。	幅広い視野を持つ技術者として国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につけていること。	国や専門分野の垣根を越えた多様な社会性や異文化の理解などに通じる教養を身につけるとともに、様々な人達と協働できるコミュニケーション能力と教養を身につけていること。	使命志向型問題解決能力：技術者として社会に対する責任を自覚し、経済性、安全性、社会及び環境への影響等を多面的に考慮しながら、対象の本質を理解し、解決すべき工学的課題を自覚し、創造的に解決できる能力を身につけていること。

	機械システム工学科	物理システム工学科	電気電子工学科	情報工学科
A	数学・物理学を中心に、工学系学部の卒業生に相応しい自然科学に関する基礎的学力を身につけていること。	①物理学および数学を中心に自然科学関連の基礎知識を習得していること。②多様な複雑な工学的な課題に対して、客観的なデータに基づき、論理的に推論を進めて結論を導くための能力（学習力、分析力）を身につけていること。	電気電子工学の基礎を理解するのに必要な数学・物理学・化学・地学・生物学などの自然科学の基礎的能力を習得していること。	工学者としての基礎となる、数学を中心とした自然科学に関する基礎学力・知識を習得していること。
B	機械工学全般に関する基礎的な知識を身につけた上で、さらに「航空宇宙エネルギーコース」、「車両制御ロボットコース」とより専門化された領域における学識を習得していること。	①力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、物理数学など物理学の基礎を体系的に理解し、その基本原理を身につけていること。②物理システム工学を展開する際に必要となる技術、スキルを身につけていること。③多様な複雑な工学的な課題に対して、物理学的な視点・方法から問題を発見・分析するのに必要な専門知識を身につけていること。	①電気電子工学に関する基礎的な知識を体系的に習得していること。②先端的なシステムエレクトロニクスの構築や電子情報通信技術の創出に必要な専門知識とその活用能力を身につけていること。③電気電子工学の本質的理解および発展に欠かせない実験・解析スキルを体系的に習得していること。	①情報工学の専門家としての基礎をなす、コンピュータ科学・コンピュータ工学の基礎理論を身につけていること。②新たな情報技術やシステムを自律的に考案・設計・開発するために必要な専門知識を身につけていること。
C	与えられた研究テーマについて、自ら計画を立て、実験・解析を行い、考察・議論できるような能力（知的好奇心、洞察力、想像力）を身につけていること。その集大成として、機械工学の先端技術とその基盤となる理工学に関して新たな知見をもたらす研究内容を備えた卒業論文を作成できること。	既成の枠にとどまらず、多分野を統合発展させ、新しい分野を開拓する能力（企画設計力、論理的発信力）を身につけていること。	電気電子工学に関する問題を創造的に解決できるような調査力および議論能力を身につけていること。	①理論に基づいて情報システムを設計し動作させ、その結果を分析して改善する実践的能力を身につけていること。②情報工学の発展に寄与する創造的な研究を行う能力を身につけていること。
D	国際社会において様々な分野の人々と協働できるエンジニアとなるために、必要なコミュニケーション能力（語学力）と、社会や文化、倫理などに関する教養、センスと理解力を身につけていること。	分野を問わず広く社会で直面する課題を、実践的に解決するのに基礎となる教養を身につけていること。	①国際的に産業技術の発展に貢献できるだけのコミュニケーション能力とスキルを身につけていること。②自らの考え方を論理的に記述し国際社会に対して分かりやすく伝達する能力を身につけていること。③国際社会において、様々な人々と協働できるコミュニケーション能力と一般教養を身につけていること。	国内外で様々な人々と協働できる技術者となるために必要なコミュニケーション能力と教養を身につけていること。

工学部学士課程 カリキュラム・ポリシー

教育課程は、学問分野の特色に応じた11の課程（コース）に分かれ、それぞれの目的と理念に基づいたカリキュラム編成となっています。

4年間で学ぶ科目群は、「教養科目」「基礎・専門教養科目」からなります。柔軟性のあるカリキュラムなので、1年次で専門の勉強をしたり、4年次で人文科学系の共通科目の履修することも可能です。4年次の卒業論文では、自主的・主体的に研究計画を立て、遂行する能力を養います。

生命工学科	応用分子化学科	有機材料化学科	化学システム工学科
<p>生命工学科では、生命工学を効率よく体系的に学ぶことが出来るように、化学・生命化学・分子生物学を柱とする独自のカリキュラムによって教育を行っています。</p> <p>1、2年次では専門基礎科目を履修します。ここでは、生命現象の基礎知識の習得、特に生命現象を分子レベルで理解することを目的とします。また、1年次から開講されている学生実験により、実技の習得を目指します。2年次後期より専門科目が開講され、高度で最新の知識を習得します。これらの科目と同時進行で、2、3年次を通して一貫したプログラムに基づいた生命工学実験（学生実習）を履修します。基礎的な実験から最新の機器を用いた高度な実験までを行い、実技の熟達と共に、授業内容の理解を深めます。</p> <p>3年次には、1、2年次のリテラシー科目の英語に続き、外国語教員の英語による実習を行うことにより、国際的に対応できる語学能力の習得を目指します。専門科目では、バイオサイエンスとともにバイオテクノロジーに関する工学系の科目も履修し、後学期には研究室へ実質的に配属し、先端研究に取り組む基礎を体得します。</p> <p>4年次には、配属された研究室において、卒業研究のテーマを設定し、指導教員の直接指導のもとで最先端の研究を行います。</p>	<p>応用分子化学科は分子変換化学、光電子材料化学、分子設計化学、無機固体化学、電子エネルギー化学、分子触媒化学の有機化学、物理化学、無機化学系の6教育研究分野から成っており、バランスのとれた基礎学力の習得と最先端分野の学習により、適応力と独創性が養成される教育システムを構成しています。</p> <p>特に1～2年次では、高校教育から大学教育へ無難なくステップアップできるように基礎学力の養成を重視しているため、化学の本質的な理解が可能になっています。また、物質と環境のかかわりを原子・分子レベルで理解する教育が受けられることも本学科の大きな特徴です。</p> <p>主に3年次では、化学系専門科目、最先端分野や最新機器に関する学習も積極的に取り入れ、創造的な研究能力を養うカリキュラムになっており、3年次後期には研究室の配属を決定し、卒業研究に向けた事前調査とトレーニングを開始します。</p> <p>4年次では、最新研究設備が設置された各研究室において卒業研究を履修します。指導教員当たりの卒業研究生は少人数であるため、卒業研究を通じた充実した指導により研究力および研究コミュニケーション力を養成します。</p>	<p>有機材料化学科では、考える力、物事の本質的理解、知的好奇心を喚起できるような、授業体制を整えています。全科目を連携させた一貫性のあるカリキュラムを用意することにより、初年次から目的意識を持ち、効率的に学習できるように図っています。例えば、物理化学系科目は、基礎となる数学・物理学や応用となる他の化学系諸科目との相関を熟慮し、1年次から3年次までの各学期にバランスよく配当しています。有機化学と無機化学は、それぞれ、演習を含む関連科目をシリーズで開講して体系的に講義します。基盤科目の履修の進行にあわせて材料系科目を加え、有機材料の合成、構造解析、物性、高機能設計、環境に配慮した応用について学びます。また1年次の科学基礎実験、工学基礎実験に加え、2、3年次には専門科目として低分子から高分子を対象とする有機合成系、物性系8分野の学生実験が用意されており、自分で仮説を立て、検証し、現象を理解・解釈する過程を学びます。学部4年次には、有機材料化学に関する独自性のあるオンラインの研究を行います。研究室での研究活動を通じて、これまで得た基盤力を、実践面で試行錯誤しながら深化、拡張し、物事を多角的に捉えられる化学観を構築します。</p>	<p>化学システム工学科では、JABEEの認定を受けた実績のある教育プログラムにより学生教育を行っています。本プログラムでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 物理化学、有機化学、無機化学、分析化学等の基礎化学科目の知識 2) 通常の化学系の教育に含まれる数学、物理学の基礎知識 3) 熱力学、化学工学量論、移動現象論、反応工学、分離工学、プロセスシステム工学、粉体工学など専門科目 4) 化学プロセス、地球規模の環境バイオ、エネルギー、新素材、触媒開発などの応用分野を習得し、 5) 英語力およびコンピュータ技術の活用を通して国際的視野で活躍できるエンジニアの養成を行うことを目的としています。

機械システム工学科	物理システム工学科	電気電子工学科	情報工学科
<p>機械システム工学科では、入学時から一学年を2クラスで構成して少人数の充実した授業を実施しています。実習系の設計製図では4クラスで行き届いた指導が実現されている他、10数名の少人数グループによって実施される学生実験、少人数のグループで課題に取り組む授業科目もあります。2年後期の授業からは、上記2クラスを「航空宇宙エネルギーコース」、「車両制御ロボットコース」の2つの専門教育コースに再編した上で、それぞれの主題に沿った内容の講義を実施しています。開講する科目は、専門科目の必修科目12科目（実験・演習・設計製図・プログラミング・卒業論文など）以外を自由に選択することが可能となっています。</p> <p>機械システム工学科には独自性の高い30以上の研究室があり、学生は卒業論文研究の実施先として個人の興味に応じた研究室を選択することが可能です。上記のカリキュラム構成との相乗効果により、非常に広い視野を持つ学生の教育が可能となっています。</p>	<p>物理システム工学科では、量子の領域からマクロな領域にわたる幅広い自然現象を体系的に理解し、物理学を工学に活用できるカリキュラムを用意しています。</p> <p>1年次では、物理システム工学基礎科目および数学を学びます。1年次から履修する「専門科目I」では本学科が物理学の基礎を学ぶために最低限必要とされる力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、物理数学等の科目が含まれます。「専門科目II」は重要な、技術とスキルおよび応用力を身につけることを目的とした科目です。エレクトロニクス、コンピュータに関連した科目、プレゼンテーションの基礎を学ぶ科目、並びに実験科目が含まれます。3年次から始まる「専門科目III」は、「専門科目I」と卒業研究を結ぶ様々な科目が設定されています。4年次では研究室に所属して卒業研究に取り組めます。教員の徹密な指導のもとで高度な研究を進め、授業科目の理解を深めるとともに、洞察力、探求力、応用力を養います。</p> <p>また、自然科学に対する興味を発展させながら、主体的に研究開発を進める能力[1. 学習力 (Study)、2. 分析力 (Analysis)、3. 企画設計力 (Innovative Design)、4. 論理的発信力 (Logical Presentation)]を育むためのSAIL 教育プログラムも実施しています。</p>	<p>基礎から最先端まで学べる電気電子工学科では、以下の3段階を経て、基礎的な知識から最先端の専門知識までを身につけることができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義、演習、実験による基礎力育成 (2) 専門科目による高度な知識の取得 (3) 研究室での最先端研究 <p>また、電気電子工学科では、2つのコースを選択できます。</p> <p>「システムエレクトロニクスコース」では電子デバイスの高機能集積化・知能化や電気エネルギーシステムなどについて学びます。高効率な光電変換材料など新しい素子材料の研究から、これらを活用した次世代エネルギーと動力のシステム、超高速光通信、立体ディスプレイ、レーザー計測などの研究開発を行います。</p> <p>「電子情報通信工学コース」では情報伝達通信メディア・システムの高機能化・知能化・融合化などについて学びます。無線通信とネットワーク、人間と相性のよい情報処理の技術、集積回路設計などの研究開発を行います。</p>	<p>1、2年次には、情報工学において中心となる最重要基礎科目を配置し、伝統的な「手を動かす教育」により徹底的に教えます。これらの最重要基礎科目には、すべて関連した演習を開講して、理解できるまで指導します。3年次には、「計算機システム系」「数理知能系」「メディア系」の3つに分類した科目群の中から、どの分野を重点的に学習するか自分で選択することができます。複数の分野にまたがって履修することも可能です。4年次には、専門分野の異なる多くの研究室の中から一つを選択し、そこで卒業研究に取り組むことで、さらに専門性を高めます。このようなカリキュラムで学ぶことで、コンピュータやプログラムの動作原理といった基本の理解から出発し、卒業時には最先端の技術がどのように実現されているのか理解できるようになります。したがって、単にコンピュータのアプリケーションやソフトウェアを使うテクニックを覚えるのとは違い、社会に出てからも新しい理論や技術を吸収し、研究者・技術者として第一線で活躍し続けることが可能になります。</p> <p>また、自然科学に対する興味を発展させながら、主体的に研究開発を進める能力[1. 学習力 (Study)、2. 分析力 (Analysis)、3. 企画設計力 (Innovative Design)、4. 論理的発信力 (Logical Presentation)]を育むためのSAIL 教育プログラムも実施しています。</p>

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	専門知識のベースとなる関連領域（数学・物理学・化学・生物学・情報）の基礎を習得していること。
観点(B)	分子の挙動に基づいた工学的総合技術である「生命工学」の専門知識を習得するとともに、原理原則に基づいて論理的に先端領域に対応するための力を身につけていること。
観点(C)	生命工学に要求される社会的ニーズを理解し、持続的な社会発展に向けた問題解決および研究デザイン能力・研究開発姿勢を身につけ、自主的・継続的に学習する能力を習得していること。
観点(D)	社会や倫理など科学・技術にとどまらない多様な観点、地球的視点から「生命工学」の研究の意義を理解し、最新の技術情報とともに国内外に伝え、議論できる能力、他者と協働できる能力を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学 共通 教育 科目	工学基礎実験	○			
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語科目				○
	日本事情科目				○
	線形代数学 I	○			
	微分積分学 I および演習	○			
	物理学基礎	○			
	化学基礎	○			
	生物学基礎	○			
	線形代数学 II	○			
	微分積分学 II および演習	○			
	数理統計学	○			
	量子力学概論	○			
	熱力学	○			
	電磁気学	○			
	地学	○			
地学実験	○				
専門 基礎 科目	微分方程式 I	○			
	関数論	○			
	バイオインフォマティクス基礎	○			
	光・波動	○			
	基礎生物化学	○			
	基礎分子生物学	○			
	基礎生態学	○			
	基礎生物学実験	○			
	生命物理化学 I	○			
	生命物理化学 II	○			
	生命有機化学 I	○			
	生命有機化学 II	○			
	生命分析化学	○	○		
	生命無機化学	○			
	機器分析学	○	○		
	生命化学 I	○			
	生命化学 II	○			
	分子生物学 I	○			
分子生物学 II	○				
細胞生物学 I	○				
細胞生物学 II	○				

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
目 基 礎 専 門 科 目	ライフサイエンス基礎演習 I	○			
	ライフサイエンス基礎演習 II	○			
専 門 科 目	生命工学の最先端 I		○	○	
	生命工学の最先端 II		○	○	
	生命科学英語		○	○	
	蛋白質科学		○	○	
	免疫工学		○	○	
	植物工学		○	○	
	先端機器分析学		○	○	
	地球環境工学		○	○	
	生理学 I		○	○	
	生理学 II		○	○	
	細胞再生工学		○	○	
	脳神経科学		○	○	
	生命科学特別講義		○	○	
	生命工学の最先端 III		○	○	
	生命工学の最先端 IV		○	○	
	生命技術英語		○		○
	メディシナルケミストリー		○	○	
	バイオプロセスエンジニアリング		○	○	
	食品・医薬品開発工学		○	○	
	医療・組織工学		○	○	
	レギュラトリーサイエンス		○	○	
	生体電子工学		○	○	
	マリンバイオテクノロジー		○	○	
	応用ゲノミクス		○	○	
	身体運動科学概論				○
	生命技術特別講義		○	○	
	生命工学実験 I		○	○	
	生命工学実験 II		○	○	
	生命工学実験 III		○	○	
	生命工学実験 IV		○	○	
	生命工学特別実験		○	○	
	生体機能工学演習 I		○	○	
生体機能工学演習 II		○	○		
応用生物学演習 I		○	○		
応用生物学演習 II		○	○		
生体機能工学実験 I		○	○		
生体機能工学実験 II		○	○		
応用生物学実験 I		○	○		
応用生物学実験 II		○	○		
卒業論文		○	○	○	

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	工学基礎実験 線形代数Ⅰおよび演習 微分積分Ⅰおよび演習 物理学基礎 化学基礎 基礎生物学 基礎分子生物学 基礎生態学	線形代数Ⅱ 微分積分Ⅱおよび演習 熱力学 電磁気学 光・波動 基礎生物学実験 生命有機化学Ⅰ 生命化学Ⅰ 分子生物学Ⅰ 細胞生物学Ⅰ 地学実験	量子力学概論 微分方程式Ⅰ バイオインフォマテイクス基礎 生命物理化学Ⅰ 生命有機化学Ⅱ 生命無機化学 細胞生物学Ⅱ ライフサイエンス基礎演習Ⅰ	数理統計学 関数論 生命物理化学Ⅱ 生命分析化学 生命無機化学 細胞生物学Ⅱ ライフサイエンス基礎演習Ⅰ	ライフサイエンス基礎演習Ⅱ	ライフサイエンス基礎演習Ⅱ	ライフサイエンス基礎演習Ⅱ	ライフサイエンス基礎演習Ⅱ
	生命技術特別講義(基礎ゼミ)		生命工学実験Ⅰ 機器分析学	生命科学英語 蛋白質科学 生命分析化学 生命工学実験Ⅱ メディシナルケミストリー	生命科学の最先端Ⅰ 生命工学の最先端Ⅱ 細胞再生工学 脳神経科学 食品・医薬品開発工学 地球環境工学 レギュラトリーサイエンス 免疫工学 生命工学の最先端Ⅲ 生命工学の最先端Ⅳ 生命技術英語 生体電子工学 マリンバイオテクノロジー 応用ゲノミクス バイオプロセスエンジニアリング 生命工学実験Ⅲ	生命工学実験Ⅳ	生命工学実験Ⅳ	生命工学実験Ⅳ
B								
C	生命技術特別講義(基礎ゼミ)		生命工学実験Ⅰ 機器分析学	生命科学英語 蛋白質科学 生命分析化学 生命工学実験Ⅱ メディシナルケミストリー	生命科学の最先端Ⅰ 生命工学の最先端Ⅱ 細胞再生工学 脳神経科学 食品・医薬品開発工学 地球環境工学 レギュラトリーサイエンス 免疫工学 生命工学の最先端Ⅲ 生命工学の最先端Ⅳ 生体電子工学 マリンバイオテクノロジー 応用ゲノミクス バイオプロセスエンジニアリング 生命工学実験Ⅲ	生命工学実験Ⅳ	生命工学実験Ⅳ	生命工学実験Ⅳ
D	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	リテラシー科目 科学技術と社会	科学技術と社会 リテラシー科目	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B 科学技術と社会 リテラシー科目 リテラシー科目 生命技術英語	科学技術と社会 リテラシー科目 身体運動科学概論	科学技術と社会 生命工学特別実験	科学技術と社会 生命工学特別実験

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	化学を本質的に理解するのに必要な数学、情報技術、自然科学などの基礎知識とそれらを活用できる能力を身につけていること。
観点(B)	物質を原子・分子レベルで理解、制御、応用するために必要な基礎化学の知識と能力を習得していること。
観点(C)	①実践的な研究を実施するのに有用な先端化学分野の知識や先端機器の原理を理解し、それらを様々な問題解決に活用できる能力を身につけていること。 ②独創的かつ論理的思考をもとに最先端分野の情報や実験機器などを活用して創造的な研究を実施し、情報発信する能力を身につけていること。
観点(D)	幅広い視野を持つ技術者として国内外で必要となるコミュニケーション能力と教養を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	工学基礎実験	○	○		○
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語科目				○
	日本事情科目				
	線形代数学 I	○			
	微分積分学 I および演習	○			
	物理学基礎演習	○			
	化学基礎		○		
	化学基礎演習		○		
	生物科学	○			
	線形代数学 II	○			
	微分積分学 II および演習	○			
	数理統計学	○			
	熱統計力学	○			
	電磁気学	○			
	力学	○			
専門基礎科目	地学	○			
	地学実験	○			
	微分方程式 I	○			
	微分方程式 II	○			
	関数論	○			
	コンピュータ基礎	○			
	力学 II	○			
	電磁気学 II	○			
	量子化学 I		○		
	無機化学 I		○		
	無機化学 II		○		
	有機化学 I		○		
	有機化学 II		○		
	有機化学 III		○		
物理化学 I		○			
物理化学 II		○			
物理化学 III		○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門基礎科目	無機分析化学		○		
	生物化学 I		○		
	環境物質化学概論		○		
	応用分子化学基礎演習 I		○		
	応用分子化学基礎演習 II		○		
	コンピュータ化学				
	高分子化学			○	
	有機反応論			○	
	生体有機化学			○	
	反応速度論			○	
専門科目	半導体化学			○	
	応用物理化学			○	
	遷移金属化学			○	
	有機機器分析			○	
	無機機器分析			○	
	物性化学			○	
	量子化学 II			○	
	論文・文献講読			○	
	先端有機工業化学			○	
	エネルギー化学			○	
	生物化学 II		○	○	
	化学工学		○	○	
	応用分子化学特別講義				○
	先端応用化学特別講義				○
	応用分子化学実験 I		○	○	
	応用分子化学実験 II		○	○	
	応用分子化学実験 III		○	○	
	応用分子化学実験 IV		○	○	
	応用分子化学演習			○	
	先端応用化学演習			○	
	インターンシップ				○
	卒業論文			○	○

観点	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	線形代数 I 微分積分 I および演習 物理学基礎演習 コンピュータ基礎 生物科学	工学基礎実験 線形代数 II 微分積分 II および演習 電磁気学 力学	数理統計学 微分方程式 I 力学 II 電磁気学 II 地学 地学実験	熱統計力学 微分方程式 II 関数論				
B	化学基礎 化学基礎演習 有機化学 I 無機分析化学	工学基礎実験 無機化学 I 有機化学 II 物理化学 I	量子化学 I 無機化学 II 有機化学 III 物理化学 II 応用分子化学基礎演習 I 応用分子化学実験 I	物理化学 III 環境物質化学概論 応用分子化学基礎演習 II 応用分子化学実験 II	生物化学 I 応用分子化学実験 III 化学工学	生物化学 II 応用分子化学実験 IV		
C			応用分子化学実験 I	生体有機化学 反応速度論 有機機器分析 応用分子化学実験 II	有機反応論 応用物理化学 物性化学 量子化学 II 工ネルギー化学 化学工学 応用分子化学実験 III	コンピュータ化学 高分子化学 半導体化学 遷移金属化学 無機機器分析 論文・文献講読 先端有機工業化学 生物化学 II 応用分子化学実験 IV	応用分子化学演習 卒業論文	先端応用化学演習 卒業論文
D	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目 応用分子化学特別講義 先端応用化学特別講義	工学基礎実験 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B インターンシップ	融合科目 科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会 卒業論文	科学技術と社会 卒業論文

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	有機材料化学の基礎となる化学・物理学・物理化学・数学などの自然科学系基礎科目と高分子化学などの専門科目との連携を重視した一貫性のあるカリキュラムを通じて知的好奇心を喚起し、体系的な基礎学力の向上を目指すとともに、サイエンスの本質を深く理解する力を身につけていること。
観点(B)	有機・高分子化合物を中心とした材料に対するキーテクノロジーを将来に向けて継承することができる基盤力と、自らの知識や考え方をもとにネオマテリアルを創製できる展開力を習得していること。
観点(C)	有機材料を原子レベルから分子集合体レベルまで洞察する能力を有し、有機材料の合成、構造解析、物性、機能設計、および環境に配慮した応用までを可能にする専門的知識を身につけていること。
観点(D)	国や専門分野の垣根を越えた多様な社会性や異文化の理解などに通じる教養を身につけるとともに、様々な人達と協働できるコミュニケーション能力と教養を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	工学基礎実験	○			
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語科目				
	日本事情科目				
	線形代数学Ⅰ	○			
	微分積分学Ⅰおよび演習	○			
	物理学基礎	○			
	生物科学	○			
	線形代数学Ⅱ	○			
	微分積分学Ⅱおよび演習	○			
専門基礎科目	地学	○			
	地学実験	○			
	有機材料化学入門	○			
	微分方程式Ⅰ	○			
	微分方程式Ⅱ	○			
	プログラミング基礎	○			
	力学概論	○			
	振動・波動の物理	○			
	材料電磁気学	○			
	光学基礎	○			
	生物機能化学	○			
	熱力学Ⅰ	○			
	熱力学Ⅱ	○			
	反応速度論	○			
量子化学Ⅰ	○				
量子化学Ⅱ	○				
物理化学演習Ⅰ	○				
物理化学演習Ⅱ	○				
化学結合論	○				
有機化学Ⅰ	○				
有機化学Ⅱ	○				
有機化学Ⅲ	●	○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門基礎科目	有機化学Ⅳ	●	○		
	有機化学演習Ⅰ	○			
	有機化学演習Ⅱ	●	○		
	無機化学Ⅰ	○			
	無機化学Ⅱ	○			
	無機化学Ⅲ	○			
	分析化学	○			
	無機・分析化学演習	○			
	科学基礎実験		○	●	
	ベクトル解析	○			
	応用解析	○			
	構造化学	○	●		
	統計力学	○	●		
	物性化学		○		
専門科目	電気化学		○		
	機器分析		○		
	高分子化学Ⅰ	○	●		
	高分子化学Ⅱ		○		
	高分子・繊維物理Ⅰ	○	●		
	高分子・繊維物理Ⅱ		○		
	有機化学Ⅴ	○	●		
	生体材料化学	○	●		
	有機工業化学		○		
	有機材料化学演習Ⅰ		●	○	
	有機材料化学演習Ⅱ		●	○	
	応用材料科学			○	
	有機材料化学特別講義Ⅰ				○
	有機材料化学特別講義Ⅱ				○
有機材料化学実験Ⅰ			○		
有機材料化学実験Ⅱ			○		
有機材料化学実験Ⅲ			○		
有機材料化学実験Ⅳ			○		
卒業論文		●		○	

●と○がある場合は、●は主たる関与であることを示す。

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	有機材料化学入門 線形代数 I 微分積分学 I および演習 生物科学 力学概論 化学結合論 有機化学 I 分析化学 工学基礎実験	線形代数 II 微分積分学 II および演習 振動・波動の物理 熱力学 I 有機化学 II 無機化学 I 無機・分析化学演習	地学 地学実験 生物科学 物理学基礎 微分方程式 I プログラミング基礎 材料電磁気学 熱力学 II 量子化学 I 物理化学演習 I 有機化学 III 有機化学 II ベクトル解析 有機化学 III	微分方程式 II 光学基礎 生物機能化学 反応速度論 量子化学 II 物理化学演習 II 有機化学演習 I 有機化学 IV 無機化学 III 応用解析 高分子化学 I	地学 地学実験 生物科学 構造化学 統計力学 高分子・繊維物理 I 有機化学 V 生体材料化学 化学工学概論	有機化学演習 II	地学 地学実験 生物科学	
	B	科学基礎実験		有機化学 IV 高分子化学 I	構造化学 統計力学 高分子化学 II 高分子・繊維物理 I 有機化学 V 生体材料化学 化学工学概論	有機化学演習 II 物性化学 電気化学 機器分析 高分子・繊維物理 II 有機工業化学 有機材料化学演習 I 有機材料化学演習 II 応用材料科学	卒業論文	卒業論文
C	科学基礎実験		有機材料化学実験 I	有機材料化学実験 II	有機材料化学実験 III	有機材料化学実験 IV 有機材料化学演習 I 有機材料化学演習 II		
D	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	卒業論文 科学技術と社会	卒業論文 科学技術と社会

有機材料化学特別講義 I
有機材料化学特別講義 II

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	課題の発見と解決：マクロな流体や粉体の挙動、熱・物質運動、分離を伴う反応装置・触媒等の開発・設計、より大きな物質・エネルギー変換システムとしての「プロセス」の開発・設計・運転までを見渡すことができ、各種技術・教育研究活動を推進していく能力を身につけていること。
観点(B)	化学工学の能力と研究活動：原理・原則に基づいた論理的思考と経験的直観力をもとに現象を把握しモデル化して設計に至るまでの自らの考えを論理的に記述し、分かりやすく表現し、国際的な社会に対して伝達する能力を身につけていること。
観点(C)	論理的思考と国際対応：使命志向の立場から知識・技術を身につけ、持続的な問題解決や研究開発ができる能力を身につけていること。
観点(D)	使命志向型問題解決能力：技術者として社会に対する責任を自覚し、経済性、安全性、社会及び環境への影響等を多面的に考慮しながら、対象の本質を理解し、解決すべき工学的課題を自覚し、創造的に解決できる能力を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	工学基礎実験	○			●
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語科目				○
	日本事情科目				○
	線形代数学 I	○			
	微積分学 I および演習	○			
	物理学基礎	○			
	化学基礎	○			
	生物学基礎	○			
	線形代数学 II	○			
	微積分学 II および演習	○			
	量子力学概論	○			
	熱統計力学	○			
	電磁気学	○			
	生物化学	○			
	地学	○			
地学実験	○				
専門基礎科目	微分方程式 I	○			
	微分方程式 II	○			
	無機化学基礎	○			
	有機化学基礎	○			
	有機化学 I	○			
	平衡論	○			
	分析化学	○			
	機器分析化学	○			
	化学工学序論	○			
	化学工学基礎	○			
	化学プロセス数学	○	●		
	情報科学基礎	○			

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門基礎科目	材料科学	○			
	システム工学概論	○			
	科学技術者倫理				○
	科学技術英語	●			○
	化学工学基礎演習 I	○			
	化学工学基礎演習 II	○			
	基礎プロジェクト演習	○		○	
	拡散分離工学および演習	●	○		
	粉粒体プロセス工学	○			
	反応工学および演習	●	○		
専門科目	プロセスシステム工学	○			
	プロセスデザイン工学	○	●	○	
	移動現象論および演習	●	○		
	化学工学熱力学および演習	●	○		
	論文・文献講読		●	○	
	環境工学	○			
	反応速度論	○			
	バイオプロセス工学	○			
	先端プロジェクト演習		○	○	
	エンジニアリング製図演習		○		
	化学システム工学特別講義				○
	化学システム工学演習		○		
	エンジニアリングプレゼンテーション		●	○	
	モデリング演習		○	○	
	化学システム工学実験 I	●	○		
化学システム工学実験 II	●	○			
化学システム工学実験 III	●	○			
化学システム工学実験 IV	○	●			
インターンシップ	○		○		
卒業論文	○	○	○	○	

●と○がある場合は、●は主たる関与であることを示す。

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	工学基礎実験 線形代数学 I および演習 微分積分学 I および演習 化学基礎 無機化学基礎 化学工学序論	線形代数学 II 微分積分学 II および演習 電磁気学 平衡論 化学工学基礎 情報科学基礎 基礎プロジェクト演習 生物学基礎 物理学基礎 有機化学基礎	微分方程式 I 量子力学概論 有機化学 分析化学 システム工学概論 科学技術英語 化学工学基礎演習 I 移動現象論および演習 反応速度論 化学システム工学実験 I 地学 地学実験	微分方程式 II 熱統計力学 材料科学 化学工学基礎演習 II 拡散分離工学および演習 粉粒体プロセス工学 プロセスシステム工学 バイオプロセス工学 化学システム工学実験 II 機器分析化学	反応工学および演習 化学工学熱力学および演習 環境工学 化学システム工学実験 IV インターンシップ 生物化学	化学プロセス数学 化学システム工学実験 IV	プロセスデザイン工学 卒業論文	卒業論文
B		基礎プロジェクト演習			先端プロジェクト演習 インターンシップ	論文文献講読 モデリング演習	エンジニアリング・プレゼンテーション 卒業論文	卒業論文
C			化学システム工学実験 I	化学システム工学実験 II	先端プロジェクト演習 エンジニアリング製図演習 化学システム工学実験 III	化学プロセス数学 論文・文献講読 化学システム工学演習 モデリング演習 化学システム工学実験 IV	プロセスデザイン工学 エンジニアリング・プレゼンテーション 卒業論文	卒業論文
D	工学基礎実験 化学システム工学特別講義 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	科学技術英語 科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 科学技術者理論	化学工学特別講義 科学技術と社会 卒業論文	卒業論文 科学技術と社会

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	数学・物理学を中心に、工学系学部の卒業生に相応しい自然科学に関する基礎的学力を身につけていること。
観点(B)	機械工学全般に関する基礎的な知識を身につけた上で、さらに「航空宇宙エネルギーコース」、「車両制御ロボットコース」とより専門化された領域における学識を習得していること。
観点(C)	与えられた研究テーマについて、自ら計画を立て、実験・解析を行い、考察・議論できるような能力（知的好奇心、洞察力、想像力）を身につけていること。その集大成として、機械工学の先端技術とその基盤となる理工学に関して新たな知見をもたらす研究内容を備えた卒業論文を作成できること。
観点(D)	国際社会において様々な分野の人々と協働できるエンジニアとなるために、必要なコミュニケーション能力（語学力）と、社会や文化、倫理などに関する教養、センスと理解力を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	工学基礎実験	○			
	基礎ゼミ	○	○	○	
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語科目				○
	日本事情科目				○
	線形代数学 I	○			
	微分積分学 I および演習	○			
	物理学基礎	○			
	物理学基礎演習	○			
	化学基礎	○			
	生物学基礎	○			
	線形代数学 II	○			
	微分積分学 II および演習	○			
	数理統計学	○			
	量子力学概論	○			
	電磁気学	○			
地学	○				
地学実験	○				

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門基礎科目	微分方程式 I	○	○		
	微分方程式 II	○	○		
	機械システムデザイン	○	○		
	静力学		○		
	動力学		○		
	機械材料学		○		
	熱工学 I		○		
	機械電子工学 I		○		
	材料力学 I		○		
	流体力学 I		○		
	機械力学 I		○		
	機械加工学 I		○		
	物理数学 I および演習	○	○		
	物理数学 II および演習	○	○		
	機械材料工学 I		○		
	伝熱学 I		○		
	制御工学 I		○		
	機械設計 I		○		
	工学倫理		○		○
	科学技術英語		○		○
関数論	○				

【航空宇宙エネルギーコース】

専門科目

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門科目	熱工学Ⅱ		○		
	材料力学Ⅱ		○		
	機械材料工学Ⅱ		○		
	伝熱学Ⅱ		○		
	弾性力学		○		
	流体力学Ⅱ		○		
	トライボロジー		○		
	エネルギー変換工学		○		
	エネルギーシステム工学		○		
	塑性力学		○		
	航空宇宙流体力学		○		
	構造材料評価法		○		
	有限要素法および演習		○		
	ガスタービン		○		
	自動車環境工学		○		
	宇宙制御工学		○		
	宇宙推進工学		○		
	機械システム特別講義		○		○
	機械製図法		○	○	
	CAD演習		○	○	
	機械システム設計製図		○	○	
	コンピュータプログラミングⅠ	○	○	○	
	コンピュータプログラミングⅡ	○	○	○	
	材力・機力演習	○	○		
	熱流体演習	○	○		
	機械システム工学実験Ⅰ	○	○	○	
	機械システム工学実験Ⅱ	○	○	○	
	機械システム工学実験Ⅲ	○	○	○	
	インターンシップ		○	○	○
	機械システム特別研究Ⅰ		○	○	
	機械システム特別研究Ⅱ		○	○	
	卒業論文				○

【車両制御ロボットコース】

専門科目

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門科目	機械力学Ⅱ		○		
	機械電子工学Ⅱ		○		
	機械設計Ⅱ		○		
	機械加工Ⅱ		○		
	制御工学Ⅱ		○		
	メカトロニクス		○		
	ロボット工学		○		
	光工学		○		
	M E M S		○		
	車両工学		○		
	計測・信号処理工学		○		
	人体運動学		○		
	振動制御および演習		○		
	宇宙制御工学		○		
	生産システム工学		○		
	自動車環境工学		○		
	機械システム特別講義		○		○
	機械製図法		○	○	
	CAD演習		○	○	
	機械システム設計製図		○	○	
	コンピュータプログラミングⅠ	○	○	○	
	コンピュータプログラミングⅡ	○	○	○	
	材力・機力演習	○	○		
	熱流体演習	○	○		
機械システム工学実験Ⅰ	○	○	○		
機械システム工学実験Ⅱ	○	○	○		
機械システム工学実験Ⅲ	○	○	○		
インターンシップ		○	○	○	
機械システム特別研究Ⅰ		○	○		
機械システム特別研究Ⅱ		○	○		
卒業論文				○	

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	工学基礎実験 基礎ゼミ 線形代数学 I 微分積分学 I および演習 物理学基礎 物理学基礎演習 機械システムデザイン	微分方程式 I 線形代数学 II 微分積分学 II および演習 電磁気学	微分方程式 II 化学基礎 生物学基礎 地学 地学実験 物理学 I および演習 コンピュータプログラミング I 機械システム工学実験 I	物理学 II および演習 コンピュータプログラミング II 材力・機力演習 熱流体演習 機械システム工学実験 II	数理統計学 量子力学概論 地学 地学実験 機械システム工学実験 III	関数論	地学 地学実験	
B	基礎ゼミ 機械システムデザイン 静力学 機械製図法	微分方程式 I 動力学 機械材料学 熱工学 I 機械電子工学 I 機械システム特別研究 I	微分方程式 II 材料力学 I 流体力学 I 機械力学 I 機械加工学 I 物理学 I および演習 CAD演習 コンピュータプログラミング I 機械システム工学実験 I	物理学 II および演習 機械材料工学 I 伝熱学 I 制御工学 I 機械設計 I 工学倫理 熱工学 II 材料力学 II 機械力学 II 機械電子工学 II コンピュータプログラミング II 材力・機力演習 熱流体演習 機械システム工学実験 II	伝熱学 II 弾性力学 流体力学 II トライボロジー エネルギー変換工学 エネルギーシステム工学 機械設計 II 機械加工学 II 制御工学 II メカトロニクス ロボット工学 光工学 MEMS 機械システム工学実験 III インターンシップ	機械材料工学 II 塑性力学 航空宇宙流体力学 構造材料評価法 有限要素法および演習 カスタービン 自動車環境工学 宇宙制御工学 宇宙推進工学 車両工学 計測・信号処理工学 人体運動学 振動制御および演習 宇宙制御工学 生産システム工学 自動車環境工学 機械システム特別研究 II	科学技術英語	
C	基礎ゼミ 機械製図法	機械システム特別研究 I	機械システム工学実験 I CAD演習 コンピュータプログラミング I	機械システム工学実験 II コンピュータプログラミング II	機械システム工学実験 III インターンシップ	機械システム設計製図 機械システム特別研究 II	卒業論文	卒業論文
D	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B 科学技術と社会 スポーツ健康科学科目 日本語科目・日本事情科目 リテラシー科目 リテラシー科目 機械システム特別講義	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B スポーツ健康科学科目 日本語科目・日本事情科目 リテラシー科目 機械システム特別講義	科学技術と社会 リテラシー科目	科学技術と社会 工学倫理 リテラシー科目	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B 科学技術と社会 インターンシップ	共生人文社会科学A 共生人文社会科学B 科学技術と社会	科学技術と社会 科学技術英語	科学技術と社会

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	①物理学および数学を中心に自然科学関連の基礎知識を習得していること。②多様かつ複雑な工学的な課題に対して、客観的なデータに基づき、論理的に推論を進めて結論を導くための能力（学習力、分析力）を身につけていること。
観点(B)	①力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、物理数学など物理学の基礎を体系的に理解し、その基本原理を身につけていること。②物理システム工学を展開する際に必要となる技術、スキルを身につけていること。③多様かつ複雑な工学的な課題に対して、物理学的な視点・方法から問題を発見・分析するのに必要な専門知識を身につけていること。
観点(C)	既成の枠にとどまらず、多分野を統合発展させ、新しい分野を開拓する能力（企画設計力、論理的発信力）を身につけていること。
観点(D)	分野を問わず広く社会で直面する課題を、実践的に解決するのに基礎となる教養を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学 共通 教育 科目	工学基礎実験				○
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	英語				○
	第二外国語				○
	スポーツ健康科学				○
	日本語科目				
	日本事情				
	線形代数学 I	○			
	線形代数学 II	○			
	微分積分学 I および演習	○			
	微分積分学 II および演習	○			
	化学基礎	○			
	物理化学	○			
	生物学基礎	○			
地学	○				
地学実験	○				
専門 基礎 科目	微分方程式 I	○			
	関数論	○			
	幾何学	○			
	代数学 I	○			
	力学入門	○	○		
	電磁気学入門	○	○		
	物理システム工学基礎実験	○	○		
	力学 I		○		
	力学演習		○		
	物質科学入門		○		
専門 科目	環境科学		○		
	エネルギー科学		○		
	物理数学 I		○		
	物理数学演習		○		
	物理数学 II		○		
	力学 II		○		
	電磁気学 I		○		
	電磁気学演習		○		
	電磁気学 II		○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門 科目	振動・波動		○		
	熱物理学入門	○	○		
	熱統計力学		○		
	熱統計力学演習		○		
	量子力学入門	○	○		
	量子力学 I		○		
	量子力学演習		○		
	量子力学 II		○		
	コンピュータ基礎実験		○		
	コンピュータ解析および演習		○		
	物理実験学		○		
	電気回路		○		
	電子回路		○		
	計測・制御回路		○	○	
	物理プレゼンテーション I			○	○
	物理プレゼンテーション II			○	○
	物理システム工学実験 I		○	○	
	物理システム工学実験 II		○	○	
	物理システム工学実験 III		○	○	
	物理システム工学実験 IV		○	○	
	波動物理		○		
	フォトンクス		○		
	量子エレクトロニクス		○		
	化学物理		○		
	固体物理 I		○		
	固体物理 II		○		
	量子力学特論		○		
	原子分子物理		○		
	連続体物理		○		
	特別ゼミ		○	○	
	物理システム工学特別講義 I		○		
	物理システム工学特別講義 II		○		
	自由課題実験 I	○		○	
	自由課題実験 II	○		○	
自由課題実験 III	○		○		
自由課題実験 IV	○		○		
卒業論文	○	○	○		

観点	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	線形代数学 I 微分積分学 I および演習 化学基礎 力学入門 電磁気学入門 物理システム工学基礎実験	線形代数学 II 微分積分学 II および演習 特別ゼミ	微分方程式 I 関数論 幾何学 地学 自由課題実験 I	代数学 I 物理化学 生物化学基礎 地学実験 熱物理学入門 量子力学入門 自由課題実験 II	自由課題実験 III	自由課題実験 IV	卒業論文	卒業論文
	力学入門 電磁気学入門 コンピュータ基礎実験 物理システム工学基礎実験	力学 I 力学演習 物理数学 I 物理数学演習 特別ゼミ	力学 II 電磁気学 I 電磁気学演習 物理システム工学実験 I コンピュータ解析および演習 電気回路	物理数学 II 電磁気学 II 振動・波動 熱物理学入門 量子力学入門 物理システム工学実験 II	熱統計力学 熱統計力学演習 量子力学 I 量子力学演習 物理システム工学実験 III 計測・制御回路 波動物理 フォトリクス 連続体物理	量子力学 II 物理システム工学実験 IV 環境科学 エネルギー科学 量子エレクトロニクス 化学物理 固体物理 I 物理実験学	固体物理 II 量子力学特論 原子分子物理 物理システム工学特別講義 I 物理システム工学特別講義 II 卒業論文	卒業論文
B								
C		物理プレゼンテーション I	物理システム工学実験 I 自由課題実験 I	物理システム工学実験 II 自由課題実験 II	計測・制御回路 物理システム工学実験 III 自由課題実験 III	物理システム工学実験 IV 物理プレゼンテーション II 自由課題実験 IV	卒業論文	卒業論文
	工学基礎実験 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 日本語科目・日本事情科目 物理プレゼンテーション I	リテラシー科目 スポーツ健康科学科目 科学技術と社会	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B 物理プレゼンテーション II 科学技術と社会	科学技術と社会
D								

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	電気電子工学の基礎を理解するのに必要な数学・物理学・化学・地学・生物学などの自然科学の基礎的能力を習得していること。
観点(B)	①電気電子工学に関する基礎的な知識を体系的に習得していること。②先端的なシステムエレクトロニクスの構築や電子情報通信技術の創出に必要な専門知識とその活用を身につけていること。③電気電子工学の本質的理解および発展に欠かせない実験・解析スキルを体系的に習得していること。
観点(C)	電気電子工学に関する問題を創造的に解決できるような調査力および議論能力を身につけていること。
観点(D)	①国際的に産業技術の発展に貢献できるだけのコミュニケーション能力とスキルを身につけていること。②自らの考え方を論理的に記述し国際社会に対して分かりやすく伝達する能力を身につけていること。③国際社会において、様々な人々と協調できるコミュニケーション能力と一般教養を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	工学基礎実験				○
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語科目				○
	日本事情科目				○
	線形代数学 I	○			
	微分積分学 I および演習	○			
	物理学基礎および演習	○			
	化学基礎	○			
	生物学基礎	○			
	線形代数学 II	○			
	微分積分学 II および演習	○			
	数理統計学	○			
	量子力学概論	○			
	熱統計力学	○			
	物理化学	○			
	地学	○			
地学実験	○				
専門基礎科目	微分方程式 I	○			
	コンピュータ基礎演習		○		
	基礎電気回路 I および演習		○		
	基礎電気回路 II および演習		○		
	ベクトル解析および演習		○		
	フーリエ解析および演習		○		
	電気電子材料		○		
	電磁気学 I および演習		○		
	電磁気学 II および演習		○		
	電子デバイス I および演習		○		
	基礎電子回路および演習		○		
	論理回路および演習		○		
	プログラミングおよび演習		○		
	微分方程式 II		○		
	関数論		○		

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門科目	回路網理論		○		
	デジタル電子回路		○		
	計測工学		○		
	制御工学		○		
	マイクロプロセッサ		○		
	電気電子機器		○		
	光工学		○		
	光エレクトロニクス		○		
	電子物性工学		○		
	電子デバイス II		○		
	パワーエレクトロニクス		○		
	エネルギーネットワーク工学		○		
	高電圧工学		○		
	電力工学		○		
	信号処理		○		
	画像情報工学		○		
	通信工学		○		
	通信システム工学		○		
	電磁波工学		○		
	高周波伝送工学		○		
計算工学基礎		○			
電気法規および施設管理		○			
論文・文献講読		○		○	
電気電子工学特別講義		○	○	○	
電気電子製図		○			
電子情報工学製図		○			
電気電子工学実験 I		○	○	○	
電気電子工学実験 II A		○	○	○	
電気電子工学実験 II B		○	○	○	
電気電子工学実験 III A		○	○	○	
電気電子工学実験 III B		○	○	○	
卒業論文			○	○	

観点	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	線形代数学 I 微分積分学 I および演習 物理学基礎および演習 化学基礎 生物学基礎	線形代数学 II 微分積分学 II および演習	物理化学 地学 地学実験 数理統計学		量子力学概論 地学 地学実験	熱統計力学	地学 地学実験	
B	微分方程式 I 基礎電気回路 I および演習	コンピュータ基礎演習 基礎電気回路 II および演習 ベクトル解析および演習	フーリエ解析および演習 電気電子材料 電磁気学 I および演習 論理回路および演習 プログラミングおよび演習 微分方程式 II 電子物性工学	電磁気学 II および演習 電気デバイス I および演習 基礎電子回路および演習 プログラミングおよび演習 回路網理論 計測工学 マイクログロブセッサ 電気電子工学実験 I	関数論 ディジタル電子回路 制御工学 光工学 エネルギーネットワーク工学 電力工学 信号処理 通信工学 高周波伝送工学 電気電子工学実験 II A 電気電子工学実験 II B	電気電子機器 光エレクトロニクス 電子デバイス II パワーエレクトロニクス 高圧工学 画像情報工学 通信システム工学 電磁波工学 計算工学基礎 電気電子製図 電気電子工学実験 III A 電気電子工学実験 III B	電気法規および施設管理 論文・文献講読 電子情報工学製図	
C				電気電子工学実験 I	電気電子工学実験 II A 電気電子工学実験 II B	電気電子工学実験 III A 電気電子工学実験 III B	卒業論文	卒業論文
D	工学基礎実験 共生人文社会科学 リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	共生人文社会科学 リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	科学技術と社会 リテラシー科目	電気電子工学実験 I 科学技術と社会 リテラシー科目	電気電子工学実験 II A 電気電子工学実験 II B 科学技術と社会 共生人文社会科学	電気電子工学実験 III A 電気電子工学実験 III B 科学技術と社会 共生人文社会科学	論文・文献講読 卒業論文 科学技術と社会	卒業論文 科学技術と社会

本学科の教育理念に照らし、ディプロマ・ポリシーを達成するために、各授業科目とディプロマ・ポリシーの各観点が以下のような対応関係を持つカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	工学者としての基礎となる、数学を中心とした自然科学に関する基礎学力・知識を習得していること。
観点(B)	①情報工学の専門家としての基礎をなす、コンピュータ科学・コンピュータ工学の基礎理論を身につけていること。②新たな情報技術やシステムを自律的に考案・設計・開発するために必要な専門知識を身につけていること。
観点(C)	①理論に基づいて情報システムを設計し動作させ、その結果を分析して改善する実践的能力を身につけていること。②情報工学の発展に寄与する創造的な研究を行う能力を身につけていること。
観点(D)	国内外で様々な人々と協働できる技術者となるために必要なコミュニケーション能力と教養を身につけていること。

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
全学共通教育科目	工学基礎実験	○			
	科学技術と社会				○
	共生人文社会科学A				○
	共生人文社会科学B				○
	リテラシー科目				○
	スポーツ健康科学科目				○
	日本語				○
	日本事情科目				○
	線形代数学 I	○			
	微分積分学 I および演習	○			
	物理学基礎	○			
	物理学基礎演習	○			
	化学基礎	○			
	線形代数学 II	○			
	微分積分学 II および演習	○			
	数理統計学	○			
	電磁気学	○			
	地学	○			
	地学実験	○			
	専門基礎科目	微分方程式	○		
関数論		○			
幾何学		○			
代数学 I		○			
数学基礎		○			
情報工学概論			○		
プログラミング序論			○		
情報工学基礎演習				○	
プログラミング序論演習				○	
情報化社会と職業					○
科学技術表現法				○	
言語情報文化論				○	

区分	授業科目	観点			
		A	B	C	D
専門科目	プログラミング基礎		○		
	電気・電子回路		○		
	論理回路		○		
	アルゴリズム序論		○		
	情報数学		○		
	情報理論		○		
	プログラミング基礎演習			○	
	ハードウェア実験			○	
	アルゴリズム序論演習			○	
	計算機アーキテクチャ演習			○	
	情報理論演習			○	
	情報数学演習			○	
	情報工学実験1			○	
	情報工学実験2			○	
	情報工学実験3			○	
	論文・文献講読		○		
	卒業論文			○	
	オブジェクト指向プログラミング		○		
	ソフトウェア工学		○		
	情報工学特別講義		○		
	インターンシップ		○		
	集積回路		○		
	オペレーティングシステム		○		
	言語処理系		○		
	計算機ネットワーク		○		
	データベース		○		
	アルゴリズム論		○		
関数プログラミング		○			
人工知能		○			
オペレーションズ・リサーチ		○			
コンピュータグラフィックス		○			
ヒューマンインタフェイス		○			
信号処理論		○			
計測・制御工学		○			
パターン認識		○			
画像工学・コンピュータビジョン		○			

観点	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	工学基礎実験 線形代数 I 微分積分学 I および演習 物理学基礎演習 化学基礎 数学基礎	物理学基礎 線形代数 II 微分積分学 II および演習 物理学基礎 化学基礎 数学基礎	電磁気学 地学 地学実験 微分方程式 関数論 幾何学	数理統計学 代数学 I	地学 地学実験	地学 地学実験	地学 地学実験	
	情報工学概論 プログラミング序論	プログラミング基礎 電気・電子回路 論理回路	アルゴリズム序論 計算機アーキテクチャ基礎 情報数学 情報理論	アルゴリズム論 信号処理論 オブジェクト指向プログラミング	情報工学特別講義 インターンシップ オペレーティングシステム 言語処理系 人工知能 コンピュータグラフィックス ヒューマンインタフェース パターン認識 画像工学・コンピュータビジョン ソフトウェア工学	情報工学特別講義 計算機ネットワーク データベース オペレーション・リサーチ 計測・制御工学 集積回路 関数プログラミング	論文・文献講読	
B								
	情報工学基礎演習 プログラミング序論演習 先進情報工学演習 I	プログラミング基礎演習 ハードウェア実験 先進情報工学実験 I 情報数学演習	アルゴリズム序論演習 計算機アーキテクチャ演習 情報理論演習 先進情報工学実験 II	先進情報工学実験 III 情報工学実験 I	情報工学実験 2 先進情報工学演習 II	情報工学実験 3 先進情報工学実験 IV	卒業論文	卒業論文
C	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目 スポーツ健康科学科目 情報化社会と職業	共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B リテラシー科目 日本語科目・日本事情科目 スポーツ健康科学科目	科学技術と社会 リテラシー科目 リテラシー科目 科学技術表現法 言語情報文化論	科学技術と社会 リテラシー科目 科学技術表現法 言語情報文化論	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会 共生人文社会科学 A 共生人文社会科学 B	科学技術と社会	科学技術と社会
D								

I. 授業について

MEMO

I. 授業について

1. 基本的事項

(1) 学年と学期

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。学年を分けて前学期、後学期の2学期とします。





前学期は4月1日から9月30日までとし、後学期は10月1日から翌年3月31日までとします。

※学年暦に変更があった場合は、WEB 掲示板に変更点を掲示します。

なお、学年暦は毎年更新されます。平成30年度以降の学年暦は、WEB 掲示板および本学ウェブサイトに掲載します。

(2) 平成29年度学年暦

平成29年度 前学期								学部年間予定	
	日	月	火	水	木	金	土		
4月							1	1日 学年開始 5~8日 定期健康診断 7日 入学式 10日 新入生オリエンテーション 11日 授業開始	
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30								
5月								20日 水曜日振替 31日 創立記念日は通常授業	
		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					
6月								17日 木曜日振替	
					1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30			
7月								17日 海の日は通常授業 22日 金曜日振替 7月25日 前学期調整期間 ~7月31日	
							1		
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
8月								8月1日 夏季休業 ~9月30日	
			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				
9月								8月1日 夏季休業 ~9月30日 20日 秋季修了式	
						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		

	土日・祝日		休業期間
	調整期間		土曜開講日及び祝日の授業実施日

平成29年度 後学期								学部年間予定	
月	日	月	火	水	木	金	土	日	月
10月	1	2	3	4	5	6	7	1日 後学期開始 2日 授業開始 4日 秋季入学式	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
11月	1	2	3	4	5	6	7	3日 文化の日は通常授業 10~12日 学園祭 23日 勤労感謝の日は通常授業	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
12月	1	2	3	4	5	6	7	12月23日 冬季休業 ~1月4日	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
1月	1	2	3	4	5	6	7	5日 授業開始 12日 大学入試センター試験準備(休講) 13~14日 大学入試センター試験 1月30日 後学期調整期間(2月2日と2月5日は通常授業のため除く) ~2月7日	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
2月	1	2	3	4	5	6	7	1月30日 後学期調整期間(2月2日と2月5日は通常授業のため除く) ~2月7日 2月8日 春季休業 ~3月31日 25日 個別学力試験(前期)	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
3月	1	2	3	4	5	6	7	2月8日 春季休業 ~3月31日 12日 個別学力試験(後期) 27日 卒業・修了式 31日 学年終了、後学期終了	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						

(3) 授業時間割表

- ①授業は、学期ごとに週単位で編成された授業時間割表に従って行われます。ただし、不定期開講や集中講義の開講日時・場所についてはその都度掲示します。
- ②授業時間割表は、前学期分は3月中旬以降、後学期分は9月中旬頃に配布します。詳しい日時については、WEB 掲示板にて周知します。
- ③授業時間割表の変更、休講、補講などがある場合は、その都度掲示しますので、必ず確認して下さい。
- ④教育課程表の開講予定時期と実際の開講時期が変更されることがあります。時間割表を参照の上、不明な点は教務係に問い合わせして下さい。

(4) 授業時間

授業時間は、年間を通じ次のとおりです。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限
時 間	8:45 } 10:15	10:30 } 12:00	13:00 } 14:30	14:45 } 16:15	16:30 } 18:00	18:15 } 19:45

授業時間は、実験・実習・演習など特定の場合を除き、一区切り 90 分間とします。

交通機関の運休などによる休講

天災等により交通機関が運休し、または運休する予定である旨 JR 中央線（以下交通機関という。）が布告している場合、該当日の授業については次のように取り扱います。

- (1) 午前 6 時までに当該事由による交通機関の運休が解決した場合、平常通り授業を行います。
- (2) 午前 10 時までに当該事由による交通機関の運休が解決した場合、午後の授業から行います。
- (3) 午前 10 時を過ぎても当該事由による交通機関の運休が解決しない場合は、午後も休講とします。学長が登校停止を命じた場合は次の申し合わせによります。

授業等における欠席の取扱いに関する申し合わせ

平成 19 年 12 月 18 日 大学教育委員会承認

大学が責任を負うべき措置として、学長が登校停止を命じた場合は、大学は当該学生にとって不利益とならないよう配慮し、出席停止期間について次のとおり取り扱う。なお、処分による登校停止は、これには含めない。

1. 授業の取扱い

授業については、欠席として扱わない。

2. 定期試験の取扱い

状況に応じ代替の試験又はレポート、中間試験若しくは出席状況等による評価を行い、これをもって定期試験による評価に代える。

(5) 学生証及び学籍番号

学生証は学生の身分を証明するもので、試験その他必要な場合に教職員から提示を求められることがありますので、常に携帯して下さい。また学生証に表示してある学籍番号は在学中同じであり、各種の届出、試験の答案、諸証明書の申込時等に記入する必要があります。

(6) 身体に障がいがある者の受講措置について

身体に障がいがある者で受講上特別な措置及び配慮等を必要とする者は、教育委員に申し出て下さい。

(7) 学科とコースの記号、及びコース決定

1) 各学科には、次のような記号が略称としてつけられています。

生 命 工 学 科 : L
応 用 分 子 化 学 科 : F
有 機 材 料 化 学 科 : G
化 学 シ ス テ ム 工 学 科 : K
機 械 シ ス テ ム 工 学 科 : M
物 理 シ ス テ ム 工 学 科 : P
電 気 電 子 工 学 科 : E
情 報 工 学 科 : S

2) 生命工学科、機械システム工学科、電気電子工学科では下記のいずれかのコースの所属になります。

各コースの受け入れは、学生数に対して、次の割合で行います。

生 命 工 学 科	生 体 機 能 工 学 コ ー ス (L 1)	約 50%
	応 用 生 物 工 学 コ ー ス (L 2)	約 50%
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	航 空 宇 宙 エ ネ ル ギ ー コ ー ス (M 1)	約 50%
	車 両 制 御 ロ ボ ッ ト コ ー ス (M 2)	約 50%
電 気 電 子 工 学 科	シ ス テ ム エ レ ク ト ロ ニ ク ス コ ー ス (E A)	約 50%
	電 子 情 報 通 信 工 学 コ ー ス (E B)	約 50%

学 科	ガイダンス及び志望申告の時期	コース決定の時期
生 命 工 学 科	3 年 次 後 学 期	4 年 次 前 学 期 開 始 時
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	2 年 次 前 学 期	2 年 次 後 学 期 開 始 時
電 気 電 子 工 学 科	2 年 次 後 学 期	3 年 次 前 学 期 開 始 時

(8) 学生への通知について

休講・補講などの授業に関すること、試験に関すること、その他通知事項の周知を **WEB 掲示板** によって行います。したがって、毎日確認して下さい。これは、連絡事項が行き渡らなかつたり、また各種の提出書類等の期限が間に合わなかつたりするなど、学生の不利になることがないようにするためです。

個人情報については、大学が付与したメールアドレスへ連絡しますので、必ず確認して下さい。

1) WEB 掲示板

本学ウェブサイトの「学生生活」のページから見ることができます。

学外からもアクセス可能です。

本学ウェブサイトURL <http://www.tuat.ac.jp/>

〈アクセス方法〉

本学ホームページ → 学生生活・就職進学 → 学生生活

→ 在学生へのお知らせ → WEB 掲示板 → 小金井キャンパスのWEB 掲示板

2) 小金井キャンパス掲示板

WEB 掲示板に掲載することができないクラス分けや多量の周知内容については、

8号館1Fロビー、中央棟1Fロビーに掲示をします。

なお、その場合は、WEB 掲示板に掲示を開始した旨のお知らせをします。

3) 電子メール

呼び出しなど個人宛のお知らせについては、下記メールアドレスへ送信します。

(TUAT - ID) @st.go.tuat.ac.jp

WEB 掲示板のアクセス方法については、155 ページを参照下さい。

2. 授業科目区分と卒業要件

本学工学部を卒業するためには、在学中に一定の単位を修得する必要があります。その単位数については、学則、工学部教育規則その他申し合わせ事項で規定されています。これらについては、学生便覧に記載されていますので、熟読し理解しておいて下さい。

(1) 単位数の算定基準

大学では各授業科目について、その科目を履修し合格と認められた者に、定められた単位を与える単位制度により授業を行っています。授業形態毎の単位の算定基準は以下のとおりとなります。

授業形態	授業時間	単位	合計時間	備考
講義	週2時間	2	90時間	合計時間には授業時間外に必要な学修時間を含みます。※
	週2時間	1	45時間	
外国語・演習	週2時間	1	45時間	
実験・実習・設計製図	週3時間	1	45時間	
	週2時間	1	45時間	
スポーツ健康科学の実技	週2時間	1	45時間	

※例えば、2単位の講義科目では、30時間の授業と、自ら行う60時間の予習・復習が必要となります。本学では、授業時間割上の1コマ(90分の授業)を2時間としていますので、2単位の授業科目では90分の授業が15回行われます。

(2) 授業科目の区分

1) 教育課程上の授業科目区分

本学部の教育課程は授業科目は全学共通教育科目（自然科学系基礎科目を除く）、全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）、専門基礎科目、専門科目及び開放科目からなっています。各科目区分の教育目的は次のとおりです。

①全学共通教育科目（自然科学系基礎科目を除く）

本学の学生に共通する内容の科目からなり、大学生としての普遍的教養・市民的教養の育成を目的としたものです。「大学導入科目」、「持続可能な地球のための科学技術」、「共生人文社会科学」、「リテラシー科目（外国語科目）」、「スポーツ健康科学科目」からなります。

②全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）・専門基礎科目

専門教育の基礎となる科目及び専門教育に密接に関わる教養の育成を目的としたものです。

③専門科目

工学部の専門分野の内容を学ぶ科目で、学生がそれぞれの専門分野のスペシャリストとして活躍できるようになるための素養を身につけます。

④開放科目（整合教育）

成績が優秀で大学院への進学意欲がある学部4年次生に対して、大学院（学府）で開講されている授業科目です。履修に際しては、一定の条件があります。詳細は115ページを参照して下さい。

なお、この科目は、学部の卒業に必要な単位には算入されないの注意して下さい。

2) 開講上の形態による授業区分

教育課程上の授業科目を開講上の形態から、通常科目、通年科目、集中講義、卒業論文に分けて示す場合があります。

- ①通常科目は、前学期または後学期のいずれかで履修する科目です。
- ②通年科目は、前学期から後学期にまたがって1年間で履修する科目です。
- ③集中講義は、一定期間に集中してまたは不定期に行われる科目です。
- ④卒業論文は、4年前学期から1年間の開講となります。

(3) 卒業について

1) 卒業要件

卒業の要件は、次のとおりです。

- ・修業年限を満たす。
- ・卒業に必要な所定の授業科目の単位を修得する。

※修業年限については特例があります。詳しくは33ページを参照して下さい。

2) 卒業要件を満たすには

履修に関する相談は、教務係窓口および学科教育委員が受けますが、卒業要件の確認は学生個人の責任で行われるべきものです。以下を参照し、年度毎に履修計画を見直し、卒業に必要な科目および単位数に不足がないか確認して下さい。

- ①学生便覧、履修案内の教育課程表および所属学科のページを熟読する。
- ②正しく履修登録し、単位を修得する。
- ③成績表、履修案内を参考に修得科目、単位数および不足単位等を確認する。

3) 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには下記表に記載されている単位数が最低でも必要となります。なお、単位数以外にも学科によって必修、選択必修および選択科目などの最低修得条件がありますので、履修案内の教育課程表を必ず参照して下さい。

学科名(略号)	全学共通教育科目 (自然科学系基礎科目を除く)					小計 a	全学共通教育科目 (自然科学系基礎科目)・ 専門基礎科目・専門科目		小計 b	自由 選択 単位 c	合計 a+b+c
	大学導 入科目	持続可 能な地 球のた めの科 学技術	共生人 文社会 科学	リテラシー 科目	スポーツ 健康科学 科目		自然科学 系基礎科 目・専門 基礎科目	専門科目			
L	2	0	6	8	1	17	52	50	102	5以上	124以上
F	2	0	6	8	1	17	41	47	88	19以上	124以上
G	2	0	6	8	1	17	98		98	9以上	124以上
K	2	0	6	8	1	17	42	45	87	20以上	124以上
M	4	0	8	8	1	21	45	44	89	14以上	124以上
P	4	2	8	8	2	24	28	60	88	12以上	124以上
E	2	0	6	8	1	17	54	34	88	19以上	124以上
S	2	0	6	8	1	17	24	65	89	18以上	124以上

なお、自由選択単位に充当できる単位は下記のとおりとなります。

①自分の所属する学科が指定した各科目区分の卒業に必要な最低修得単位数を超えて修得した単位

②自分の所属する学科が指定したカリキュラム以外で修得した単位（例えば他コース・他学科・他学部の科目、学部共通専門科目、単位互換制度により他大学で修得した科目）

※卒業要件に入らない科目もありますので、34 ページを見て確認して下さい。

4) 早期卒業

本学には、3年以上の在学期間で卒業できる「早期卒業制度」があります。

工学部においては、以下の条件1または条件2の項目全てを満たした学生は、早期卒業予定者としての認定を申請することができます。

ただし、再入学者、転入学者、編入学者、転学部（転学科）者、入学前既修得科目認定者および入学前在籍期間認定者は早期卒業の対象にはなりません。

条件1（全学科）

- 96 単位以上を修得していること。
- 2 年次後学期までの各学期すべてにおいてG P Aが 3.5 以上であること。
- 2 年次後学期までの必修科目はすべて修得済みであること。

条件2（物理システム工学科、情報工学科）

- 2 年次までに配当された下記の全科目を修得済みであること。
- 80 単位以上を修得していること。（学期毎に 20 単位以上）
- 2 年次後学期までの各学期すべてにおいてG P Aが 3.0 以上であること。
- 2 年次後学期までの必修科目はすべて修得済みであること。

（物理システム学科）

- ・特別ゼミ、自由課題実験Ⅰ、自由課題実験Ⅱ

（情報工学科）

- ・先進情報工学実験Ⅰ、先進情報工学実験Ⅱ、先進情報工学実験Ⅲ

早期卒業を希望する学生は、詳細について所属学科の教育委員に確認して下さい。

※G P Aについては、履修案内 34 ページを参照して下さい。

3. GPA制度・CAP制度

本学では、GPA制度およびCAP制度を採用しています。

これらの制度は、単位制度（単位数の算定基準，31 ページ参照）の厳格な運用により、履修した授業科目の内容を十分な予習・復習によって真に身につけさせることを目的としています。単位制度の基本とGPA・CAP制度のしくみを理解して、学習成果のあがる履修計画をたてるように心がけて下さい。

(1) GPA制度

GPAとは履修登録した各対象科目の成績を5段階（S，A，B，CおよびD）評価して、それぞれに4，3，2，1および0の評価点を与え、各対象科目の評価点に単位数を乗じた値の総和（GPT）を履修登録した対象科目の単位数の合計で除して算出した値です。計算式は以下のようになります。

$$GPA = \frac{\text{(授業科目の評価点} \times \text{単位数) の総和 (= GPT)}}{\text{授業科目の履修登録単位数}}$$

GPAには、D評価の履修登録単位数も計算式の分母に含まれます。例えば履修を途中で放棄してD評価となった科目がある場合は、GPAの値が大きく低下します。

GPA対象科目の得点計算は、学期の終了時にその学期に行われた授業（GPA対象科目）について行います。

下記の授業科目はGPAの対象科目になりません。

- ・ 入学前既修得認定科目
- ・ 他大学単位互換科目
- ・ 教職課程の教職に関する科目
- ・ 博物館学芸員課程科目
- ・ 開放科目

(2) CAP制度

CAP制度とは1学期に取得できる単位数に上限を定める制度です。履修登録できる授業科目の単位数（合計単位数）の上限は、各学期とも別表「上限①」のとおりです。ただし、成績優秀者（注1）として認定された学生は、認定対象となった学期の次の学期にはより多くの授業科目の履修登録が可能になります（別表「上限②」参照）。

なお、社会人特別選抜制度により入学した3年次編入生には適用されません。

例) 「生命工学科の場合」

1学期あたり26単位まで、成績優秀ならば32単位まで履修登録可能

履修登録単位数の上限の対象となる授業科目は卒業要件の単位となる授業科目とします。ただし、次の各号に掲げる授業科目は除かれます。

- ① 集中講義科目
- ② 通年科目
- ③ 教職課程のうち「教職に関する科目」
- ④ 学芸員資格取得のための博物館に関する授業科目

- ⑤ 入学前既修得科目として単位を認定された授業科目
- ⑥ 卒業論文
- ⑦ 単位互換協定に基づき、他の大学で履修する授業科目
- ⑧ 外国語検定等により単位を認定された授業科目
- ⑨ 編入学により単位を認定された授業科目
- ⑩ 開放科目

(注1) : 成績優秀者

成績優秀者とは、学期中にGPA対象科目を別表（成績優秀者要件1）のとおり修得し、当該学期のGPAが別表（成績優秀者要件2）のとおりである者です。ただし、①再入学・転入学により入学した学生、②本学の単位として認定された「入学前既修得科目単位（学生が本学入学以前に他大学等で修得した単位）」が20単位を超える学生には適用されません。

別 表

	上限①	上限②	成績優秀者要件1	成績優秀者要件2
	1学期に履修登録出来る単位数の上限	成績優秀者が1学期に履修登録出来る単位数の上限	学期中にGPA対象科目を下記の単位数以上修得すること	当該学期のGPAが下記の数値以上であること
生 命 工 学 科	26	32	16	3.0
応 用 分 子 化 学 科	26	32	18	
有 機 材 料 化 学 科	26	32	20	
化学システム工学科	26	32	20	
機械システム工学科	26	32	20	
物理システム工学科	26	32	20	
電気電子工学科	26	32	24	
情 報 工 学 科	26	34	20	

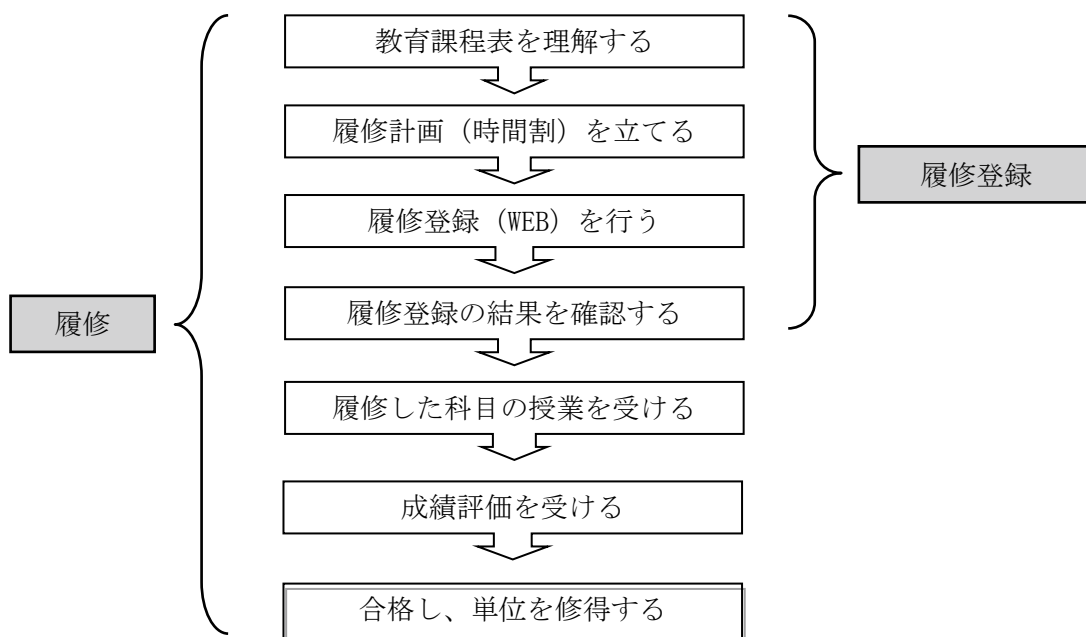
科目区分および卒業要件・GPA・CAP関連表

科目区分	卒業要件	GPA	CAP	備 考
通常の科目	○	○	○	
集中講義科目				GPAは終了学期に算入
通年科目または年度をまたがって開講される科目				GPAは終了学期に算入
卒業論文				GPAは終了学期に算入
外国語検定等による認定科目	×	×	×	
入学前既修得科目				
他大学単位互換科目				
教職課程中「教職に関する科目」				
学芸員博物館科目				
開放科目	×			

4. 履修手続について

(1) 履修とは

『履修』とは決められた教育課程を習い修めることで、『履修登録』から『単位修得』までの一連の流れのことをいいます。『履修登録』とは、工学部が定めるルールに従って、学生各自が履修する科目を『履修登録』し、かつ履修登録確認期間内に本人が責任を持って『履修登録結果を確認』する手続です。



(2) 履修登録の期間

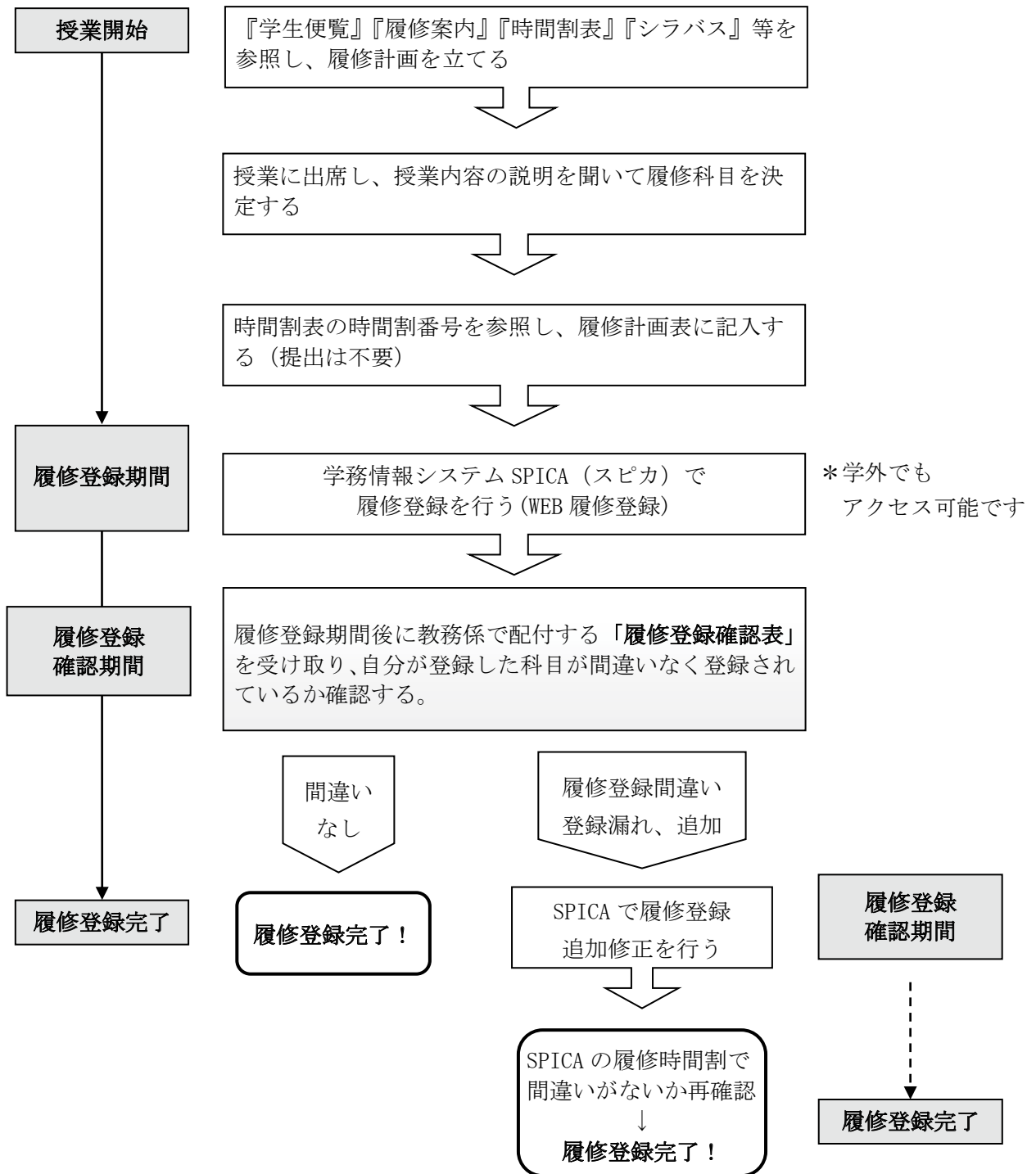
履修登録期間は下記の通りです。具体的な期間はWEB掲示板でお知らせしますので、必ず確認して下さい。

登録学期	授業開講形態の区分	履修登録期間	履修登録確認期間
前学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常科目 ・ 通年科目 ・ 教職科目 ・ 卒業論文 	各学期の 授業開始日 から2週間	履修登録 期間の後 3日間
後学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常科目 ・ 教職科目 		

※ 集中講義の履修登録については、随時WEB掲示板でお知らせします。

(3) 履修登録手続

履修登録手続は、次の手順に従って行って下さい。



WEB 履修登録の方法については、139 ページの SPICA 基本操作手順（学生用）を参照して下さい。また、卒業年次の後期など、履修登録の必要がない場合も、WEB 履修手続が必要になります（147 ページ参照）

(4) 再履修科目、他学部科目、他学科科目、他コース科目、年次外科目について

(再履修科目)

- ・前年度履修したが不合格となった科目を今年度もう一度履修する場合です。
- ・第3年次編入学生の場合、認定されなかった2年次以下の科目は、再履修科目の扱いとなりますので注意して下さい。

(他学科科目・他学部科目)

- ・他学科の専門科目等を履修する場合です。他学科科目で修得した単位数は、自由選択単位となります。ただし、事情により履修が認められない場合があります。
- ・他学部科目についても、扱いは他学科科目に同じです。
- ・他の学科又は農学部で開講する全学共通教育科目のうち、リテラシー科目、スポーツ健康科学科目は他学科科目、他学部科目にはなりません。
- ・再履修の場合に、他の学科又は農学部で開講する全学共通教育科目のうち、リテラシー科目、スポーツ健康科学科目、共生人文社会科学科目を履修したい希望があるときは、授業担当教員に相談して下さい。
- ・申請手続きについて学期毎にWEB掲示板等を通じて追加・変更の情報を告知する場合がありますためご注意ください。

(他コース科目) [2～4年次開講科目に適用]

他コースの専門科目を履修する場合です。他コース科目で修得した単位数は、自由選択単位となります。

(年次外科目)

自分の該当年次以外の科目を再履修科目としてではなく履修する場合です。

(注) これらの科目の履修者を把握するための調査が行なわれることがあります。担当教員又はWEB掲示等の指示に従って下さい。

(5) 履修手続きについての注意事項

- 1) 履修登録は、各自が1年間および半期の履修計画を決める、卒業にも関わってくる最も重要な手続きです。時間割、履修案内、シラバス、WEB 掲示板およびガイダンス時の配付資料等を熟読、また授業に出席し説明を聞いた上で、必ず履修登録期間に登録を行なって下さい。万が一、登録に間違い、漏れ等の不備があった場合は、履修登録確認期間に修正を行なって下さい。期間外の登録は認められません。また、登録されなかった科目は、授業に出席し試験に合格したとしても単位は付与されません。
- 2) 履修登録に際し、オリエンテーションで説明を行う科目がありますので、必ず出席して下さい。
- 3) 重複履修（同一時限に2科目以上重複して履修すること）はできません。
- 4) 既に単位を修得した科目については、再度履修登録することはできません。
- 5) 自分の在学年次よりも上の学年で開講されている科目は、履修できません。（ただし、E科留年生には例外があります。学科のページを参照して下さい。）
- 6) 自分の所属する学科以外の学科に、同一名称科目が開講されていても、自分の所属する学科開講科目を受講して下さい。

5. 試 験

(1) 試験期間

- ・試験は、前学期の終り及び後学期の終りにそれぞれ行われます。（当該年度の学年暦を参照して下さい。）
- ・科目によっては調整期間中に行われるものもあります。
- ・受験では、(2)の受験心得を厳守して下さい。
- ・試験時間の区分は、授業時間（28 ページ参照）と同じです。

(2) 受験心得

受験にあたっては、厳正な態度で臨み、不正な行為は行わないこと。受験中不正行為などがあつたと認められたときは、その行為が発覚した時点から謹慎処分となり、その学期における当該学生の履修した授業科目すべての単位が無効となり、学則により相応の懲戒処分を受けることとなります。

- (1) 受験する学生は、特別の指示のない限り毎試験開始 5～10 分前までに所定の教室に入室すること。
- (2) 特に指示のない限り、指定された座席で受験すること。
- (3) 受験に必要な物品以外は、監督者の指示する場所に置くこと。
- (4) 携帯電話は電源を切って、カバンの中にしまうこと。
- (5) 学生証は、受験中必ず机上に置くこと。
学生証を携帯しない者は、その試験が無効になることがありますので、必ず携帯すること。
- (6) 受験中は、筆記用具類の貸借をしないこと。
- (7) 受験中は、監督者の許可なく試験場外に出ないこと。
- (8) 受験中は、騒音等を発し、他人の受験の妨げとなるようなことはしないこと。
- (9) 試験開始後 30 分以内は、退室をしないこと。
- (10) 30 分以上遅刻した者は、原則として受験することができない。
ただし、事情によっては受験を許可することがありますので、教務係に届け出て、指示をうけること。
- (11) 答案に学科、入学年度、学生証番号、氏名の記載がないと無効になることがあるから、記載の確認をすること。
- (12) 試験時間が終了し、また、終了前に答案を作成し終わったときは、特に指定がない限り、教卓上に提出するか又は監督者に直接手渡して静かに退室すること。
自己の机上に置いて退室しないこと。
- (13) 答案用紙の持ち帰りはしないこと。
- (14) 履修登録している正規受験者以外は入室しないこと。

(3) 成績評価

成績評価の通知は、学務情報システムの SPICA を通じて行われます。

前学期の成績開示は9月中旬、後学期の成績開示は次年度の3月中旬です。具体的な期日は、WEB 掲示板にて周知します。

成績を閲覧し、単位を修得した授業科目を確認し、次学期以降の履修計画をたてる際に参考にして下さい。

1) 成績評価基準

成績は、S・A・B・C・Dで評価を区別します。S・A・B・Cは合格です。不合格及び途中放棄はDとなり、成績表には表示されますが、成績証明書には表示されません。

成績評価の基準は次のとおりとなっています。

S……	100点～90点	到達基準を超えた成果を上げている。
A……	89点～80点	到達基準を十分達成している。
B……	79点～70点	到達基準を達成している。
C……	69点～60点	到達基準をおおむね達成している
D……	59点～0点	到達基準に達していない

なお、到達基準は、単位を修得（合格点：評点で60点以上）するために、満たすべき要件です。到達基準は各科目のシラバスに記載されています。

評 価		評 点	G P A 評価点	成績表への表示	成績証明書への表示
合 格	S	100～90点	4	あり	あり
	A	89～80点	3	あり	あり
	B	79～70点	2	あり	あり
	C	69～60点	1	あり	あり
不 合 格	D	59～0点	0	あり	なし
認 定	認	評価を認定したもの (入学前既修得単位等)	なし	あり	あり
	編認	編入時に認定したもの	なし	あり	あり

※G P Aは成績表には表示されますが、成績証明書には表示されません。

2) 成績確認期間

学期ごとに成績の確認期間が設けられます。確認期間のお知らせは WEB 掲示板にて行います。自分の成績評価に対しての疑問などがある場合は、所定の申請書により、教務係まで申し出て下さい。

3) その他

- ① 合格と認定された成績は、再履修や成績の訂正はできません。
- ② 工学部では1年に1回（5月頃）、原則として保護者に成績表を送付しています。

Ⅱ. 全学共通教育科目について

Ⅱ. 全学共通教育科目について

1. 全学共通教育の理念・目標

東京農工大学は、その基本理念を、「20世紀の社会と科学技術が顕在化させた『持続発展可能な社会の実現』に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進する」(大学憲章)としています。本学は、実験・実習を通じて、研究マインドに裏打ちされた実践的な専門教育を行うことに特色があります。全学共通教育は、自然科学基礎教育のための「TAT I・II」と、「学問のすそ野を広げ、様々な角度から物事を見ることができる能力」や「自分の知識や人生を社会との関係で位置付ける」能力を身に付けることを目指す教養教育から成っています。

教養教育には、外国語教育である「リテラシー科目」、「スポーツ健康科学」に加えて、「持続可能な地球のための科学技術」と「共生人文社会学」という本学独自の科目群が設定されています。これらの科目群においては、「科学技術と社会」「農学と工学の融合」「共生社会の諸問題」「人間と文化」「社会の構造」が取り上げられ、科学技術に対する幅広い理解・専門的知識に社会的・人間的基盤を与えることを目標にしています。以下、科目群ごとの目標と内容を示します。

2. 科目群について

(1) 大学導入科目

工学部の大学導入科目は、全学科必修の「工学基礎実験」と、幾つかの学科で開講される「基礎ゼミ」により構成されています。いずれも、大学受験までに経験してきた受動的な知識蓄積型の学習方法から脱却して、自主的に勉学する方法論を学び取ることが目標としています。実験を通して、あるいは研究室活動の一端に触れて、「新鮮な驚き」を「あくなき探究心」につなげ、科学する心(Understanding Science)を培うことを最終的な目標としています。

1) 工学基礎実験

① 教育の目標と内容

高校教育における物理・化学・生物・地学の科目履修数の統計平均値は1.75科目程度(たとえば物理I・IIの両方で1科目と数える)です。しかしながら、本来は「Scienceは一つ」であり、自然科学はグローバルな総合科目といっても過言ではありません。全学共通教育科目には「TAT I」に分類される基礎科学の共通科目が準備されており、また他学科履修や自由選択科目の制度を利用して、たとえば物理系学科であっても化学や生物を学びなおすことが出来るように設定されています。工学基礎実験では、一つ一つの実験項目が、物理・化学・生物・数理統計・環境安全などの複数の分野が融合された課題になっており、実験を通して「Scienceは一つ」を学ぶことを目標にしています。

② 履修方法と単位の認定について

工学基礎実験は工学部共通の必修の2単位科目です。4月初頭に学科毎に行われる図書館・情報オリエンテーションに続く次の週で、工学基礎実験に関するオリエンテーション・

履修ガイダンス・安全講習を開催しますので必ず出席して下さい。また、履修クラス分けなど掲示に注意して下さい。

③ 履修上の留意点

- (1) オリエンテーション・履修ガイダンス・安全講習会を正当な理由が無く欠席した場合は、以後の履修を認めません。
- (2) 疾病・怪我、交通機関の不通などによる欠席の場合は、所定の手続きを行えば補講実験を行います。(詳細はオリエンテーションでお知らせします。)
- (3) クラス分けは自動的に行われますが、これで履修登録された訳ではありません。
自分で、SPICAにより履修登録を行わないと単位認定されません。
- (4) 実験室では安全指針(実験テキスト参照)にしたがって行動していただきます。重ねて注意されても安全指針を守らない人は、以後の履修を認めません。

2) 基礎ゼミ(機械システム工学科・物理システム工学科のみ)

① 教育の目標と内容

「基礎ゼミ」は1年次前学期に、大学というこれまでとは全く異なる新しい環境での生活に一日も早く慣れ、有意義な学生生活を送るための手助けをするために開講される必修科目です。この科目は、フレッシュマンの皆さんに少人数グループでの対話型授業を通じて、学科の教育研究の全体像をいち早く体感してもらい、4年間にわたる学科開講教育科目についての学習意欲を高めてもらうことを目標とします。基礎ゼミの主な内容は、学科全研究室の見学会、社会で活躍している先輩を講師として招いての「OB・OG講演会」、希望する担当教員の専門的研究に5人程度の少人数グループで取り組む「テーマ研究」です。高等学校までの学習からは想像もできないような工学の幅広さと深さが理解できるでしょう。

② 履修方法と単位の認定について

初回にガイダンスを実施し、日程と内容のあらましを示します。以降は、「研究室見学」、「OB・OG講演会」、「テーマ研究」、全体の「総括」が実施されます。単位の認定は、毎回の授業参加度の状況、研究室見学についての課題レポート作成、OB・OG講演会の内容についての課題レポート作成、各テーマ研究の担当教員から提示された課題への取り組みと達成度などを総合的に評価して決定されます。遅刻・欠席、レポートの未提出は減点対象となります。

③ 履修上の留意点

入学早々で大学・学部・学科に不慣れな段階から始まります。スケジュールは学生グループごとに設定され、実施の場所も回ごとに指定されます。自立的な行動が求められますので、ガイダンス時に配布される資料、また、学科掲示板、学科HP・電子メールを通じての告知に注意することが必要です。2単位の必修科目であることの重みを理解して取り組んで下さい。

(2) 持続可能な地球のための科学技術

本科目群は、MORE SENSE の精神に則り、基礎科学を合目的的に発展させて Green-sustainable Science すなわち持続社会のための科学技術を学ぶために設定されています。環境保全・安全、省エネルギー、炭素資源循環など、21世紀に必要とされる科学技

術を理解し、法規制の下にある現実社会とのかかわりの中でそれらをどのように展開していくべきかの方法論が修得できるよう、8科目程度を開講します。

1) 科学技術と社会

① 教育の目標と内容

基礎科学で培った成果は、そのまま現実社会に適用できるのではなく、さらに「科学技術へと進化させてから」でなければなりません。環境保全・安全、省資源・エネルギー化においては、法規制をはじめとする社会との適合など、自然科学と社会科学を融合させた方法論が必須になります。本科目群は、これら融合領域を学ぶ目的で設定されています。

② 履修方法と単位の認定について

本科目群の各科目は、2単位の選択科目であり、自由選択単位に分類されます。科目によっては集中講義により開講する場合もあり、毎年ではなく隔年開講となっている場合もあります。また履修人数を制限する科目もありますので、掲示などに注意して下さい。概ね、ある程度基礎学力が備わってからの履修を想定しているため、高学年次での受講を勧めます。他の科目と同様にSPICAで履修登録して下さい。

③ 履修上の留意点

シラバスをよく読んで、履修のために必要な基礎学力がどの程度必要なのか把握しておいて下さい。評価は概ね試験によりますが、授業参加度・レポートあるいは講義中のディベートなどを重視する科目もあります。

(3) 共生人文社会科学

① 教育の目標と内容

本学は、21世紀の人类的課題を見据え、人間と自然および人間と人間が共生する「共生持続型社会」の実現に貢献する教養豊かな科学技術者の育成を目指しています。本科目群は、この目的に沿った人文科学・社会科学系の教養科目であり、次の三項目を学生の皆さんの学びの目標としています。

(1)共生持続型社会の前提をなす「社会的共生」に関する現代の諸問題の理解

(2)その根幹をなす人間・文化・社会の基礎的理解

(3)理系学生にとっては異分野の学問である人文科学、社会科学のエッセンスの習得

これらを通して 21 世紀の市民および科学技術者に不可欠の豊かな教養と幅広い多元的視野を形成し、卒業後も共生社会や人文社会科学に関わる教養を自ら発展させる基礎力を蓄えることを目標としています。

② 教育の内容

上記の目的を達成するため、現代の人間と社会の基本的問題、人文科学・社会科学の諸分野の中から、本学学生が学ぶにふさわしい基本的内容を精選し、下記の 14 科目を設定しています。各科目はそれぞれ上記の学びの三目標を含みますが、重点の相違によって、共生人文社会科学 A と共生人文社会科学 B に区分されます。

- ・共生人文社会科学 A：社会的共生に関わって現代の人間・文化・社会の諸問題を理解し、人文社会科学の視点を学びます。
現代倫理論、現代宗教論、多文化共生論、ジェンダー論、共生社会政策論、国際平和論、
- ・共生人文社会科学 B：人間と文化の根本、および社会の基礎構造を理解し、現代の諸問題を通じて人文科学、社会科学のエッセンスを学びます。
《人間と文化》：哲学、文学・芸術学、心理学、教育学
《社会の構造》：日本国憲法、経済学、社会学、歴史学

学生の皆さんの関心に従って、受講科目を選択できます。ただし、以下のように履修条件がありますので、注意して下さい。

- ・共生人文社会科学 A、B あわせて、所属する学科が指定する単位数以上を修得することが必要です。専門教育では、人文社会科学に接する機会は少ないので、共生人文社会科学 A と B、《人間と文化》と《社会の構造》をバランスよく履修することを推奨します。
単位の認定は、科目ごとの基準に従って行われます。

③ 履修上の留意点

- (1) 本科目の履修に際しては、高校までの教育とちがって、学生の皆さんが自ら主体的に学ぶことが、特に強く求められます。
- (2) 特定科目に履修希望者が過度に集中した場合は、履修人数に制限を設けることがあります。

(4) リテラシー科目

リテラシー科目は、それぞれの言語を学習して、文化や思考法の多様性について理解を深め、正確な読解力や効果的な表現力を高めることによって、論文作成やプレゼンテーション能力の基礎を身に付けることを目標とします。

1) 英語

①教育の目標と内容

リテラシー科目の英語では、「ライティング・スキル」、「コミュニケーション・スキル」、「リーディング・スキル」の三つのスキル向上をめざします。

新入生はまず導入部として、1年前期に開講される必修科目 **Integrated English** で、「読む、書く、聞く、話す」の力を総合的に高め、今後の英語使用の基盤を形成します。各スキルを向上させるのに必要なストラテジーを学び、活用できるようにします。

ライティング・スキルに関しては、必修科目として1年次に **Paragraph Writing**、2年次に **Essay Writing** を開講し、自分の考えを英語で的確に表現する力、また一貫した論旨で英語の文章を組み立てる力を身につけます。

コミュニケーション・スキルに関しては、必修科目として1年次に **English Discussion**、2年次に **English Presentation** を開講し、英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすとともに、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。

リーディング・スキルに関しては、必修科目として2年次に **English Reading** を開講し、大学レベルの高度な読解力を養うとともに、自発的なリーディング活動を身につけます。

②履修方法と単位の認定について

英語科目は、必修科目6科目6単位を履修します。必修科目の他に、選択科目として3科目3単位 (**English Exam Preparation Course, Academic Reading, Academic Communication**) を履修することができます。いずれの科目も、2/3以上出席しないと単位は認定されません。また、自らの英語力を知り学習に役立てるため、1年前期、2年後期の計2回、全員が **TOEFL ITP** を受験します。受験日時の詳細については掲示で周知します。

ライティング科目である **Paragraph Writing** および **Essay Writing** は習熟度別クラス編成となり、1年次前期に実施する **TOEFL ITP** のスコアに基づき、クラス分けを行います。2年後期の **English Reading** では、学生が自分の興味・関心に基づいて主体的に選択できるクラス編成をとります。詳細は掲示で周知します。

成績については、毎回の授業への参加度、授業の課題（発表・テスト・レポート）を一定の割合で評価します。2年次後期 **English Reading** では **TOEFL ITP** のスコアを一定比率で算入して評価する予定です。詳細はシラバス及び授業時にお知らせします。

③外国語検定試験に基づく単位認定

下記の英語検定試験で単位認定の資格を取得した人には、2単位を上限として、これまでに単位を取得していない科目の単位を認定します。認定可能な科目、単位数など詳しくは英語教務担当教員に問い合わせてください。認定された場合、その科目の成績評価は、下記の要領で90点（S）または80点（A）となります。

検定試験の成績による成績評価

英語検定試験	認定された場合の成績評価	
	S	A
TOEIC	860 点以上	730-859 点
TOEFL-iBT	100 点以上	79-99 点
実用英語技能検定	1 級	準 1 級

認定科目：下記科目から在学中 2 単位を限度として認定されます。

English Exam Preparation Course (1 単位)

Integrated English (1 単位)	} 1 年次必修科目
Paragraph Writing (1 単位)	
English Discussion (1 単位)	

Essay Writing (1 単位)	} 2 年次必修科目
English Presentation (1 単位)	
English Reading (1 単位)	

(注意)

1. English Exam Preparation Course は 1 ～ 4 年次のいずれの学年でも認定可能です。
2. 必修科目は、開講年次・時期の早い科目から順次認定します。
3. 単位認定の申請の際、各機関の発行する「公式認定証」の添付がない場合は受理しません。

TOEFL, TOEIC は受験日より 2 年以内に申し出ることとします。また TOEFL, TOEIC については「公開テスト」によるもののみとします。

4. 申請時期は 4 月上旬と 10 月上旬の 2 回です。申請期間等は別途掲示します。

2) 第二外国語

① 教育の目標と内容

本学で開講される英語以外の外国語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語を第二外国語と呼びます。

まず、それぞれの言語の簡単な文章を、辞書を使って読解できるようになることが、最初の目標です。次に、グローバル化する現代社会にふさわしく、英語以外の外国語を修得することで、異文化への理解や関心を促し、英語と日本語では得られない多様な情報の収集と発信能力を高めます。さらには、言語一般への理解を深めることを目標としています。

② 履修方法と単位の認定について

工学部生命工学科を除くすべての学科は、同一言語の「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」の中から 2 単位が選択必修です。これを超えて修得した単位は、自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。工学部生命工学科は、全科目自由選択です。

入門は一年かけて完結しますので、各言語の「入門Ⅰ」と「入門Ⅱ」を修得することが、学習の観点からは、望ましいのですが、単位取得状況によっては、「ステップアップ」を含めて必修単位数を満たしてもかまいません。

平成 29 年度木曜日 1 限前学期・後学期に開講されるドイツ語入門Ⅰ・Ⅱは、3 年次編入生用に設置されたクラスのため、1 年生は受講することはできません。

ドイツ語、フランス語、中国語には、「中級」があります。「中級」を履修するためには、「入門Ⅰ」と「入門Ⅱ」を修得していなければなりません。

③ 履修上の留意点

1. 入学手続き時に提出した「第二外国語選択希望調査票」に基づいて、一年次の第一回目の授業までに、各外国語の「入門Ⅰ」のクラスが編成され、掲示されます。自分のクラスを必ず確認して下さい。これに従って、履修登録をして下さい。
2. 1クラス40名程度で編成されますので、不本意ながら、第1希望が通らない学生が、どうしてもでてきてしまいます。その場合でも、残念ながら、他のクラスを選択することはできません。授業を受けても単位はつきません。それでも、指定された以外の外国語を履修したい場合、2年次以上になれば、認められますので、2年次以上で履修して下さい。
3. 辞書の案内を含め、ガイダンスは、第一回目の授業で行います。
4. 各科目とも出席をとります。5回以上欠席すると、成績評価はDとなりますので注意して下さい。
5. 外国人留学生は、第二外国語として母語を選択することはできません。第二外国語の代わりに日本語(2単位まで)を選択することができます。
6. 外国籍の人が母語を第二外国語として履修することは、原則的にできません。特別な事情のある人は、教務係に相談して下さい。

④ 外国語認定試験の成績に基づく単位認定

下記の外国語検定試験で資格を取得した人には該当単位数を認定しますが、認定対象はそれまでに取得していない科目の単位に限られるため、認定可能な単位数が減ってしまう場合もあります。詳しくは第二外国語専任教員に問い合わせして下さい。認定された場合には、その科目の成績評価は、すべて80点(A)となります。

1) 国内の団体が実施する外国語検定試験

- ・ドイツ語技能検定：3級以上—4単位、4級—2単位
- ・実用フランス語技能検定：準2級以上—4単位、3級・4級—2単位
- ・中国語検定：3級以上—4単位、4級—2単位
- ・スペイン語技能検定：3級以上—3単位、4級—2単位
- ・ハンゲル能力検定試験：3級以上—3単位、4級—2単位

2) CEFR(欧州評議会が打ち出した「ヨーロッパ言語共通参照枠」)の運用能力指標に準拠した試験

- ・ゲーテ・インスティトゥート ドイツ語検定試験：
Goethe-Zertifikat B1—2単位、Goethe-Zertifikat B2、C1-C2—4単位
- ・TestDaF(外国語としてのドイツ語テスト：TDN3~5—4単位
- ・フランス国民教育省・フランス語資格試験(DELFDALF)：
DELFD B1—2単位、DELFD B2~DALF C1-C2—4単位
- ・フランス語学力テスト(TCF)：B1—2単位、B2、C1-C2—4単位
- ・中国語：中国語標準検定(HSK)：3級—2単位、4級~6級—4単位
- ・スペイン語：外国語としてのスペイン語検定試験(DELE)：
DELE B1—2単位、DELE B2、DELE C1-C2—4単位
- ・韓国語：韓国語能力試験：4級—2単位、5~6級—4単位

(認定例)

1年生の前学期に「ドイツ語入門Ⅰ」を履修してBの成績をもらい、後学期に単位認定の申請をした場合：

独検3級を取得→残りの3科目がA認定

独検4級を取得→「ドイツ語入門Ⅱ」1科目のみA認定

(注意)

1. 4単位認定の場合は各語「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」「中級」が対象となります。
2. 3単位認定の場合は各語「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」が対象となります。
3. 2単位認定の場合は各語「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」が対象となります。
4. 韓国語能力試験、中国語標準検定(HSK)は、級数が大きくなるほど上級です。
5. 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。

3) 国際コミュニケーション演習

① 教育の目標と内容

リテラシー科目のうち、国際コミュニケーション演習である **Communication Skills for Scientists** 科目は英語を用いた一連の演習を通して、広範な国際感覚を養成する科目です。大学在学中に国際社会に対し幅広い関心を持ち、かつ自文化を深く掘り下げることによって多文化を理解する基礎的な能力を身につけることを目標とします。また、グローバルな分野におけるキャリア形成への意識を高め、将来の研究やビジネスにも役立つコミュニケーション技能を獲得することを目標にしています。

② 履修方法と単位の認定について

第1回目の授業でオリエンテーションを行いますので、必ず出席して下さい。当日、担当教員およびその講義内容を記載したシラバスを配布します。原則として、クラスは30名定員で構成します。授業開始までの流れは、次の通りです。

- (1) オリエンテーション
- (2) 履修登録
- (3) 授業開始

Communication Skills for Scientists は1単位であり、学部1～4年次を対象に自由選択単位として卒業単位に加算できます。毎回の授業への参加度が重視され、1/3以上授業に欠席した場合は単位が認定されません。

③ 履修上の留意点

オリエンテーションの後、SPICAでWEB履修登録を行って下さい。他の科目と同様に、履修登録を行わないと単位が認定されません。

(5) スポーツ健康科学科目

① 教育の目標と内容

スポーツ健康科学科目では、社会生活を送るうえで身に付けておくべき基本的知識及び技能の一環として、人間の身体や健康、スポーツに関する正しい知識を学び、自らの体力とその維持増進方法を実践的に理解するとともに、個々人の目的に応じた身体運動・スポー

ツ活動を実践する能力の修得を目標とします。さらに、身体活動・スポーツの実践に伴う文化的側面の理解、ルールへの遵守や他者との協調等の課題を通じて、集団の中での個人の正しい振る舞いを学び、将来の社会形成に貢献する能力を身に付けることも目標です。

これらの目標を達成するため、スポーツ健康科学科目の3科目(スポーツ健康科学理論、体力学実技、生涯スポーツ実技)はそれぞれの独自性を保ちつつ、有機的に連携しています。各科目の詳細な内容はシラバスを参照して下さい。

② 履修方法と単位の認定について

物理システム工学科を除く全ての学科で、必修科目である体力学実技の1単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。物理システム工学科では、必修の体力学実技の1単位に加えて生涯スポーツ実技、スポーツ健康科学理論のいずれか1単位が選択必修となり、合計2単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。各学科の指定する最低修得単位数を超えて修得した単位は自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。教職免許を取得するためには「体育」科目として2単位が必須です。「体育」科目の履修方法・単位の修得方法については、別途授業時間内に教員が説明します。

各科目の第1週目はオリエンテーションとして、科目の説明、受講クラスや種目等の選択を行います。欠席すると希望のクラス、種目等を選択できない場合があります。実技科目では、4回以上欠席すると成績評価が不合格(D)となります。また、毎年4月に実施される学生定期健康診断を必ず受診して下さい。未受診の学生は、実技科目(体力学実技と生涯スポーツ実技)の履修を認められないことがあります。

③ 履修上の留意点

実技科目の履修に際しては、次のことに留意して下さい。

1. 身体的条件を整えたいうえで授業に臨むようにしましょう。生理的に不適當な状態(不眠、過労、病気等)のとき、心理的に不適當な状態(無気力、意欲減退、協調できない等)のときは、授業への参加を認めないことがあります。
2. ケガをしたらすぐに担当教員に申し出て下さい。一見軽くても重大な傷害は少なくありません。申し出がないと傷害保険が適用されないことがあります。
3. 体育館用のスポーツシューズが必要です。屋外用のスポーツシューズと区別して使用して下さい。なお、スポーツシューズやウェアは、大学の指定するものではありません。運動に適したものを着用し、清潔を保つよう心がけて下さい。
4. 貴重品は各自で保管・管理し、盗難に遭わないよう注意して下さい。更衣室は授業開始10分前に開き、最終授業終了10分後に施錠します。

(6) 日本語科目・日本事情科目

① 教育の目標と内容

日本語科目は、留学生が大学で日本語を使って自学自習できるようになることを目標とします。具体的には、学習に必要な教科書を読む、講義を聞く、レポートを書く、発表するといった活動を、日本語でできるようになることです。日本語科目では、読解、作文、口頭発表、ビデオ等の視聴を通して、高いレベルの日本語能力を育成します。

日本事情Iは、留学生が自国と比較しながら日本の文化や社会に対する理解を深めることを目的としています。授業では、日本人のコミュニケーションの分析を通してその背景にある文化的特徴を理解し、日本人と円滑なコミュニケーションを図るためのストラテ

ジーを学びます。また、日本社会の諸問題を取り上げ、議論を通して多様な観点から考察します。日本事情Ⅱでは、日本における最近の科学技術に関する情報を日本語で理解できるようにすることを目標としています。具体的には、科学的な文章や、ビデオなどを利用して、理解を深め、その後、内容について討論する構成で進めます。

② 履修方法と単位の認定について

日本語・日本事情科目は留学生のための科目です。日本語科目の単位は2単位まで英語の必修単位を除く外国語の単位に振り替えることができます。それ以上履修した場合の単位は自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。日本事情科目の単位は4単位まで、人文社会科目の単位に振り替えることができます。

日本語科目は演習科目です。日本事情科目は講義科目です。いずれの科目も成績は、試験、レポート、授業への参加度等で評価されますが、欠席が1/3以上ある場合は単位は認定されません。

③ 履修上の留意点

日本語Ⅰ、日本語Ⅱの履修を希望される場合は担当教員にご連絡下さい。

高専からの編入生（留学生）が日本語・日本事情の履修を希望するときは、日本語Ⅱや日本事情Ⅱを履修することをすすめています。

(7) TATⅠ・Ⅱ科目

科学技術系大学である本学で学ぶ上で、専門教育の基礎となる自然科学系基礎科目群を「TATⅠ」、専門ではなくても専門教育を受ける上で必要となる他の自然科学基礎科目を「TATⅡ」と定義します。TATⅠは、その学科の専門教育を受講する上で必須であり、TATⅡは専門教育の幅を広げるために設けられています。これらを履修することにより科学全般にわたる基礎学力と融合的視野を獲得することが目標です。

1) 数 学

① 教育の目標と内容

工学系の諸分野において必要とされる数学の基礎学力を身に付けるために、微分積分学、線形代数学、数理統計学を学びます。具体的な内容は以下の通りです。

(1) TATⅠ科目

- ・微分積分学Ⅰおよび演習：いろいろな関数の微分、テイラー展開、不定形の極限值、有理関数の不定積分、広義積分。
- ・線形代数学Ⅰ：行列、行列の階数、連立1次方程式、行列式、逆行列。

(2) TATⅡ科目

- ・微分積分学Ⅱおよび演習：多変数関数、偏微分、2変数関数の極値、重積分、体積・曲面積、級数。
- ・線形代数学Ⅱ：ベクトル空間と線形写像、1次独立と1次従属、基底と次元、固有値と固有ベクトル、実対称行列の対角化。
- ・数理統計学：平均、分散、正規分布、標本、推定、検定。

2) 物理学

① 教育の目標と内容

本科目では、力学の基礎を学習しながら「自然における対象の①観測、②法則性の抽出、

③属性や挙動の予測と検証のループを繰り返してそこに内在する法則を明らかにし、体系的な知識にまとめていく」という物理学に特徴的な考え方や新たな知識を獲得していく方法論を身に付けます。そして、未知の課題を物理学的に分析し、論理的推論により、解決方策を見いだす思考と方法論を獲得します。

3) 化学

① 教育の目標と内容

私たちを取り巻く世界は様々な物質からできています。私たち自身を含む生命体も多くの物質から構成され、思考や運動はそれらの化学反応に基づいています。また、生命・環境・エネルギーなど現代社会の様々な問題の解決には化学の理解が不可欠です。TAT I 化学では、化学の基礎である原子・分子の構造、化学結合、化学反応、酸・塩基、酸化・還元などを学びます。物質の性質の探求を通じて、化学が全ての科学・技術の基盤であることを理解します。

4) 生物学

① 教育の目標と内容

TAT I 生物学の目的は、生物学の基礎とバイオテクノロジーや医学への応用例について学ぶ事です。講義では、生物学の思考法及び応用を紹介することによって、生物学及び生命工学に対する理解を高めます。講義内容は、TAT II の科目群の基礎となるよう以下のテーマを中心に扱います。

1. 生物とは
2. 生物の分類、進化と多様性
3. 遺伝
4. 細胞
5. バイオテクノロジー
6. 医薬と生物学

5) 地学

① 教育の目標と内容

地学に関する以下のテーマを中心に一般的包括的内容の講義と実験の授業を行います。

1. 地学とは？
2. 地球の誕生から現代まで
3. 地球表層の環境：物質の循環
4. 気候変動：過去の変動と原因
5. 地層と化石に残る生物の歴史
6. 宇宙の構造
7. 太陽系・銀河系
8. 活動的銀河中心核と巨大ブラックホール

3. 全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区分	授業科目	単位数	学 科 名											
			生命工学科	応用分子化学科	有機材料化学科	化学システム工学科	機械システム工学科	物理システム工学科	電気電子工学科	情報工学科				
大学導入科目	工学基礎実験	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	基礎ゼミ	2												
持続可能な地球のための 科学技術	科学技術と社会	2												
	安全工学	2												
	特許法	2												
	ベンチャービジネス論	2												
	知的財産権	2												
	技術者倫理	2												
	科学技術コミュニケーション論	2												
工学部共通特別講義()	2													
共生人文社会科学	共生人文社会科学 A													
	現代倫理論	2												
	現代宗教論	2												
	多文化共生論	2												
	ジェンダー論	2												
	共生社会政策論	2												
	国際平和論	2												
	共生人文社会科学 B													
	人間と文化社会の構造	2												
	哲学	2												
文学・芸術学	2													
心理学	2													
教育学	2													
社会学	2													
日本国憲法	2													
経済学	2													
歴史学	2													
英語	Integrated English	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Paragraph Writing	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	English Discussion	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Essay Writing	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	English Presentation	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	English Reading	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	English Exam Preparation Course	1												
	Academic Reading	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Academic Communication	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
リテラシー科目 第2外国語	ドイツ語入門Ⅰ	1												
	ドイツ語入門Ⅱ	1												
	ドイツ語ステップアップ	1												
	ドイツ語中級	1												
	フランス語入門Ⅰ	1												
	フランス語入門Ⅱ	1												
	フランス語ステップアップ	1												
	フランス語中級	1												
	中国語入門Ⅰ	1												
	中国語入門Ⅱ	1												
	中国語ステップアップ	1												
	中国語中級	1												
	スペイン語入門Ⅰ	1												
	スペイン語入門Ⅱ	1												
スペイン語ステップアップ	1													
韓国語入門Ⅰ	1													
韓国語入門Ⅱ	1													
韓国語ステップアップ	1													
国際コミュニケーション演習	Communication skills for Scientists	1												
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2												
	体力学実技	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	生涯スポーツ実技	1												
日本語科目	日本語Ⅰ	2												
	日本語Ⅱ	1												
日本事情科目	日本事情Ⅰ	2												
	日本事情Ⅱ	2												

備考 (1) ◎の授業科目は、必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 ()については、別に定めるテーマから選択するものとする。

Ⅲ. 各学科の教育内容について

Ⅲ. 各学科の教育内容について

1. 生命工学科

(1) 学科の教育内容

生命現象の根底にある分子の挙動に基づいた工学的総合技術である「生命工学」を担う、国際的な技術者・研究者を育成することが本学科の使命です。この目標のために、生命工学科では全学共通基礎科目及び専門基礎科目である「ライフサイエンス基礎」から専門科目までの一貫したカリキュラムに基づいて学んでいきます。

生命工学において取り扱う分野は極めて広範囲であり、また、時代の発展と共に変化しています。本学科では多様で変化する先端領域に対応できる力を身につけるために、基礎から先端領域のトピックまで広範囲な講義・実験を用意しています。主に初めの1年間に開講される全学共通教育科目や専門基礎科目では、数学、物理学、化学、生物学、情報の基礎を学び、4年間学習するための基礎的土台を作ります。1年生後期から始まるライフサイエンス基礎では全学共通基礎科目で学習した各科目に留まらず、それらの科目間の境界領域において生命工学と関連して必要とされている知識を学び、専門科目へ進むための下地を作ります。このことから分かるように、全学共通基礎科目及び専門基礎科目は、満遍なく履修することが要求されます。

2年後期から開始される専門科目は「バイオサイエンス専門科目」と「バイオテクノロジー専門科目」に区分され、それぞれ基礎科目で学習した知識を基に、一層高度な知識を身に付け、生命工学の最先端の領域を科学と技術の観点から理解することを目標としています。特に3年生の前期に開講される「生命工学の最先端Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」は、生命工学科各教官が現在行っている最先端の研究について、科学としての側面はもちろんのこと、その研究に対する社会的要請など多岐に渡る視点から解説を行い、生命工学の先端領域を研究するための考え方を学ぶ、特色ある科目です。また、全学共通教育科目においては、特許法、技術者倫理、ベンチャービジネス論、知的財産権など、生命工学を進める上で必要な科学以外の知識について学ぶことができます。

実験は、1～3年までに「工学基礎実験」「基礎生物学実験」「生命工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を履修します。これらでは、基礎的な器具やソフトウェアから最先端の分析機器のとり扱い方まで実際に触れて学びます。これらの理解を一層進めるために、機器の測定原理や使用方法を学ぶ講義科目、機器分析学、先端機器分析学を用意しています。

生命工学の世界では、最新の情報は英語で発信されています。そのため、英語を理解する力はもちろんのこと、英語で情報を発信する力も必要とされています。そのため、外国人教員による少人数の実践的な講義を含めて、卒業までに少なくとも8～10科目の英語科目を履修できるようにしています。

卒業研究は、4年生の1年間専念すべき科目として用意されており、3年生後期までに学習した内容をもとに、教員の緻密な指導を受けて先駆的な研究を進めます。

(2) コース決定

1) 生命工学科では下記のいずれかのコースの所属になります。

各コースの受け入れは、学生数に対して、次の割合で行います。

生体機能工学コース(L1) 約50%

応用生物工学コース(L2) 約50%

2) コース決定は、学生の志望等を尊重して行われます。コース分けの方法は次のとおりです。

①まず、ガイダンスを行います。ガイダンスには必ず出席して下さい。

②次に、志望調査(予備調査)を行ないます。コース志望を保留することは認められません。

ただし、志望申告の期間に休学中の学生は、対象にはなりません。

③コースの受入定員を超過した場合には、学科会議で慎重に審議して、コースを決定します。

3) ガイダンス及びコース決定の時期はつぎのとおりです。ガイダンスの開催通知や決定コースの連絡はすべて掲示を通じて行いますので、コース分けに該当する年次の学生は十分注意して下さい。

ガイダンス及び志望申告の時期	コース決定の時期
3年次後期	4年次前期開始時

(3) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(57ページ)及び学科課程表(58～59ページ)で確認して下さい。

生命工学科(L)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)												全学共通教育科目(自然科学系基礎科目)・専門基礎科目												合計 (①+②+③+④)			
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術	共生人文社会科学		リテラシー科目		スポーツ健康科学科目		小計①	数学 (TAT I, TAT II) 及び 数学・情報 (専門基礎科目)	物理学 (TAT I, TAT II 及び 専門基礎科目)	化学及び生物学 (TAT I, 専門基礎科目)	ライフサイエンス基礎	小計②	専門科目		小計③	※自由選択単位④									
	必修	選択		必修	選択	必修	選択	必修	選択							必修	選択			必修	選択	必修	選択					
必要単位数	2	0	0	0	0	6	8	0	0	0	1	0	17	0	12	2	4	10	0	4	20	52	40	10	0	50	5以上	124以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(4) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 1) 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 2) 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 1. 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム（SPICA）にて登録すること。
 2. 卒業論文は卒業年次の1月末日までに指導教員に提出し、その審査は各学科で行い、指導教員が成績を評価する。

3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、各学科で決定されます。ガイダンスは各学科から別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

3年次終了時までに関講される全ての必修科目の単位を修得し表で定める科目別必要最低単位数を満たしていること。

区 分	分 類	必要最低単位数
全学共通教育科目 (自然科学系基礎科目を除く)	工 学 基 礎 実 験	2
	共 生 人 文 社 会 科 学	6
	英 語	8
	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 科 目	1
全学共通教育科目 (自然科学系基礎科目)・専門基礎科目	数学 (TAT I、TAT II) 及び 数学・情報 (専門基礎科目)	12
	物理学 (TAT I、TAT II 及び 専門基礎科目)	6
	化学及び生物学 (TAT I 及び 専門基礎科目)	10
	ライフサイエンス基礎	24
専 門 科 目	必 修	22
	選 択 必 修	10
自 由 選 択 科 目		5
合 計		106

※ただし、Academic Reading、生命技術英語、Academic Communicationのうち1単位が取得できていなくても、卒業論文の履修を例外的に認めることがある。

生命工学科 カリキュラムツリー

全学共通教育科目

専門基礎科目

専門科目

数学情報系科目

物理系科目

物理・化学系科目

複合的内容の科目

化学系科目

生物系科目

生物・化学系科目

実験・演習科目

4 後 期				卒業論文	専門科目				
					生体機能工学実験II	生体機能工学演習II	応用生物学実験II	応用生物学演習II	
前 年 期				卒業論文	専門科目				
					生体機能工学実験I	生体機能工学演習I	応用生物学実験I	応用生物学演習I	
3 後 期	人	英	知的財産権	バイオエンジニアリング系科目	環境・計測系科目	生命機能 応用系科目	健康・医療系科目		生命工学実験IV
						免疫工学	身体運動科学概論		
前 年 期	文	第	ベンチャー ビジネス論	バイオプロセス エンジニアリング	レギュラトリー サイエンス	植物工学	生理学I		
				安全工学	マリンバイオ テクノロジー	脳神経科学	生理学II	生命技術英語	
				特許法	先端機器分析学	細胞再生工学	食品・医薬品開発工学	ライフサイエンス 基礎演習II	
				技術者倫理	生命工学の最先端I	生命工学の最先端II	医療・組織工学	生命工学実験III	
		科学技術コミュニ ケーション論	生命工学の最先端III	生命工学の最先端IV					
2 後 期	2			蛋白質科学	地球環境工学	応用ゲノミクス	メディカル ケミストリー	生命科学英語	
				数理統計学	生命無機化学	生命物理化学II	ライフサイエンス 基礎演習I	生命工学実験II	
				関数論	生命分析化学	細胞生物学II			
前 年 期	社	外		機器分析学					
				バイオインフォマ ティクス基礎	量子力学概論	生命有機化学II	分子生物学II	生命工学実験I	
				微分方程式I	生命物理化学I	生命化学II	細胞生物学I		
1 後 期			スポーツ 健康 科学	線形代数学II	光・波動	生命化学I	基礎生物学実験		
				微分積分学II および演習	電磁気学	生命有機化学I	分子生物学I		
前 年 期	会	語	健康 科学	線形代数学I	物理学基礎	基礎生物化学	基礎生態学		
				微分積分学I および演習	化学基礎	生物学基礎	基礎分子生物学	生命技術特別 講義(基礎ゼミ)	
						工学基礎実験			
全学共通教育科目				専門基礎科目				専門科目	

生命工学科

全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区分	授業科目	単位数	開講年次								備考						
			1年次		2年次		3年次		4年次								
			前	後	前	後	前	後	前	後							
全学共通教育科目	大学導入科目	工学基礎実験	2	*									◎	2単位必修			
	科学技術と社会	安全工学	2	*		*		*		*					自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。		
		特許法	2	*		*		*		*							
		ベンチャービジネス論	2		*		*		*		*						
		知的財産権	2		*		*		*		*						
		技術者倫理	2	*		*		*		*		*					
		科学技術コミュニケーション論	2			*		*		*		*					
	工学部共通特別講義()	2															
	共生人文社会科学	共生人文社会科学A	現代倫理論	2	*	*									合計6単位以上を修得すること。		
			現代宗教論	2	*	*											
			多文化共生論	2	*	*											
			ジェンダー論	2						*							
			共生社会政策論	2					*								
		共生人文社会科学B	人間と文化	哲学	2					*	*						
				文学・芸術学	2					*	*						
				心理学	2					*	*						
			社会の構造	教育学	2					*							
				日本国憲法	2	*	*										
				経済学	2	*	*										
				社会学	2	*	*										
				歴史学	2	*	*										
	英語	Integrated English	1	*										◎	8単位以上を修得すること。		
		Paragraph Writing	1		*									◎			
		English Discussion	1		*									◎			
		Essay Writing	1			*								◎			
		English Presentation	1			*								◎			
		English Reading	1				*							◎			
		English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*				
		Academic Reading	1					*		*				◎			
		Academic Communication	1						*		*			◎			
		第2外国語	リテラシー科目	ドイツ語入門Ⅰ	1	*											自由選択とする。 中級は当該言語の入門2単位を履修条件とする。
				ドイツ語入門Ⅱ	1		*										
				ドイツ語ステップアップ	1		*										
				ドイツ語中級	1			*		*							
				フランス語入門Ⅰ	1	*											
	フランス語入門Ⅱ			1		*											
	フランス語ステップアップ			1		*											
	フランス語中級			1			*		*								
	中国語入門Ⅰ			1	*												
中国語入門Ⅱ	1				*												
中国語ステップアップ	1				*												
中国語中級	1					*		*									
スペイン語入門Ⅰ	1			*													
スペイン語入門Ⅱ	1				*												
スペイン語ステップアップ	1				*												
韓国語入門Ⅰ	1			*													
韓国語入門Ⅱ	1		*														
韓国語ステップアップ	1		*														
国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*			※				
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2	*											◎ 1単位以上修得すること。			
	体力学実技	1	*														
	生涯スポーツ実技	1		*													
日本語科目	日本語Ⅰ	2	*		*		*		*					※			
	日本語Ⅱ	1		*		*		*		*				※			
日本事情科目	日本事情Ⅰ	2	*											※			
	日本事情Ⅱ	2		*		*		*		*				※			

- 備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等を対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考						
				1年次		2年次		3年次		4年次								
				前	後	前	後	前	後	前	後							
全学共通教育科目	T A T I 科目 自然科学系基礎科目	数学	線形代数学Ⅰ	(竹林 忠吉)	2	2									※1			
			微分積分学Ⅰおよび演習	原 伸生	3	4												
		物理学	物理学基礎	篠原 恭介	◎2	2											※2	
		化学	化学基礎	櫻井 香里	◎2	2											※3	
	生物学	生物学基礎	小関 良宏	◎2	2													
	T A T II 科目	数学	線形代数学Ⅱ	(與口 卓志)	2		2										※1	
			微分積分学Ⅱおよび演習	村田 実貴生	3	4												
			数理統計学	(宮田 敏)	2				2									
		物理学	量子力学概論	川野 竜司	2			2										※2
			熱力学	中村 暢文	2		2											
電磁気学			上野 智雄	2		2												
地学	地学	(北沢・中島)	2	2	2	2		2		2		2				※4		
	地学実験	(榊原 保志)	1			2		2		2		2						
専門基礎科目	数学・情報	微分方程式Ⅰ	(桧垣 優徳)	2			2									※1		
		関数論	(陸名 雄一)	2				2										
		バイオインフォマティクス基礎	黒田 裕	2			2											
	物理学	光・波動	太田 善浩	2		2											※2	
		生物学	基礎生物化学	津川・浅野	◎2	2												※3
	基礎分子生物学		田中 剛	◎2	2													
	基礎生態学		(非常勤講師)	1	1													
	基礎生物学実験		各教員	◎2		4												
	ライフサイエンス基礎	生命物理化学Ⅰ	中村 暢文	2			2										必修科目 4単位を含め、 24単位以上を修得すること。	
		生命物理化学Ⅱ	中村(暢)・一川	2				2										
		生命有機化学Ⅰ	未定	2		2												
		生命有機化学Ⅱ	長澤 和夫	2			2											
		生命分析化学	中澤 靖元	2				2										
		生命無機化学	中村 暢文	2				2										
		機器分析学	山田 晃世	2			2											
		生命化学Ⅰ	早出・池袋	2		2												
		生命化学Ⅱ	養王田 正文	2			2											
		分子生物学Ⅰ	新垣 篤史	2		2												
		分子生物学Ⅱ	吉野 知子	2			2											
		細胞生物学Ⅰ	稲田 全規	2			2											
細胞生物学Ⅱ		斉藤 美佳子	2				2											
ライフサイエンス基礎演習Ⅰ		各教員	◎2				2											
ライフサイエンス基礎演習Ⅱ	各教員	◎2						2										

備考(1) ◎印の科目授業は、必修とする。

※1 数学及び数学・情報から12単位以上を修得すること。

※2 物理学から必修科目2単位を含め、6単位以上を修得すること。

※3 必修科目10単位を含め、10単位以上を修得すること。

※4 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。

生命工学科

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数				備考
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前	後	前	後	
専門科目	生命工学の最先端Ⅰ	各教員	◎1			2		必修科目 3単位と ○印から 5単位以上を 修得すること。
	生命工学の最先端Ⅱ	各教員	◎1			2		
	生命科学英語	未定	◎1		2			
	蛋白質科学	早出・池袋・黒田	○1		2			
	免疫工学	浅野 竜太郎	○1			2		
	植物工学	山田 晃世	○1			2		
	先端機器分析学	黒田・野口・太田	○1			2		
	地球環境工学	養王田 正文	○1		2			
	生理学Ⅰ	宮浦・稲田	○1			2		
	生理学Ⅱ	宮浦・稲田	○1			2		
	細胞再生工学	斉藤 美佳子	○1			2		
	脳神経科学	(客員教授)	○1			2		
	生命科学特別講義(ゲノム工学)	町田・中村(徳)・中村(史)	1			1		
	生命科学特別講義()		1					
専門科目	生命工学の最先端Ⅲ	各教員	◎1			2		必修科目 3単位と ○印から 5単位以上を 修得すること。
	生命工学の最先端Ⅳ	各教員	◎1			2		
	生命技術英語	(ミギャン)	◎1			2		
	メディシナルケミストリー	長澤・櫻井	○1		2			
	バイオプロセスエンジニアリング	養王田・野口・川野・藤原	○1			2		
	食品・医薬品開発工学	小関・早出・宮浦	○1			2		
	医療・組織工学	中澤・中村(史)	○1			2		
	レギュラトリーサイエンス	斉藤・小関	○1			2		
	生体電子工学	一川 尚広	○1			2		
	マリンバイオテクノロジー	田中(剛)	○1			2		
	応用ゲノミクス	新垣・吉野	○1		2			
	身体運動科学概論	田中(幸)・田中(秀)	○1				2	
	生命技術特別講義(基礎ゼミ)	各教員	1	1				
	生命技術特別講義()		1					
実験・演習	生命工学実験Ⅰ	各教員	◎4		8			
	生命工学実験Ⅱ	各教員	◎4			8		
	生命工学実験Ⅲ	各教員	◎4				8	
	生命工学実験Ⅳ	各教員	◎4				8	
	生命工学特別実験		2					
	※生体機能工学演習Ⅰ	各教員	◎1				2	
	※生体機能工学演習Ⅱ	各教員	◎1				2	
	※応用生物工学演習Ⅰ	各教員	◎1				2	
	※応用生物工学演習Ⅱ	各教員	◎1				2	
	※生体機能工学実験Ⅰ	各教員	◎4				8	
	※生体機能工学実験Ⅱ	各教員	◎4				8	
	※応用生物工学実験Ⅰ	各教員	◎4				8	
	※応用生物工学実験Ⅱ	各教員	◎4				8	
	卒業論文		◎8					

- 備考 (1) ◎印の授業科目は、必修とする。
 (2) ○印の授業科目は、選択必修とする。
 (3) ※の授業科目は、各コースの必修とする。
 (4) 生命科学特別講義及び生命技術特別講義については、開始前に課題名を定め、それぞれ2単位まで開講することがある。
 (5) 3年次後期から研究室に配属する。

生命工学科

コース	教育分野	教 育 研 究	担 当 教 員 (専 任)	研究室所在
生 体 機 能 工 学	生 体 機 能 工 学	動・植物細胞の生体機能の解析、遺伝子情報の解析、生体情報データベースの解析、ナノバイオ的分子設計、X線結晶解析やNMR法を用いる生体高分子構造・物性の分子・原子レベル解析、構造生物学を支援するバイオインフォマティクスなど、分子及び細胞レベルでの生体機能の解明に基づいた工学的応用を展開するための基礎研究を行います。	齊藤 美佳子 黒田 裕 早出 広司 池袋 一典 津川 若子 浅野 竜太郎 宮浦 千里 稲田 全規 太田 善浩 小関 良宏 山田 晃世 平田 美智子 中澤 靖元 川野 竜司	12号館 501室 10号館 201室 11号館 407A室 12号館 401室 11号館 403室 11号館 407室 12号館 508室 12号館 505室 12号館 510室 12号館 407室 12号館 403A室 12号館 505室 12号館 203室 12号館 210室
応 用 生 物 工 学	応 用 生 物 工 学	バイオテクノロジー、マリンバイオテクノロジー、生物磁石等の生物機能の解析、有機化学的合成法及び遺伝子組み換え法、生物物理化学の方法論を駆使した生体高分子物性の高精度な解析、生体内で反応が進行する生体内反応の解析、生物材料の育成・調製をもとに生物機能の特性を分子レベルから解析し、これを応用するための基礎研究を行っています。	田中 剛 吉野 知子 新垣 篤史 中村 暢文 一川 尚広 長澤 和夫 櫻井 香里 田中 幸夫 田中 秀幸 畠山 雄二	11号館 308室 11号館 305室 12号館 302室 12号館 307室 先端産学連携推進センター 303室 10号館 107室 10号館 205室 12号館 428室 12号館 427室 12号館 328室
バ イ オ ソ サ エ テ ィ ー 工 学	バ イ オ ソ サ エ テ ィ ー 工 学	生体機能工学及び応用生物学の教員と協力して行います。	養王田 正文 篠原 恭介	10号館 215室 10号館 217室

2. 応用分子化学科

(1) 学科の教育内容

わたしたちのまわりの物質や生命は、精密な構造を持つ化合物から成り立っており、それらがとりまく環境において相互にかつ密接に関連しています。現在わたしたちが直面している自然や生命、環境、エネルギーに関連した様々な問題を本質的に解決するために、「センター・オブ・サイエンス」としての化学技術がますますその重要性を増しています。本学科の卒業生には、物質を原子・分子レベルで理解し制御できる、世界に通用する研究者・技術者、すなわち「センター・オブ・サイエンス」の中心人物としての活躍が期待されています。このような理念に基づき、応用分子化学科ではバランスのとれた基礎学力の修得と最先端分野の学習により、適応力と独創性が養成される教育システムを準備しています。

特に1～2年次では、高校教育から大学教育へ無理なくステップアップができるように基礎学力の養成を重視し、化学の本質的な理解を可能とするものになっています。また物質と環境のかかわりを理解しながら化学の本質を分子レベルで理解する教育が受けられることも本学科の大きな特徴です。

主に3年次では、最先端分野や最新機器に関する学習も積極的に取り入れ、創造的な研究能力を養うカリキュラムになっています。

4年次では、最新研究設備が設置された先端応用化学講座の各研究室においてフロンティアに位置するテーマを卒業研究として履修します。

数 学 ・ 情 報	コ ン ピ ュ ー タ 化 学	卒 業 論 文
物 理 学	高 分 子 化 学	
化 学 基 礎 演 習	有 機 反 応 論	
化 学 基 礎	生 体 有 機 化 学	
無 機 化 学 I ・ II	反 応 速 度 論	
有 機 化 学 I ・ II ・ III	半 導 体 化 学	
物 理 化 学 I ・ II ・ III	応 用 物 理 化 学	
無 機 分 析 化 学	遷 移 金 属 化 学	
生 物 化 学 I	有 機 機 器 分 析	
環 境 物 質 化 学 概 論	無 機 機 器 分 析	
応用分子化学基礎演習 I ・ II	物 性 化 学	
工 学 基 礎 実 験	量 子 化 学 II	
	先 端 有 機 工 業 化 学	
	エ ネ ル ギ ー 化 学	
	生 物 化 学 II	
	化 学 工 学	
応用分子化学実験 I ・ II ・ III ・ IV、論文・文献講読、応用分子化学演習、先端応用化学演習		

(2) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(65 ページ)及び学科課程表(66～67 ページ)で確認して下さい。

応用分子化学科 (F)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)												全学共通教育科目(自然科学系基礎科目)・専門基礎科目						専門科目		※自由選択単位④	合計 (①+②+③+④)			
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目		スポーツ健康科学科目			小計①		数学 (TAT I, TAT II) 及び 数学・情報(専門基礎科目)		物理学 (TAT I, TAT II 及び専門基礎科目)		化学 (TAT I, 専門基礎科目)		小計②			小計③		
							英語	第2外国語																	必修
必要単位数	2	0	0	0	0	6	6	0	0	2	1	0	17	0	12	1	7	3	18	41	23	24	47	19 以上	124 以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(3) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 1) 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 2) 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 1. 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム (SPICA) にて登録すること。
 2. 卒業論文は卒業年次の1月末日までに指導教員に提出し、その審査は各学科で行い、指導教員が成績を評価する。

3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、各学科で決定されます。ガイダンスは各学科から別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

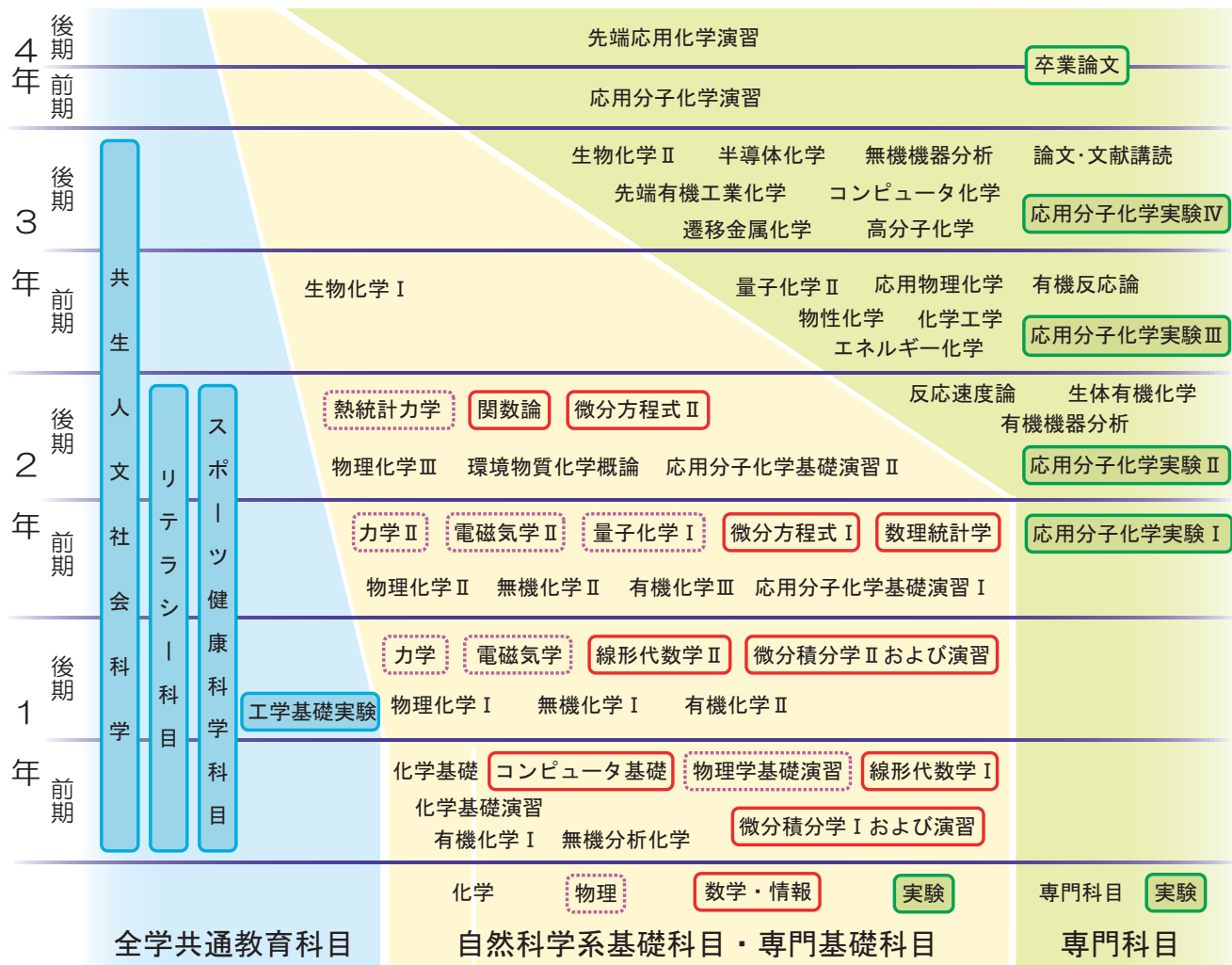
- 1) 3年終了時までには開講される全ての必修科目の単位を修得していること。
- 2) 4年次のみには開講される必修科目（卒業論文、応用分子化学演習、先端応用化学演習）を除いた卒業に必要な単位数（ $124 - 10 = 114$ 単位）中の未修得単位数が 10 単位以下であること。
- 3) 上記の条件の他に、下表の卒業必要最低単位の各分類の未修得単位数が、必修科目を除いてそれぞれ 4 単位以下であり、合計した未修得単位数が 10 単位以下であること。
- 4) 社会人特別選抜で 3 年次に編入学した学生は、個別に別途協議の上、定める。
- 5) 4 年次に卒業論文履修のために配属される研究室と同一の研究室において 3 年次後期に実施される応用分子化学実験Ⅳを履修すること。但し、編入生および過年度生については別途定める。

区 分	分 類	必要最低単位数
全学共通教育科目 (自然科学系基礎科目を除く)	工学基礎実験	2
	共生人文社会科学	6
	英語	6
	第2外国語	2
	スポーツ健康科学	1
全学共通教育科目 (自然科学系基礎科目)・専門基礎科目	数学・情報	12
	物理	8
	化学	21
専 門 科 目		37

応用分子化学科

カリキュラム紹介

応用分子化学科



- 特別講義
 - ・応用分子化学特別講義
 - ・先端応用化学特別講義
- インターンシップ（3年：夏期休業中）

- 自由選択科目
 - ・生物科学
 - ・地学
 - ・地学実験

応用分子化学科

全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区分	授業科目	単位数	開講年次								備考					
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通教育科目	大学導入科目	工学基礎実験	2	*	*							◎	2単位必修			
	科学技術と社会	安全工学	2	*	*	*	*	*	*	*				自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。		
		特許法	2	*	*	*	*	*	*	*						
		ベンチャービジネス論	2	*	*	*	*	*	*	*						
		知的財産権	2	*	*	*	*	*	*	*						
		技術者倫理	2	*	*	*	*	*	*	*						
		科学技術コミュニケーション論	2		*	*	*	*	*	*						
	共生人文社会科学	共生人文社会科学A	工学部共通特別講義()	2												
			現代倫理論	2	*	*										
			現代宗教論	2	*	*										
			多文化共生論	2	*	*										
			ジェンダー論	2						*						
			共生社会政策論	2					*							
		共生人文社会科学B	人間と文化の構造	国際平和論	2					*					合計6単位以上を修得すること。	
				哲学	2					*	*					
				文学・芸術学	2					*	*					
				心理学	2					*	*					
			社会の構造	教育学	2					*						
				日本国憲法	2	*	*									
				経済学	2	*	*									
				社会学	2	*	*									
	歴史学	2	*	*												
	英語	Integrated English	1	*									◎	6単位以上を修得すること。		
		Paragraph Writing	1		*								◎			
		English Discussion	1		*								◎			
		Essay Writing	1			*							◎			
		English Presentation	1			*							◎			
		English Reading	1				*						◎			
		English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*				
		Academic Reading	1					*		*						
		Academic Communication	1						*		*					
		第2外国語	ドイツ語入門Ⅰ	1	*										同一言語の「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」から2単位修得すること。 中級は入門2単位を履修条件とする。	
			ドイツ語入門Ⅱ	1		*										
			ドイツ語ステップアップ	1		*										
			ドイツ語中級	1			*		*							
			フランス語入門Ⅰ	1	*											
			フランス語入門Ⅱ	1		*										
			フランス語ステップアップ	1		*										
			フランス語中級	1			*		*							
			中国語入門Ⅰ	1	*											
中国語入門Ⅱ	1			*												
中国語ステップアップ	1			*												
中国語中級	1				*		*									
スペイン語入門Ⅰ	1		*													
スペイン語入門Ⅱ	1			*												
スペイン語ステップアップ	1			*												
韓国語入門Ⅰ	1		*													
韓国語入門Ⅱ	1			*												
韓国語ステップアップ	1			*												
国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*			※			
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2	*										◎	1単位以上修得すること。		
	体力学実技	1	*													
	生涯スポーツ実技	1		*												
日本語科目	日本語Ⅰ	2	*		*		*		*				※			
	日本語Ⅱ	1		*		*		*		*			※			
日本事情科目	日本事情Ⅰ	2	*										※			
	日本事情Ⅱ	2		*		*		*		*			※			

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考					
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通教育科目 自然科学系基礎科目	TATI科目 数学	線形代数学Ⅰ	(堀口 直之)	2	2										※1		
		微分積分学Ⅰおよび演習	(西村 滋人)	3	4												
		物理学	物理学基礎演習	(矢野 太平)	◎1	2											※2
			化学基礎	齊藤 亜紀夫	2	2											※3
	化学	化学基礎演習	(宮本 淳一)	◎1	2												
		生物学	生 物 科 学	(篠原 良章)	2	2	2	2	2	2						※4	
	TATII科目	数学	線形代数学Ⅱ	(未定)	2	2										※1	
			微分積分学Ⅱおよび演習	(小泉 和之)	3	4											
		物理学	数理統計学	(福田 隆)	2		2										
			熱統計力学	(森下 徹也)	2			2									※2
		地学	電磁気学	(中村 仁)	2	2											
			力学	(宮崎 武)	2	2											
	地学	地学実験	(北沢・中島)	2	2	2	2	2	2	2						※4	
		地学実験	(榊原 保志)	1		2	2	2	2								
専門基礎科目	数学・情報	微分方程式Ⅰ	(堀口)・金城	2		2									※1		
		微分方程式Ⅱ	(大久保)・金城	2			2										
		関数論	前田 博信	2			2										
		コンピュータ基礎	(岩淵 研吾)	2	2												
	物理学	力学Ⅱ	(宮崎 武)	2		2										※2	
		電磁気学Ⅱ	(中村 仁)	2		2											
		量子化学Ⅰ	熊谷 義直	2		2											
	化学	無機化学Ⅰ	野間 竜男	2	2											※3	
		無機化学Ⅱ	齋藤 守弘	2		2											
		有機化学Ⅰ	大栗 博毅	2	2												
		有機化学Ⅱ	山崎 孝	2	2												
		有機化学Ⅲ	平野 雅文	2		2											
		物理化学Ⅰ	熊谷 義直	2	2												
		物理化学Ⅱ	直井 勝彦	2		2											
物理化学Ⅲ		齋藤 守弘	2			2											
無機分析化学		前田 和之	2	2													
生物化学Ⅰ		(岩井 伯隆)	2				2										
環境物質化学概論	(岩崎 雄一)	2			2												
応用分子化学基礎演習Ⅰ	近藤・岩間	◎1		2													
応用分子化学基礎演習Ⅱ	坪内・小峰	◎1			2												

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。

※1 数学および数学・情報から12単位以上を修得すること。

※2 必修科目1単位を含め、物理学から8単位以上を修得すること。

※3 必修科目3単位を含め、化学から21単位以上を修得すること。

※4 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。

応用分子化学科

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	コンピュータ化学	(岩淵 研吾)	2							2				特別講義を除き、必修科目1単位を含め、25単位以上を修得すること。
	高分子化学	(杉山 賢次)	2							2				
	有機反応論	山崎 孝	2						2					
	生体有機化学	齊藤 亜紀夫	2				2							
	反応速度論	森 啓二	2				2							
	半導体化学	村上 尚	2							2				
	応用物理化学	野間 竜男	2						2					
	遷移金属化学	平野 雅文	2							2				
	有機機器分析	大栗 博毅	2				2							
	無機機器分析	村上 尚	2							2				
	物性化学	前田 和之	2						2					
	量子化学Ⅱ	(岩淵 研吾)	2						2					
	論文・文献講読	各教員	◎1							2				
	先端有機工業化学	森 啓二	2							2				
	エネルギー化学	直井 勝彦	2						2					
	生物化学Ⅱ	(岩井 伯隆)	2							2				
	化学工学	ウレッド・レンゴロ	2							2				
	応用分子化学特別講義()	()	2											
	応用分子化学特別講義()	()	2											
	応用分子化学特別講義()	()	2											
	応用分子化学特別講義()	()	2											
	先端応用化学特別講義()	()	2											
先端応用化学特別講義()	()	2												
実 験 ・ 演 習	応用分子化学実験Ⅰ	各教員	◎3			9								
	応用分子化学実験Ⅱ	各教員	◎3				9							
	応用分子化学実験Ⅲ	各教員	◎3					9						
	応用分子化学実験Ⅳ	各教員	◎3						9					
	応用分子化学演習	各教員	◎1							2				
	先端応用化学演習	各教員	◎1								2			
	インターンシップ		2											
卒業論文		◎8												

備考(1) ◎印の授業科目は必修とする。

(2) 応用分子化学特別講義および先端応用化学特別講義については、開始前に課題名を定め、応用分子化学特別講義にあつては合計8単位、先端応用化学特別講義にあつては合計4単位まで開講する。

応用分子化学科

教育分野	教 育 研 究	担 当 教 員 (専 任)	研究室所在
先端応用化学	<p>物質の原子・分子レベルでの理解に基づいたバランスのとれた基礎教育と最先端分野の教育を行う。特に最先端分野や最新機器に関する学習も積極的に取り入れ、創造的な研究能力を養う教育体系になっている。マルチメディア用新材料、半導体材料、ソフトエネルギー、原子レベルの結晶成長、フェインセラミックス、新機能の有機物質や生理活性物質の合成、機能性錯体や分子触媒、生体関連物質の化学、エレクトロニクスの化学、高性能電池環境の化学などを含む。</p>	<p>直井勝彦 熊谷義直 山崎孝 前田和之 平野雅文 大栗博毅 村上尚 齊藤重紀夫 齋藤守弘 森啓二 野間竜男 任利</p>	<p>1号館 N411B 室 1号館 N101 室 1号館 S210 室 1号館 N413B 室 1号館 N514A 室 1号館 N510B 室 1号館 S315 室 1号館 S209 室 1号館 N409 室 1号館 N510A 室 13号館 406 室 12号館 421 室</p>

3. 有機材料化学科

(1) 学科の教育内容

有機材料化学科では、「専門基礎科目」と「専門科目」という区分を越えて全科目間の連携を考慮し、一貫性のあるカリキュラムを用意することによって、目的意識を持ちながら効率的に学習できるように図っています。有機材料化学科のカリキュラムの主な特徴は以下の通りです。

- 1) 有機材料に対する洞察力と設計・評価能力を養うためには、化学はもちろんのこと、物理学および物理化学の諸分野を理解することが必要です。そこで、これらの分野の科目を幅広く学ぶことができるカリキュラムを用意しています。
 - (a) 化学の二つの柱である有機化学と無機化学は、それぞれ I~V、I~III のシリーズが開講されており、体系的に学びます。また、理解をより深め、実践的な力を身につけるために、演習科目を並列して開講しています。
 - (b) 高校時代の学習履歴が多様な物理学系科目については、「力学概論」「振動・波動の物理」「材料電磁気学」「光学基礎」が開講されており、幅広く学びます。さらに、物理学系科目の実践的な力を身につけるために、演習科目である「物理学基礎」を2年次に開講しています。
 - (c) 物理化学系科目については、物理学系科目や化学系科目との相関を鑑み、1年次から3年次までの各学期にバランス良く配置しています。
 - (d) 物理学系科目や物理化学系科目を学ぶための土台となる数学については、自然科学系基礎科目や専門基礎科目に加えて、専門科目にも「ベクトル解析」や「応用解析」を設けています。
- 2) 化学・物理学・数学のような基礎科目の履修進行に合わせ、高分子化学・高分子物理に関連した材料科学系科目を増やし、材料の合成、構造解析、物性、機能設計、環境に配慮した応用について、基礎から応用までを学びます。
- 3) 有機化学系科目、無機化学系科目、物理学系科目、物理化学系科目、有機材料化学専門科目の各群における選択必修科目を万遍なく学ぶことによって、有機材料に対する高い洞察力と設計・評価能力を発揮するための基礎力と応用力を身につけることができます。
- 4) 1年次から3年次までの全学期に実験を設けることで、有機材料化学の実験技術を磨くとともに、課題設定から課題解決までの能動的な学びを継続的に実践し、卒業論文へとつながる主体的に科学を探究する力を身につけます。

3年次配当の実験科目、有機材料化学実験 III および有機材料化学実験 IV、の履修条件を以下の通り設定します。

有機材料化学実験 I および有機材料化学実験 II の単位を修得し、学部 1、2 年次に配当開講されている「自然科学系基礎科目（生物科学・地学・地学実験を除く）」、「専門基礎科目（科学基礎実験を除く）」、「専門科目（有機材料化学実験 I および有機材料化学実験 II を除く）」の総単位のうち、50 単位以上習得していること。

総合実習科目である実験科目は、受講する学生が前年度までに学科で開講した科目の大部分を履修済みであることを想定しています。事故等のリスクを低減し、実験科目を通して深く学ぶためには、コースツリー授業の質と量の揃った履修が前提です。入学・学習開始時か

ら強い意志をもって学習を継続してください。実験をはじめ、必修科目・選択必修科目の単位を修得しないと、翌年の履修に大きく影響します。綿密な履修計画を立てることが必須です。

卒業論文を履修するためには、最低取得単位数の条件が設けられています。この条件を満たすまでは卒業論文（必修科目）を履修できません。

（２）卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表（73 ページ）及び学科課程表（74～75 ページ）で確認して下さい。

有機材料化学科（G）

科目区分	全学共通教育科目（自然科学系基礎科目を除く）												小計①	全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）・専門基礎科目・専門科目			小計②	※自由選択単位③	合計 （①＋②＋③）
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目				スポーツ健康科学科目			必修	選択必修	選択			
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	英語		第2外国語		必修	選択							
							必修	選択	必修	選択				必修	選択				
必要単位数	2	0	0	0	0	6	6	0	0	2	1	0	17	46	28	24	98	9 以上	124 以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

（３）卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 - 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム（SPICA）にて登録すること。
 - 卒業論文は卒業年次の指定された期日までに指導教員に提出し、その審査は当学科で行い、指導教員が成績を評価する。

3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、学科で決定します。ガイダンスは学科から別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

- 1) 3年次終了までに開講されるすべての必修科目および専門基礎科目区分のすべての選択必修科目の単位を修得していること。
- 2) 卒業に必要な単位数に算入できる科目から3年次までに開講された科目の単位を合計104単位以上修得し、そのうち全学共通教育科目（自然科学系基礎科目を除く）を15単位以上、全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）＋専門基礎科目＋専門科目を84単位以上含むこと。
- 3) 3年次に編入学した学生には必ずしも上記の基準を適用しないで、個別に別途協議の上、定める。

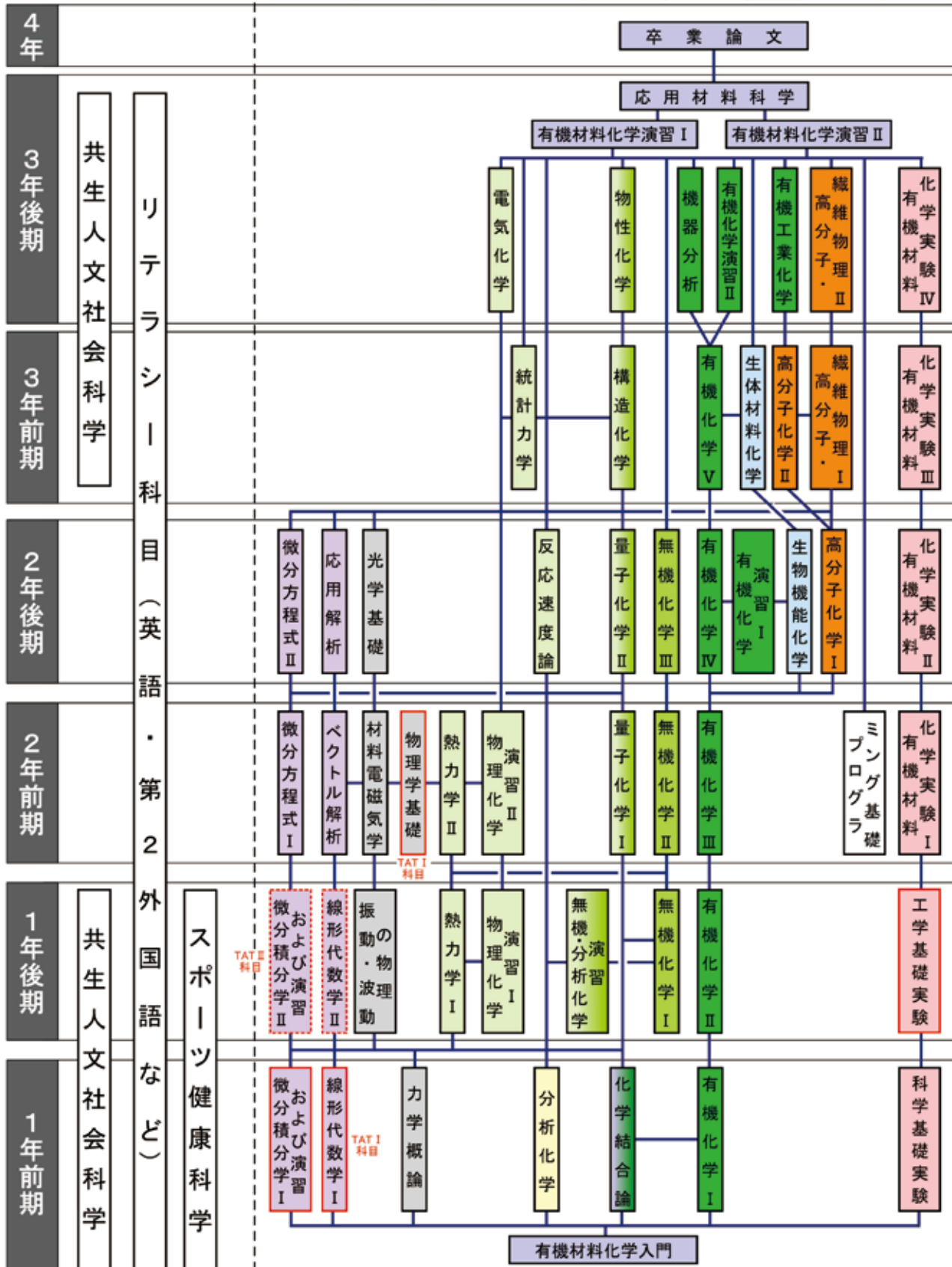
有機材料化学科 カリキュラム

全学共通教育科目

(自然科学系基礎科目を除く)

専門基礎科目および専門科目

数学	物理学	物理化学	無機化学	有機化学	生物化学	高分子・材料科学	実験
----	-----	------	------	------	------	----------	----



全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区分	授業科目	単位数	開講年次								備考					
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通教育科目	大学導入科目	工学基礎実験	2		*								◎	2単位必修		
	科学技術と社会 <small>持続可能な地球のための科学技術</small>	安全工学	2	*	*		*	*							自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。	
		特許法	2	*	*		*	*								
		ベンチャービジネス論	2		*		*	*	*							
		知的財産権	2		*		*	*	*							
		技術者倫理	2	*	*		*	*	*	*						
		科学技術コミュニケーション論	2			*	*	*	*							
	工学部共通特別講義()	2														
	共生人文社会科学 <small>共生人文社会科学A</small>	現代倫理論	2	*	*										合計6単位以上を修得すること。	
		現代宗教論	2	*	*											
		多文化共生論	2	*	*											
		ジェンダー論	2							*						
		共生社会政策論	2						*							
		国際平和論	2						*							
		共生人文社会科学 <small>共生人文社会科学B</small>	人間と文化社会の構造	哲学	2					*	*					
			文学・芸術学	2						*	*					
			心理学	2						*	*					
			教育学	2						*						
			日本国憲法	2	*	*										
			経済学	2	*	*										
	リテラシー科目 <small>第2外国語</small>	英語	Integrated English	1	*									◎	6単位以上を修得すること。	
			Paragraph Writing	1		*								◎		
			English Discussion	1		*								◎		
			Essay Writing	1			*							◎		
			English Presentation	1			*							◎		
			English Reading	1				*						◎		
			English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		
			Academic Reading	1					*		*					
			Academic Communication	1						*		*				
		第2外国語	ドイツ語入門Ⅰ	1	*											同一言語の「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」から2単位修得すること。中級は入門2単位を履修条件とする。
ドイツ語入門Ⅱ			1		*											
ドイツ語ステップアップ			1		*											
ドイツ語中級			1			*		*								
フランス語入門Ⅰ			1	*												
フランス語入門Ⅱ			1		*											
フランス語ステップアップ			1		*											
フランス語中級			1			*		*								
中国語入門Ⅰ			1	*												
中国語入門Ⅱ	1			*												
国際コミュニケーション演習	中国語ステップアップ	1		*												
	中国語中級	1			*		*									
	スペイン語入門Ⅰ	1	*													
	スペイン語入門Ⅱ	1		*												
	スペイン語ステップアップ	1		*												
	韓国語入門Ⅰ	1	*													
	韓国語入門Ⅱ	1		*												
	韓国語ステップアップ	1		*												
国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*			※			
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2	*										◎	1単位以上修得すること。		
	体力学実技	1	*													
	生涯スポーツ実技	1	*													
日本語科目	日本語Ⅰ	2	*	*		*	*	*	*					※		
	日本語Ⅱ	1		*		*	*	*	*					※		
日本事情科目	日本事情Ⅰ	2	*											※		
	日本事情Ⅱ	2		*		*	*	*	*					※		

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

有機材料化学科

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考									
				1年次		2年次		3年次		4年次											
				前	後	前	後	前	後	前	後										
全学共通教育科目 自然科学系基礎科目	TATI科目 数学	線形代数学Ⅰ	合田 洋	◎2	2																
		微分積分学Ⅰおよび演習	富中 英里	◎3	4																
	TATI科目 物理学	物理学基礎	臼井・下村	◎2			2														
		生物学	生物学 (篠原 良章)		2	2	2	2	2	2										※1	
	TATIⅡ科目	数学	線形代数学Ⅱ	合田 洋	2		2														
			微分積分学Ⅱおよび演習	富中 英里	3		4														
		地学	地学 (北沢・中島)		2	2	2	2	2	2	2										※1
			地学実験 (榊原 保志)		1			2		2	2										
専門基礎科目	有機材料化学	有機材料化学入門 (各教員)		◎2	2																
	数学・情報	微分方程式Ⅰ (堀口)・金城		2			2														
		微分方程式Ⅱ (大久保)・金城		2				2													
		プログラミング基礎 (三浦 俊明)		2			2														
	物理学	力学概論 下村 武史		◎2	2																
		振動・波動の物理 臼井 博明		◎2		2															
		材料電磁気学 臼井 博明		◎2			2														
		光学基礎 渡邊 敏行		◎2				2													
	生物学	生物機能化学 村上 義彦		◎2			2														
	物理化学	熱力学Ⅰ 斎藤 拓		◎2		2															
		熱力学Ⅱ 富永 洋一		◎2			2														
		反応速度論 村岡 貴博		◎2				2													
		量子化学Ⅰ (久世 信彦)		◎2			2														
		量子化学Ⅱ 尾崎 弘行		◎2				2													
		物理化学演習Ⅰ 渡邊・富永		◎1		2															
		物理化学演習Ⅱ 帯刀 陽子		◎1			2														
	化学結合論 中田 宗隆		◎2	2																	
	有機化学	有機化学Ⅰ 荻野 賢司		◎2	2																
		有機化学Ⅱ 米澤 宣行		◎2		2															
		有機化学Ⅲ 中野 幸司		◎2			2														
		有機化学Ⅳ 岡本 昭子		◎2				2													
		有機化学演習Ⅰ 米澤 宣行		◎1				2													
		有機化学演習Ⅱ 岡本 昭子		1						2											
	無機化学	無機化学Ⅰ 尾崎 弘行		◎2		2															
		無機化学Ⅱ (藤原 隆司)		◎2			2														
		無機化学Ⅲ 尾池 秀章		◎2				2													
		分析化学 赤井 伸行		◎2	2																
		無機・分析化学演習 村岡・村上		◎1		2															
実験	科学基礎実験 遠藤 理		◎1	4																	

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。

(2) ○印の授業科目は、選択必修とする。

(3) 専門科目と合わせて、必修科目46単位および選択必修科目28単位を含め、98単位以上を修得すること

(ただし、生物科学・地学・地学実験を除く)。

※1 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる

※2 ○印の科目から4単位以上修得すること

※3 ○印の科目から4単位以上修得すること

※4 ○印の科目から2単位以上修得すること

※5 ○印の科目から4単位以上修得すること

有機材料化学科

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	有機材料化学専門科目1	ベクトル解析	金城 謙作	○2			2						※1
		応用解析	畠中 英里	○2				2					
		構造化学	尾崎 弘行	○2					2				
		統計力学	下村 武史	○2					2				
		物性化学	帯刀 陽子	○2						2			
		電気化学	渡邊 敏行	○2						2			
		高分子・繊維物理Ⅰ	斎藤 拓	○2					2				
		高分子・繊維物理Ⅱ	富永 洋一	○2						2			
	有機材料化学専門科目2	機器分析	斎藤 拓	○2						2			※2
		高分子化学Ⅰ	中野 幸司	○2				2					
		高分子化学Ⅱ	尾池 秀章	○2					2				
		有機化学Ⅴ	米澤・尾池	○2					2				
		生体材料化学	村上 義彦	○2					2				
		有機工業化学	荻野 賢司	○2						2			
	有機材料化学専門科目3	有機材料化学演習Ⅰ	村岡・合田	1						2			
		有機材料化学演習Ⅱ	荻野 賢司	1						2			
		応用材料科学	各教員	2						2			
		有機材料化学特別講義Ⅰ(生命化学基礎)	跡見・清水美	2	2								
		有機材料化学特別講義Ⅰ(ソフトマテリアル)	跡見・清水美	2					2				
		有機材料化学特別講義Ⅱ()	()	1									
		有機材料化学特別講義Ⅱ()	()	1									
有機材料化学特別講義Ⅱ()		()	1										
有機材料化学特別講義Ⅱ()		()	1										
有機材料化学実験Ⅰ		遠藤・臼井	◎4			12							
有機材料化学実験Ⅱ		岡本・渡邊	◎4				12						
有機材料化学実験Ⅲ		岡本・兼橋	◎4					12					
有機材料化学実験Ⅳ		兼橋・遠藤	◎4						12				
卒業論文	各教員	◎8											

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。

(2) ○印の授業科目は、選択必修とする。

(3) 自然科学系基礎科目(ただし、生物科学・地学・地学実験を除く)・専門基礎科目と合わせて、必修科目46単位および選択必修科目28単位を含め、98単位以上を修得すること。

(4) 有機材料化学特別講義については、開始前に課題名を定め、合計4単位まで開講することがある

(5) 有機材料化学実験Ⅲ、有機材料化学実験Ⅳおよび卒業論文には履修条件があります。

それぞれ69ページ、71ページを参照のこと。

※1 ○印の科目から、8単位以上修得すること

※2 ○印の科目から、6単位以上修得すること

有機材料化学科

教育分野	教 育 研 究	担当教員 (専 任)	研究室所在
有機材料化学	<p>有機材料の本質を分子レベルおよび分子集合体レベルで洞察する能力を養うため、化学を軸に物理学をも含めた材料科学指向の体系的な基礎・専門教育を行います。特に科学の本質である、「なぜ、その現象が起きるのか」、「今まで学んだ知識を利用して、どのようにしたら世の中に存在しない新しい材料やシステムを創製することができるのか」を卒業論文研究を通して学んでもらいます。</p> <p>高機能性と安全性・低環境負荷性の両立が可能な材料を自由に設計・合成・解析でき、社会で活躍できる研究者および技術者を育成します。</p>	尾池 秀章 米澤 宣行 岡本 昭子 臼井 博明 尾崎 弘行 渡邊 敏行 下村 武史 中野 幸司 村岡 貴博 村上 義彦 斎藤 拓 合田 洋 畠中 英里 古矢 晋一 跡見 順子 ※1 清水 美穂 ※1 帯刀 陽子 荻野 賢司 ※2 富永 洋一 ※2 遠藤 理 兼橋 真二	1号館 105室 4号館 223b室 4号館 248a室 4号館 241室 4号館 120室 4号館 238室 BASE 本館 324室 4号館 217室 4号館 231室 4号館 445室 4号館 448a室 12号館 211室 12号館 228室 12号館 422室 先端科学実験棟 205室 先端科学実験棟 204室 4号館 106室 BASE 本館 323室 4号館 121室 4号館 119室 BASE 本館 324室

※1 寄付講座教員

※2 生物システム応用科学府教員

4. 化学システム工学科

(1) 学科の教育内容

化学システム工学科のカリキュラムは国際的に活躍できるケミカルエンジニアの育成を目指し、数学、物理、化学、生物を基礎として化学工学という学問を修得できるようになっています。さらに、実験と演習に十分な時間をとることにより、内容のより深い理解が進むようにしています。ケミカルエンジニアとしての目的意識が芽生えるように、低学年の時期から専門科目の基礎を履修できるようにしています。2年次から化学工学、システム工学を基礎とし、これに化学プロセス、環境、バイオ、エネルギー、新素材などの分野を専門分野とする教育体系が学習できるようになっています。また、コアとなる専門科目については演習を組み合わせた科目として十分な理解がはかれるよう配慮しています。さらに読解力のみでない英語力及びコンピュータ教育等を通して国際的視野で活躍できるエンジニアの養成を行うことを考えたカリキュラムも用意してあります。これらの科目を通して、(1) 対象の本質を理解し、それを工学的問題として体系的にとらえ、問題を提起し解決する能力、(2) 経済性、安全性、社会及び環境への影響等を考慮しながら問題を提起しそれを解決できる能力、(3) 計画的にまた協力して問題を遂行する能力、(4) 自らの考えを論理的に伝達する能力を習得できるようになっています。履修科目は、積み上げ式であるとともに、相互に密に関連していますので、段階を追って履修して下さい。卒業に必要な最低限の単位数が、下の表のように専門基礎科目、専門科目内の中で決められていますので、十分に注意して履修して下さい。

(2) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(80 ページ)及び学科課程表(81~82 ページ)で確認して下さい。

化学システム工学科 (K)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)												全学共通教育科目(自然科学系基礎科目)・専門基礎科目						専門科目			自由選択単位	合計 (①+②+③+④)			
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目				スポーツ健康科学科目		数学(TAT I, TAT II 及び専門基礎科目)		物理学(TAT I, TAT II), 生物学(TAT I, TAT II), 化学(TAT I, 専門基礎科目)及び化学システム工学基礎		小計②			小計③	※自由選択単位④					
							英語		第2外国語													必修		選択必修	選択	必修
必要単位数	2	0	0	0	0	6	6	0	0	2	1	0	17	0	8	2	4	14	14	42	24	13	8	45	20 以上	124 以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(3) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 1) 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 2) 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 1. 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム（SPICA）にて登録して下さい。
 2. 卒業論文は卒業年次の2月中旬（日にちはそのつど指定）までに指導教員に提出し、その審査は学科で行い、指導教員が最終的に成績を評価します。

3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、12月末までに仮の配属を決定し、そのためのガイダンスは別途指示します。正式な配属は3年次の成績が確定した後の4月初めになります。

②卒業論文履修についての基準

- 1) 4年次に開講される必修科目を除き、すべての必修科目の単位を修得していなければなりません。
- 2) 卒業論文を除いた卒業に必要な単位数（ $124-8=116$ 単位）中の未修得単位数が10単位以下であることが必要です。
- 3) 社会人特別選抜で3年次に編入学した学生には必ずしも上記の基準を適用しないで、個別に別途協議の上、定めています。

化学システム工学科 カリキュラム

化学工学系専門基礎・専門科目, 実験, 演習

4年次	後期	化学工学系専門基礎・専門	演習・実習・表現	卒業論文
	前期	プロセスデザイン工学	エンジニアリングプレゼンテーション	
3年次	後期	バイオプロセス工学 科学技術者倫理 化学プロセス数学	化学システム工学演習 モデリング演習 エンジニアリング製図演習 論文・文献講読	実験 化学システム工学実験Ⅳ 化学システム工学実験Ⅲ 化学システム工学実験Ⅱ 化学システム工学実験Ⅰ
	前期	化学工学熱力学および演習 反応工学および演習 環境工学	インターンシップ 先端プロジェクト演習	
2年次	後期	拡散分離工学および演習 粉粒体プロセス工学 熱統計力学 プロセスシステム工学	化学工学基礎演習Ⅱ	
	前期	移動現象論および演習 システム工学概論 量子力学概論 反応速度論	化学工学基礎演習Ⅰ 科学技術英語	
1年次	後期	化学工学基礎 平衡論 情報科学基礎	基礎プロジェクト演習	工学基礎実験
	前期	化学工学序論		

4年次	自然科学系基礎科目・専門基礎科目・全学共通教育科目			
		物理・数学・材料	化学・生物	全学共通教育科目
3年次	後期	微分方程式Ⅱ 材料科学	生物化学 機器分析化学	分野別科目 リテラシー科目 スポーツ健康科学
	前期			
1年次	後期	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅱ および演習 電磁気学 物理学基礎	生物学基礎 有機化学基礎	
	前期	線形代数学Ⅰ 微分積分学Ⅰ および演習	化学基礎 無機化学基礎	

化学システム工学科

全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区分	授業科目	単位数	開講年次								備考					
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通教育科目	大学導入科目	工学基礎実験	2	*									◎	2単位必修		
	科学技術と社会 <small>持続可能な地球のための科学技術</small>	安全工学	2	*		*		*		*					自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。	
		特許法	2	*		*		*		*						
		ベンチャービジネス論	2		*		*		*		*					
		知的財産権	2		*		*		*		*					
		技術者倫理	2	*		*		*		*		*				
		科学技術コミュニケーション論	2			*		*		*		*				
	工学部共通特別講義（ ）	2														
	共生人文社会科学 <small>共生人文社会科学A</small>	現代倫理論	2	*	*										合計6単位以上を修得すること。	
		現代宗教論	2	*	*											
		多文化共生論	2	*	*											
		ジェンダー論	2							*						
		共生社会政策論	2						*							
		国際平和論	2						*							
		共生人文社会科学B <small>人間と文化社会の構造</small>	哲学	2					*	*						
			文学・芸術学	2					*	*						
			心理学	2					*	*						
			教育学	2					*							
	英語	Integrated English	1	*										◎	6単位以上を修得すること。	
		Paragraph Writing	1		*									◎		
		English Discussion	1		*									◎		
		Essay Writing	1			*								◎		
		English Presentation	1			*								◎		
		English Reading	1				*							◎		
		English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*				
		Academic Reading	1					*		*						
	Academic Communication	1						*		*						
リテラシー科目 <small>第2外国語</small>	ドイツ語入門Ⅰ	1	*											同一言語の「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」から2単位修得すること。中級は入門2単位を履修条件とする。		
	ドイツ語入門Ⅱ	1		*												
	ドイツ語ステップアップ	1		*												
	ドイツ語中級	1			*		*									
	フランス語入門Ⅰ	1	*													
	フランス語入門Ⅱ	1		*												
	フランス語ステップアップ	1		*												
	フランス語中級	1			*		*									
	中国語入門Ⅰ	1	*													
	中国語入門Ⅱ	1		*												
	中国語ステップアップ	1		*												
	中国語中級	1			*		*									
	スペイン語入門Ⅰ	1	*													
	スペイン語入門Ⅱ	1		*												
	スペイン語ステップアップ	1		*												
	韓国語入門Ⅰ	1	*													
韓国語入門Ⅱ	1		*													
韓国語ステップアップ	1		*													
国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*			*			
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2	*											◎ 1単位以上修得すること。		
	体力学実技	1	*													
	生涯スポーツ実技	1		*												
日本語科目	日本語Ⅰ	2	*		*		*		*		*			*		
	日本語Ⅱ	1		*		*		*		*				*		
日本事情科目	日本事情Ⅰ	2	*											*		
	日本事情Ⅱ	2		*		*		*		*				*		

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

化学システム工学科

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考								
				1年次		2年次		3年次		4年次										
				前	後	前	後	前	後	前	後									
全学共通教育科目	TATI科目 自然科学系基礎科目	数学	線形代数学Ⅰ (津田 照久)	02	2														※1	
			微分積分学Ⅰおよび演習	合田 洋	03	4														
		物理学	物理学基礎 (里岡 純子)	2		2														※2
		化学	化学基礎 伏見 千尋	02	2															
		生物学	生物学基礎 寺田 昭彦	2		2														
	TATII科目	数学	線形代数学Ⅱ 原 伸生	02		2														※1
			微分積分学Ⅱおよび演習 (大久保 直人)	03		4														
		物理学	量子力学概論 稲澤 晋	02			2													※2
			熱統計力学 (庄司 雅彦)	02				2												
			電磁気学 (庄司 雅彦)	2		2														
		生物学	生物化学 寺田 昭彦	2						2										
	地学	地学	地学 (北沢・中島)	2	2	2	2		2		2		2							※3
		地学実験	(榊原 保志)	1			2		2		2									
	専門基礎科目	数学	微分方程式Ⅰ (堀口)・金城	02			2													※1
微分方程式Ⅱ (大久保)・金城			2				2													
化学		無機化学基礎 銭 衛華	2	2																
		有機化学基礎 (上野 聡)	2		2															
化学システム工学基礎		有機化学 (矢内 光)	2			2														
		平衡論 伏見 千尋	02		2															
		分析化学 (久保 謙哉)	2			2														
		機器分析化学 銭 衛華	2				2													
		化学工学序論 神谷 秀博	01	2																
		化学工学基礎 ウレット レンゴロ	02		2															※2
		化学プロセス数学 長津 雄一郎	02								2									
		情報科学基礎 滝山 博志	02		2															
		材料科学 (田村 元紀)	2				2													
		システム工学概論 大橋 秀伯	02			2														
科学技術者倫理 (岡村 章)	2										2									
科学技術英語 佐藤・レンゴロ	02			2																
化学工学基礎演習Ⅰ 専任教員	◎1			2																
化学工学基礎演習Ⅱ 専任教員	◎1				2															
基礎プロジェクト演習 専任教員	◎2		4																	

備考 (1) ◎印の授業科目は、必修とする。

(2) ○印の授業科目は、選択必修とする。

※1 ○印の科目8単位以上を含め、数学から10単位以上を修得すること。

※2 必修科目4単位及び○印の科目から14単位以上を含め、32単位以上修得すること。

※3 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。

化学システム工学科

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	拡散分離工学および演習	徳山 英昭	○3			4						必修科目 1単位および○印の科目から13単位以上を含め22単位以上を修得すること。
	粉粒体プロセス工学	神谷 秀博	○2			2						
	反応工学および演習	(亀山 秀雄)	○3				4					
	プロセスシステム工学	山下 善之	○2			2						
	プロセスデザイン工学	山下 善之	2							2		
	移動現象論および演習	滝山・長津	○3		4							
	化学工学熱力学および演習	桜井 誠	○3				4					
	論文・文献講読	専任教員	◎1						2			
	環境工学	細見 正明	2				2					
	反応速度論	稲澤 晋	2		2							
	バイオプロセス工学	細見 正明	2						2			
	先端プロジェクト演習	専任教員	○2				2					
	エンジニアリング製図演習	(山田 靖)	2						4			
特別講義	化学システム工学特別講義()	(非常勤講師)	2									
	化学システム工学特別講義()	(非常勤講師)	2									
	化学システム工学特別講義()	(非常勤講師)	2									
	化学システム工学特別講義()	(非常勤講師)	2									
	化学工学特別講義()	(非常勤講師)	2									
	化学工学特別講義()	(非常勤講師)	2									
実験・演習	化学システム工学演習	専任教員	◎1					2				
	エンジニアリングプレゼンテーション	(浮島・小田切)	◎1						2			
	モデリング演習	専任教員	◎1					2				
	化学システム工学実験Ⅰ	専任教員	◎3		9							
	化学システム工学実験Ⅱ	専任教員	◎3			9						
	化学システム工学実験Ⅲ	専任教員	◎3				9					
	化学システム工学実験Ⅳ	専任教員	◎3					9				
	インターンシップ	専任教員	2				2					
卒業論文	専任教員	◎8										

- 備考 (1)◎印の授業科目は、必修とする。
 (2)○印の授業科目は、選択必修とする。
 (3)化学システム工学特別講義及び化学工学特別講義については、開始前に課題名を定め、化学システム工学特別講義にあっては合計8単位、化学工学特別講義にあっては合計4単位まで開講する。

化学システム工学科

教育分野	教 育 研 究	担当教員	研究室所在
環境 ・ エ ネ ル ギ ー 化 学 工 学	<p>21世紀は、環境とエネルギーを考えた製品やシステムが求められています。特に、工学分野における化学と化学技術がこのような使命と責務を果たすために、“what to make”に重点を置く基礎化学、応用（工業）化学と、主として“how to make”に重点を置く化学工学が、両者の特徴・多様性を有機的に統合した「化学の工学」の体系に基づく環境とエネルギーを考えた教育を行います。研究は、排ガス、排水、廃棄物などを無害化する技術開発とともに、そのような有害物質を排出しない新しいクリーンなプロセスやクリーンなエネルギーの開発や化石燃料の消費を抑制するための省エネルギー技術、高度分離技術、バイオテクノロジー技術の研究開発を行っています。このような仕事に従事できる創造力と開発力の豊かな研究者・技術者を育成します。</p>	細見 正明 山下 善之 滝山 博志 桜井 誠 徳山 英昭 寺田 昭彦 伏見 千尋 長津 雄一郎 大橋 秀伯 佐藤 容子 神谷 秀博 銭 衛華 ウレット レンゴロ 稲澤 晋	4号館 321室 13号館 804室 BASE本館 229室 4号館 319室 1号館 215室 4号館 320室 4号館 322室 4号館 317室 4号館 318室 12号館 312室 BASE本館 223室 1号館 115室 BASE本館 224室 BASE本館 232室

5. 機械システム工学科

(1) 学科の教育内容

現代社会では、機械システム工学が関わる領域は多岐にわたり、かつそれらが高度化しています。そこで、社会で必要とされる専門性を考慮し、かつ各自の興味、学習意欲に十分に答えられるように、機械システム工学の分野をハードウェア的な色合いの強い分野とソフトウェア的な色合いの強い分野の2大グループに分類し、それぞれを「航空宇宙エネルギーコース」「車両制御ロボットコース」として以下に述べる教育を行います。

1) コース分けについて

コース分けされたカリキュラムは2年次後学期から開始します。したがって、2年次前学期まではコース分けせずに全員同じカリキュラムに従い、2年次後学期以降は各自どちらかのコースに所属し、そのコース向けカリキュラムに従うこととなります(自分の所属ではないコース向けに開講されている科目の単位は「自由選択単位」として卒業に必要な単位数に算入されます)。

それぞれのコース定員は学科定員の約半数です。コース分けのガイダンス・志望調査は2年次前学期に行われ、コース分け決定は2年次後学期開始時となります。

2) 自然科学系基礎科目・専門基礎科目

この区分の科目はコース別専門教育に必要な「基礎体力」を養うための科目です。工学系の学生として備えるべき基礎的知識・教養を修得するための「自然科学系基礎科目」に加えて、それらの知識・教養を下地とし、かつ、高度なコース別専門教育へ無理なく取りくむことが可能となるように用意された「専門基礎科目」を設けています。

この区分に含まれるほとんどの科目は2年次後学期までに開講されます。好奇心の対象を可能な限り広げるためにも、積極的に受講することを期待します。

3) 学科専門科目

1年次ではエンジニアとして必要なセンスを身に付ける準備として、機械製図法および機械システム特別研究Ⅰが開講されます。

2年次後学期より「航空宇宙エネルギーコース」「車両制御ロボットコース」にコース分けされた学科専門教育を実施します。各コース向けの講義科目以外に、エンジニアとして必要なセンスを磨き、ツールを修得することを目的として、機械システム工学実験、機械システム設計製図、CAD演習などが開講されます。

なお、2年次には、コンピュータプログラミングⅠ、Ⅱ、3年次には機械システム特別研究Ⅱ、そして、学部教育の総仕上げとして、4年次に卒業論文が実施されます。いずれも、各学生が与えられた研究テーマについて、自分で計画を立て、実験・解析を行い、考察・議論を行う科目です。

(2) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(87 ページ)及び学科課程表(88～90 ページ)で確認して下さい。

機械システム工学科 (M)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)												全学共通教育科目(自然科学系基礎科目)・専門基礎科目				小計②	専門科目		小計③	※自由選択単位④	合計 (①+②+③+④)	
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目		スポーツ健康科学科目		自然科学系基礎科目	専門基礎科目	必修	選択									
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	英語	第2外国語	必修	選択													
必要単位数	4	0	0	0	0	8	6	0	0	2	1	0	21	11	2	0	32	45	22	22	44	14 以上	124 以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(3) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 1) 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 2) 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 1. 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム (SPICA) にて登録すること。
 2. 卒業論文は卒業年次の指定された期日までに指導教員の承認を経て学科に提出し、その審査は当学科で行い、指導教員が成績を評価する。

3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

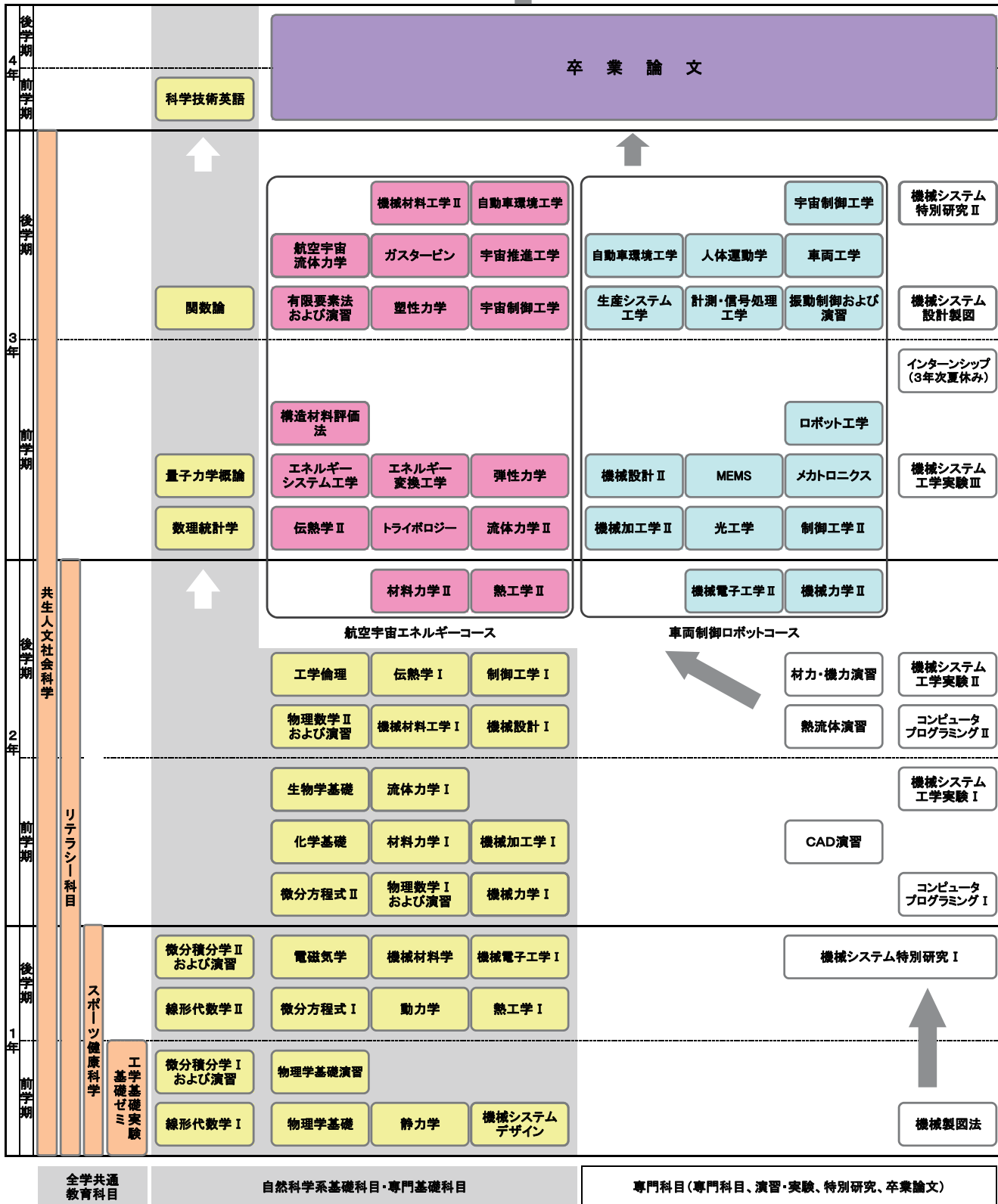
なお、研究室の配属については、当学科で決定されます。ガイダンスは当学科から別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

- 1) 4年次に開講される卒業論文を除き、すべての必修科目の単位を修得していること。
- 2) 「教職に関する科目」「博物館に関する科目」を除いて108単位以上を修得していること。
- 3) 社会人特別選抜で3年次に編入学した学生には必ずしも上記の基準を適用しないで、個別に別途協議の上、定める。

コースツリー紹介

大学院



● 特別講義、● 専門科目(各学科共通)、● 教職課程、● 留学生、● 短プロ、の各科目は時間割参照。

機械システム工学科

全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区 分	授業科目	単位数	開 講 年 次								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
大学導入科目	工 学 基 礎 実 験	2	*									◎	4単位必修	
	基 礎 ゼ ミ	2	*									◎		
持続可能な地球のための科学技術 科学技術と社会	安 全 工 学	2	*		*		*		*				自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。	
	特 許 法	2	*		*		*		*					
	ベンチャービジネス論	2		*		*		*		*				
	知的財産権	2		*		*		*		*				
	技術者倫理	2	*		*		*		*					
	科学技術コミュニケーション論	2			*		*		*					
	工学部共通特別講義（ ）	2												
共生人文社会科学 共生人文社会科学A	現 代 倫 理 論	2	*	*									合計8単位以上を修得すること。	
	現 代 宗 教 論	2	*	*										
	多 文 化 共 生 論	2	*	*										
	シエンダー論	2						*						
	共生社会政策論	2						*						
	国際平和論	2						*						
	共生人文社会科学B	哲 学	2					*	*					
		文 学 ・ 芸 術	2					*	*					
		心 理 学	2					*	*					
		教 育 学	2					*	*					
人間と文化社会の構造	日 本 国 憲 法	2	*	*										
	経 済 学	2	*	*										
	社 会 学	2	*	*										
	歴 史 学	2	*	*										
	英語	Integrated English	1	*									◎	6単位以上を修得すること。
		Paragraph Writing	1		*								◎	
		English Discussion	1		*								◎	
		Essay Writing	1			*							◎	
English Presentation		1			*							◎		
English Reading		1				*						◎		
English Exam Preparation Course		1	*	*	*	*	*	*	*	*	*			
Academic Reading		1					*		*					
Academic Communication		1						*		*				
リテラシー科目 第2外国語		ド イ ツ 語 入 門 I	1	*										
	ド イ ツ 語 入 門 II	1		*										
	ド イ ツ 語 ステップアップ	1		*										
	ド イ ツ 語 中 級	1			*		*							
	フ ラ ン ス 語 入 門 I	1	*											
	フ ラ ン ス 語 入 門 II	1		*										
	フ ラ ン ス 語 ステップアップ	1		*										
	フ ラ ン ス 語 中 級	1			*		*							
	中 国 語 入 門 I	1	*											
	中 国 語 入 門 II	1		*										
	中 国 語 ステップアップ	1		*										
	中 国 語 中 級	1			*		*							
	ス ペ イ ン 語 入 門 I	1	*											
	ス ペ イ ン 語 入 門 II	1		*										
	ス ペ イ ン 語 ステップアップ	1		*										
	韓 国 語 入 門 I	1	*											
	韓 国 語 入 門 II	1		*										
韓 国 語 ステップアップ	1		*											
国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*		※		
スポーツ健康科学科目	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 理 論	2	*										◎ 1単位以上修得すること。	
	体 力 学 実 技	1	*											
	生 涯 ス ポ ー ツ 実 技	1	*											
日本語科目	日 本 語 I	2	*		*		*		*				※	
	日 本 語 II	1		*		*		*		*			※	
日本事情科目	日 本 事 情 I	2	*										※	
	日 本 事 情 II	2		*		*		*		*			※	

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分		授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
全学共通教育科目	自然科学系基礎科目	数学	線形代数学Ⅰ	(竹林)・(堀口)	◎2	2								必修科目 11単位を 含め、13 単位以上を 修得するこ と。
			微分積分学Ⅰおよび演習	直井(克)・(竹林)	◎3	4								
		物理学	物理学基礎	篠原(俊)・池田	2	2								
			物理学基礎演習	篠原(俊)・池田	◎1	2								
		化学	化学基礎	(武井 孝)	2		2							
		生物学	生物学基礎	(杉立 年弘)	2		2							
		T A T I I 科目	数学	線形代数学Ⅱ	(大久保)・(與口)	◎2	2							
				微分積分学Ⅱおよび演習	前田(博)・直井(克)	◎3	4							
	物理学		数理統計学	(福田 隆)	2			2						
			電磁気学	秋澤・西田	2	2								
			量子力学概論	岩見 健太郎	2			2						
			地学	地学	(北沢・中島)	2	2	2	2	2	2			
		地学実験	(榑原 保志)	1		2	2	2			※1			
	専門基礎科目	機械システムデザイン	複数専任教員	2	2								32単位 以上を修 得するこ と。	
静力学		和田 正義	2	2										
微分方程式Ⅰ		上田・田川(義)	2	2										
動力学		秋澤・(小泉)	2	2										
機械材料学		高橋・山中	2	2										
熱工学Ⅰ		上田 祐樹	2	2										
機械電子工学Ⅰ		梅田 倫弘	2	2										
微分方程式Ⅱ		前田 博信	2		2									
材料力学Ⅰ		シニアプロフェッサー	2		2									
流体力学Ⅰ		亀田・田川(義)	2		2									
機械力学Ⅰ		毛利 宏	2		2									
機械加工学Ⅰ		笹原 弘之	2		2									
物理数学Ⅰおよび演習		石田 寛	2		2									
物理数学Ⅱおよび演習		篠原(俊)・池上	2		2									
機械材料工学Ⅰ		高橋 徹	2		2									
伝熱学Ⅰ		村田 章	2		2									
制御工学Ⅰ		田川 泰敬	2		2									
機械設計Ⅰ		安藤 泰久	2		2									
工学倫理		夏 恒	2		2									
関数論		前田 博信	2				2							
科学技術英語	(ホルドウィン)	2						2						

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。

※1 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。

機械システム工学科

航空宇宙エネルギーコース

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
専門科目	熱工学Ⅱ	岩本 薫	2				2								特別講義を除き、22単位以上を修得すること。	
	材料力学Ⅱ	シニアプロフェッサー	2				2									
	機械材料工学Ⅱ	小笠原 俊夫	2						2							
	伝熱工学Ⅱ	村田 章	2						2							
	弾性力学	桑原 利彦	2						2							
	流体力学Ⅱ	亀田 正治	2						2							
	トライボロジー	安藤 泰久	2						2							
	エネルギー変換工学	(小田・ムハンマド)	2						2							
	エネルギーシステム工学	(岡村・桑江・黒沢・武田)	2						2							
	構造材料評価法	池田 浩治	2						2							
	塑性力学	桑原 利彦	2							2						
	航空宇宙流体力学	西田 浩之	2							2						
	有限要素法および演習	山中 晃徳	3								4					
	ガスタービン	(山根 敬)	2								2					
	自動車環境工学	(未定)	2								2					
	宇宙制御工学	(吉村 康広)	2								2					
	宇宙推進工学	篠原・西田	2								2					
	機械システム特別講義()		2													
	機械システム特別講義()		2													
	機械システム特別講義()		2													
	機械システム特別講義()		2													
	機械システム特別講義()		2													
	演習・実験	機械製図法	小笠原 俊夫	◎1	2											
		CAD演習	岩見(健)・中本	◎1			3									
		機械システム設計製図	(秋葉・石灰・中村)	◎1						3						
		コンピュータプログラミングI	遠山・岩本・ベンチャー	◎1			3									
コンピュータプログラミングII		水内・池上	◎1				3									
材力・機力演習		花崎・ボンサトーン	◎1				2									
熱流体演習		亀田・岩本	◎1				2									
機械システム工学実験I		専任教員	◎2			6										
機械システム工学実験II		専任教員	◎2				6									
機械システム工学実験III		専任教員	◎2					6								
インターンシップ		2														
機械システム特別研究I	専任教員	◎1		3												
機械システム特別研究II	(武藤 篤生)	2						3								
卒業論文	専任教員	◎8														

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。

(2) 機械システム特別講義()については、開始前に(課題名)を定め、5科目まで開講することがある。

機械システム工学科

車両制御ロボットコース

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
専門科目	機械力学Ⅱ	鎌田 崇義	2				2							特別講義を除き、22単位以上を修得すること。	
	機械電子工学Ⅱ	和田 正義	2				2								
	機械設計Ⅱ	中本 圭一	2					2							
	機械加工学Ⅱ	夏 恒	2					2							
	制御工学Ⅱ	田川 泰敬	2					2							
	メカトロニクス	水内 郁夫	2					2							
	ロボット工学	遠山・ベンチャー	2					2							
	光工学	梅田 倫弘	2					2							
	M E M S	安藤・岩見(健)	2					2							
	車両工学	毛利 宏	2						2						
	計測・信号処理工学	石田 寛	2						2						
	人体運動学	ベンチャー	2						2						
	振動制御および演習	鎌田 崇義	3						4						
	宇宙制御工学	(未定)	2						2						
	生産システム工学	笹原 弘之	2						2						
	自動車環境工学	(未定)	2						2						
	機械システム特別講義()		2												
	機械システム特別講義()		2												
	機械システム特別講義()		2												
	機械システム特別講義()		2												
	機械システム特別講義()		2												
	演習・実験	機械製図法	小笠原 俊夫	◎1	2										
		C A D 演習	岩見(健)・中本	◎1			3								
機械システム設計製図		(秋葉・石灰・中村)	◎1						3						
コンピュータプログラミングⅠ		遠山・岩本・ベンチャー	◎1			3									
コンピュータプログラミングⅡ		水内・池上	◎1				3								
材力・機力演習		花崎・ボンサトーン	◎1				2								
熱流体演習		亀田・岩本	◎1				2								
機械システム工学実験Ⅰ		専任教員	◎2			6									
機械システム工学実験Ⅱ		専任教員	◎2				6								
機械システム工学実験Ⅲ		専任教員	◎2					6							
インターンシップ		2													
機械システム特別研究Ⅰ	専任教員	◎1	3												
機械システム特別研究Ⅱ	(武藤 篤生)	2						3							
卒業論文	専任教員	◎8													

- 備考 (1)◎印の授業科目は、必修とする。
 (2)機械システム特別講義()については、開始前に(課題名)を定め、5科目まで開講することがある。

機械システム工学科

担当教員

コース	教育分野	教 育 研 究	担当教員 (専 任)	研究室所在
航空宇宙エネルギーコース 車両制御ロボットコース	システム基礎解析	機械システムを構築するために必要な基礎解析に関する教育研究を行う。具体的には機械を構成する各種の材料の物性・強度解析、機械構造物や材料の弾塑性変形理論や破壊の力学、機械要素の構造や強度の解析、ロケットや流体機械などの熱流体に関する基礎解析、熱流体エネルギーシステムの計測や解析、などに関する科目を用意し、基礎教育と研究を行う。	小笠原 俊夫 中本 圭一 亀田 正治 田川 義之 高橋 徹 花崎 逸雄 桑原 利彦 山中 晃徳 安藤 泰久 池田 浩治 篠原 俊二郎 西田 浩之 (秋澤 淳) (上田 祐樹) (池上 貴志)	9号館 404室 9号館 208室 6号館 504室 6号館 507室 6号館 304室 VBL棟 314室 6号館 408室 6号館 405室 9号館 301室 6号館 508室 6号館 407室 6号館 406B室 BASE 本館 123室 BASE 本館 121室 BASE 本館 129室
	設計生産システム	機械システムを設計し生産するために必要な基礎教育と研究を行う。具体的にはロボット、メカトロニクス、自動車、精密機械、熱エネルギー機器などの各種機械システムの設計や生産手法、計算機援用の設計生産システム、これらの基礎となるシミュレーション技法、計測・制御技術、知能化・高精密化の方法、加工技術の高度化・自動化などに関する科目を用意し、基礎教育と研究を行う。	笹原 弘之 遠山 茂樹 村田 章 毛利 宏 鎌田 崇義 夏 恒 和田 正義 田川 泰敬 (石田 寛) 梅田 倫弘 岩見 健太郎 前田 博信 直井 克之 ポンサートン R. 岩本 薫 許 允禎 ベンチャー G. 水内 郁夫 伊東 道生 佐藤 健	9号館 304室 9号館 410室 9号館 305室 9号館 401室 9号館 302室 6号館 308室 6号館 208室 9号館 403室 BASE 本館 130室 11号館 203室 6号館 306室 12号館 212室 12号館 226室 9号館 412室 9号館 312室 9号館 206室 9号館 402室 9号館 205室 12号館 423室 12号館 311室

※ () 内の教員は、生物システム応用科学府所属

6. 物理システム工学科

(1) 学科の教育内容

物理システム工学科では、量子の領域からマクロな領域にわたる幅広い自然現象を体系的に理解し、物理学を工学に応用できる人材を育成します。1～3年次では、「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」を4つの柱とする基礎物理を学び、4年次に卒業論文研究を通して先端分野を学びます。

全学共通教育科目

基礎ゼミは、物理システム工学科全教員が担当し、少人数のグループで学生と教員がふれあう中で、大学における教育や本学科におけるカリキュラムの体系や考え方を学びます。

専門基礎科目

1年次から開講される専門基礎科目では、物理システム工学基礎科目、数学を学びます。特に、高校での履修内容と大学初年度の学習がすみやかにつながるように、「力学入門」「電磁気学入門」の2つの導入科目を新たに設けています。

専門科目 I

1年次から3年次にかけて履修する専門科目 I はすべてが必修科目で、本学科が物理学の基礎として設定した「物理ミニマム」を学ぶための科目です。力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、物理数学等の科目が含まれます。各科目ともに、2～3学期をかけて初歩からじっくり学び、また、演習科目を併せて履修することにより理解を深めることを基本としています。

専門科目 II

物理システム工学を学ぶ上で重要な、技術、スキル、応用力を身につけることを目的とした科目です。エレクトロニクス、コンピュータの知識・技術に関連した科目、プレゼンテーションの基礎を学ぶ科目、並びに実験科目が含まれます。

専門科目 III

3年次から始まる専門科目 III は、物理ミニマムと卒業研究を橋渡しする科目です。卒業研究と結びついたさまざまな科目が設定されています。比較的少人数のクラスの中で、自らの興味もとづいて、自主的にかつ幅広く、専門的・実践的な内容を学習します。

4年次では、量子機能工学、量子電子工学、原子過程工学、磁気物性工学、量子光工学、量子ビーム工学、高次機能工学、複雑流体工学、超伝導工学のいずれかの研究室に所属して、卒業研究に取り組みます。教員の緻密な指導のもとで高度な研究を進め、3年次までの授業科目の理解を深めるとともに、洞察力、探求力、応用力を養います。

進級基準

物理システム工学科では、1年次から2年次へ進級する際の基準を設けています。2年次へ進級するためには、専門基礎科目の「力学入門」・「電磁気学入門」・「物理システム工学基礎実験」の単位を修得していなければなりません。

その他

- ・ 専門 I、II で設定されている必修科目の単位を修得できないと、翌年また履修しなければなりません。そのために本来履修すべき必修科目を履修できないことも生じますので、必ず指定された学年に修得するように努めて下さい。
- ・ 専門基礎科目及び専門科目の中には教職に関わる科目も用意されていますので、教育職員免許状（理科及び数学）を取得することも可能です。

(2) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(95 ページ)及び学科課程表(96～97 ページ)で確認して下さい。

物理システム工学科 (P)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)											全学共通教育科目(自然科学系基礎科目・専門基礎科目)						専門科目									※1 自由選択単位 (④)	合計 (①+②+③+④)				
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目			スポーツ健康科学科目		小計①	数学 (TAT I, TAT II 及び専門基礎科目)	化学 (TAT I, TAT II) 及び生物学 (TAT I)	物理システム工学基礎	小計②	専門科目 I			専門科目 II			専門科目 III			小計③						
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修						選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択				必修	選択		
	必要単位数																															
	4	0	0	2	0	8	6	0	0	2	1	1	24	10	4	0	4	8	2	28	26	0	0	13	0	3	8	2	8	60	12 以上	124 以上

※1. 自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(3) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。ただし、早期卒業の場合に限り、自由課題実験Ⅰ～Ⅳ(各2単位)を全て修得することで、卒業論文の単位(必修8単位)に代えることができます。
- 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 - 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム(SPICA)にて登録すること。
 - 卒業論文は卒業年次の1月末日までに指導教員に提出し、その審査は各学科で行い、指導教員が成績を評価する。

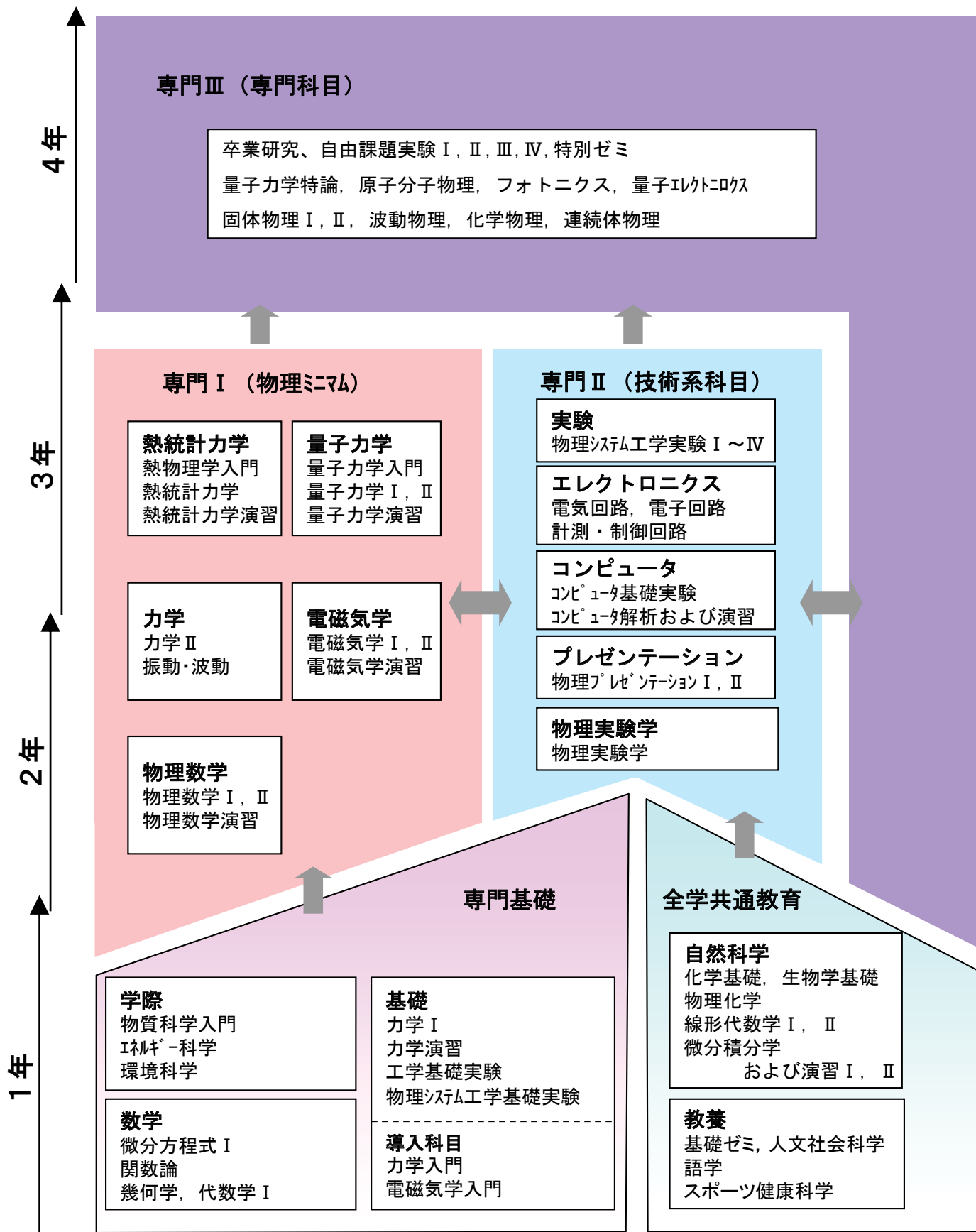
3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、各学科で決定されます。ガイダンスは各学科から別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

- 4年次に開講される必修科目を除き、すべての必修科目の単位を修得していること。
- 卒業論文を除いた卒業に必要な単位数(124-8=116単位)中の未修得単位数が10単位以下であること。
- 社会人特別選抜で3年次に編入学した学生には必ずしも上記の基準を適用しないで、個別に別途協議の上、定める。



物理システム工学科

全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区 分	授業科目	単位数	開 講 年 次								備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
大学導入科目	工 学 基 礎 実 験	2		*									◎	4単位必修
	基 礎 ゼ ミ	2	*	*									◎	
持続可能な地球のための科学技術 科学技術と社会	安 全 工 学	2	*		*		*		*					合計2単位以上を修得すること。
	特 許 法	2	*		*		*		*					
	ベンチャービジネス論	2		*		*		*		*				
	知的財産権	2		*		*		*		*				
	技術者倫理	2	*		*		*		*					
	科学技術コミュニケーション論	2			*		*		*					
	工学部共通特別講義()	2												
共生人文社会科学A 共生人文社会科学B 人間と文化社会の構造	現 代 倫 理 論	2	*	*										合計8単位以上を修得すること。
	現 代 宗 教 論	2	*	*										
	多 文 化 共 生 論	2	*	*										
	シ ェ ン ダ ー 論	2							*					
	共 生 社 会 政 策 論	2						*						
	国 際 平 和 論	2						*						
	哲 学	2					*	*						
	文 学 ・ 芸 術 学	2					*	*						
	心 理 学	2					*	*						
	教 育 学	2					*							
英語	Integrated English	1	*										◎	6単位以上を修得すること。
	Paragraph Writing	1		*									◎	
	English Discussion	1		*									◎	
	Essay Writing	1			*								◎	
	English Presentation	1			*								◎	
	English Reading	1				*							◎	
	English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		
	Academic Reading	1					*		*					
	Academic Communication	1						*		*				
	第2外国語	ド イ ツ 語 入 門 I	1	*										
ド イ ツ 語 入 門 II		1		*										
ド イ ツ 語 ステップアップ		1		*										
ド イ ツ 語 中 級		1			*		*							
フ ラ ン ス 語 入 門 I		1	*											
フ ラ ン ス 語 入 門 II		1		*										
フ ラ ン ス 語 ステップアップ		1		*										
フ ラ ン ス 語 中 級		1			*		*							
中 国 語 入 門 I		1	*											
中 国 語 入 門 II		1		*										
中 国 語 ステップアップ		1		*										
中 国 語 中 級		1			*		*							
ス ペ イ ン 語 入 門 I		1	*											
ス ペ イ ン 語 入 門 II		1		*										
ス ペ イ ン 語 ステップアップ		1		*										
国際コミュニケーション演習		韓 国 語 入 門 I	1	*										
	韓 国 語 入 門 II	1		*										
	韓 国 語 ステップアップ	1		*										
	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*				
スポーツ健康科学科目	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 理 論	2	*											◎ 2単位以上修得すること。
	体 力 学 実 技	1	*											
	生 涯 ス ポ ー ツ 実 技	1		*										
日本語科目	日 本 語 I	2	*		*		*		*					※
	日 本 語 II	1		*		*		*		*				※
日本事情科目	日 本 事 情 I	2	*											※
	日 本 事 情 II	2		*		*		*		*				※

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区 分		授業科目	担当教員	単 位 数	毎週授業時間数								備 考			
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通教育科目	自然科学系基礎科目	TATI科目 数学	線形代数学Ⅰ	(堀口 直之)	◎2	2									※1	
			微分積分学Ⅰおよび演習	(福田 隆)	◎3	4										
		化学	化学基礎	鶴飼 正敏	○2	2										※2
			生物学	生物学基礎	(横谷 明德)	○2			2							
	TATII科目	数学	線形代数学Ⅱ	(未定)	◎2		2								※1	
			微分積分学Ⅱおよび演習	(未定)	◎3		4									
		化学	物理化学	森下 義隆	2				2							※2
			地学	地学	(北沢・中島)	2	2	2	2		2		2			
				地学実験	(榑原 保志)	1			2		2		2			
	専門基礎科目	数学	微分方程式Ⅰ	(磯島 伸)	2			2							※1	
関数論			(西村 滋人)	2			2									
幾何学			(桧垣 優徳)	2			2									
代数学Ⅰ			(與口 卓志)	2				2								
物理システム工学基礎		力学入門	香取 浩子	◎2	2										必修科目 8単位を 含め、 10単位 以上を修 得するこ と。	
		電磁気学入門	三沢 和彦	◎2	2											
		物理システム工学基礎実験	村山 能宏 他	◎1	3											
		力学Ⅰ	嘉治 寿彦	◎2		2										
		力学演習	専任教員	◎1		2										
		物質科学入門	専任教員	2				2								
環境科学	(江波 進一)	2							2							
		エネルギー科学	(鳥居 寛之)	2							2					

備考 (1) ◎印の授業科目は、必修とする。

(2) ○印の授業科目は、選択必修とする。

※1 必修科目10単位を含め、数学から14単位以上を修得すること。

※2 化学および生物学から4単位以上を修得すること。

※3 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。

物理システム工学科

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	専門科目Ⅰ	物理数学Ⅰ	村山 能宏	◎2		2							必修科目 26単位 をすべて 修得する こと。
		物理数学演習	専任教員	◎1		2							
		物理数学Ⅱ	畠山 温	◎2			2						
		力学Ⅱ	山本 明保	◎2		2							
		電磁気学Ⅰ	宮地 悟代	◎2		2							
		電磁気学演習	専任教員	◎1		2							
		電磁気学Ⅱ	香取 浩子	◎2			2						
		振動・波動	三沢 和彦	◎2			2						
		熱物理学入門	箕田 弘喜	◎2			2						
		熱統計力学	内藤 方夫	◎2				2					
		熱統計力学演習	専任教員	◎1				2					
		量子力学入門	内藤 方夫	◎2			2						
		量子力学Ⅰ	畠山 温	◎2				2					
	量子力学演習	専任教員	◎1				2						
	量子力学Ⅱ	鶴飼 正敏	◎2					2					
	専門科目Ⅱ	コンピュータ基礎実験	室尾 和之	1	3								必修科 目13単 位を含 め、16 単位以 上を修 得する こと。
		コンピュータ解析および演習	(伊東 宏之)	3		4							
		物理実験学	専任教員	2					2				
		電気回路	森下 義隆	◎2		2							
		電子回路	前橋 兼三	◎2			2						
		計測・制御回路	嘉治 寿彦	2				2					
		物理プレゼンテーションⅠ	(喜多 真王)	◎1	2								
		物理プレゼンテーションⅡ	専任教員	1					2				
		物理システム工学実験Ⅰ	専任教員	◎2			6						
		物理システム工学実験Ⅱ	専任教員	◎2				6					
	物理システム工学実験Ⅲ	専任教員	◎2					6					
	物理システム工学実験Ⅳ	専任教員	◎2						6				
	専門科目Ⅲ	波動物理学	箕田 弘喜	2				2					必修科目 8単位、 ○印の科 目から2 単位以 上を含 め、18 単位以 上を修 得する こと。
		フォトリソグラフィ	室尾 和之	2				2					
		量子エレクトロニクス	宮地 悟代	2					2				
		化学物理学	山本 明保	2					2				
		連続体物理学	村山 能宏	2				2					
		固体物理学Ⅰ	生嶋 健司	2					2				
		固体物理学Ⅱ	前橋 兼三	◎2						2			
		量子力学特論	生嶋 健司	◎2						2			
		原子分子物理学	鶴飼 正敏	◎2						2			
		物理システム工学特別講義Ⅰ		2									
	物理システム工学特別講義Ⅱ		2										
	卒業論文		◎8										
	特別専門科目	特別ゼミ	専任教員	△2	2								下記備考 欄(3) 参照
自由課題実験Ⅰ		専任教員	●2		4								
自由課題実験Ⅱ		専任教員	●2			4							
自由課題実験Ⅲ		専任教員	●2				4						
								4					
									4				

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。

(2) ○印の授業科目は、選択必修とする。

(3) 特別専門科目は、自由選択単位として卒業に必要な単位数に算入できる。

早期卒業の場合に限り、●印の科目8単位を卒業論文の単位数に、△印の科目を専門科目Ⅲの○印の科目に代えることができる。

物理システム工学科

教育分野	教 育 研 究	担 当 教 員 (専 任)	研究室所在
量子系・材料物性系・複雑系工学	<p>物理システム工学科の教育は、物理の原理を原動力として科学技術の発展に結ぶつけることのできる人材の養成を目的としている。</p>		
	<p>1～3年次では、物理学の基礎（「物理ミニマム」）として、力学・電磁気学・熱統計力学・量子力学、及び、数学・物理数学を重点的に学習する。特に、高校での履修内容と大学初年度の学習がすみやかにつながるように、「力学入門」「電磁気学入門」という導入科目を新たに設けている。これらの科目は単に高校で習う知識を補うというだけでなく、大学での学習に向けて、論理的に物事を考える力を身に付けることを狙いとしている。また、物理学に関連深い基礎科学・技術や社会貢献に結びつく学際科目も開講する。</p>	森 下 義 隆	4 号 館 5 0 4 室
		鵜 飼 正 敏	4 号 館 5 1 0 室
		箕 田 弘 喜	4 号 館 5 0 9 室
		室 尾 和 之	4 号 館 5 3 2 室
		三 沢 和 彦	4 号 館 5 1 3 室
		内 藤 方 夫	4 号 館 4 0 9 室
		畠 山 温	4 号 館 4 3 7 南 室
		生 嶋 健 司	4 号 館 5 1 4 室
		村 山 能 宏	4 号 館 4 3 5 室
		香 取 浩 子	4 号 館 5 0 8 室
		宮 地 悟 代	4 号 館 5 3 6 室
		柳 澤 実 穂	4 号 館 5 1 6 室
		前 橋 兼 三	4 号 館 5 2 2 室
	嘉 治 寿 彦	4 号 館 4 2 0 室	
	山 本 明 保	4 号 館 4 0 8 室	
	森 祐 希 子	12 号 館 3 2 4 室	

7. 電気電子工学科

(1) 学科の教育内容

電気電子工学科の学生は、「全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）」として、数学、物理学、化学、地学、生物学などの分野から、電気電子工学の専門領域を学ぶ上で必要な基礎的授業科目を1～3年次で履修します。これと並行して、「専門基礎科目」、「専門科目」を1～4年次で履修します。なお、3年次からは、システムエレクトロニクスコースと電子情報通信工学コースの専門的コースに分かれて、コース共通の科目のほかに、コース別の科目を履修するように組まれています。

将来役立つ幅広く体系的な知識が身につくように、履修条件を十分考慮しながら、履修計画を立てるようにしましょう。

電気主任技術者向けの科目が開講されていますが、この資格を取得しようとする場合、指定された条件を満たすように履修する必要がありますので、よく確認して下さい（履修案内 134 ページを参照のこと）。

(2) コース決定

- 1) 各コースの受け入れは、学生数に対して、次の割合で行います。

システムエレクトロニクスコース（E A） 約 50%

電子情報通信工学コース（E B） 約 50%

- 2) コース決定は、学生の志望等を尊重して行われます。コース分けの方法は次のとおりです。

- ①志望調査（予備調査）を行いません。志望申告書を提出していただきます。コース志望を保留することは認められません。

ただし、志望申告の期間に休学中の学生は、対象にはなりません。

- ②コースの受入定員を超過した場合には、学科会議で慎重に審議して、コースを決定します。

- 3) 志望申告及びコース決定の時期はつぎのとおりです。連絡はすべて掲示を通じて行いますので、コース分けに該当する年次の学生は十分注意して下さい。

志望申告の時期	コース決定の時期
2年次後期	3年次前期開始時

(3) 進級基準

電気電子工学科では、3年次に専門コース（システムエレクトロニクスコース及び電子情報通信工学コース）に配属する際の進級基準を設けます。

3年次進級基準：1、2年次に開講される電気電子工学科の全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）・専門基礎科目・専門科目のうち必修科目の未履修数の合計が4科目以下であること。

なお、3年次に進級できない留年生には、3年次の開講科目（必修科目を除く）の履修を認めます。

(4) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(102 ページ)及び学科課程表 (103～105 ページ) で確認して下さい。

電気電子工学科 (E)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)											全学共通教育科目(自然科学系基礎科目)・専門基礎科目					小計②	専門科目			小計③	※自由選択単位④	合計 (①+②+③+④)	
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目		スポーツ健康科学科目		英語	第2外国語	自然科学系基礎科目(地学を除く)	専門基礎科目	必修	選択必修		選択						
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択									必修	選択				
必要単位数	2	0	0	0	0	6	6	0	0	2	1	0	17	13	6	35	0	54	15	6	13	34	19 以上	124 以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(5) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 - 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム (SPICA) にて登録すること。
 - 卒業論文は卒業年次の1月末日までに指導教員に提出し、その審査は各学科で行い、指導教員が成績を評価する。

3) 履修基準

3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、3年次の12月頃に決定されます。ガイダンスは別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

- 4年次に開講される必修科目を除き、未履修の必修科目が1科目以下であること。ただし、1～3年次に開講される実験科目は単位を修得しなければならない。
- 卒業論文を除いた卒業に必要な単位数中の未修得単位数が10単位以下、であること。
- 社会人特別選抜で3年次に編入学した学生には必ずしも上記の基準を適用しないで、個別に別途協議の上、定める。
- 研究室に配属されていない学生は、「論文・文献講読」および「卒業論文」の科目を履修できない。

共通教育科目（自然科学系基礎科目）

必修科目

線形代数学Ⅰ 物理学基礎および演習
 微分積分学Ⅰおよび演習
 線形代数学Ⅱ
 微分積分学Ⅱおよび演習

選択科目

化学基礎 熱統計力学
 生物学基礎 物理化学
 数理統計学 地学
 量子力学概論 地学実験

専門基礎科目

必修科目

微分方程式Ⅰ	ベクトル解析および演習	電子デバイスⅠおよび演習
コンピュータ基礎演習	フーリエ解析および演習	基礎電子回路および演習
基礎電気回路Ⅰおよび演習	電気電子材料	論理回路および演習
基礎電気回路Ⅱおよび演習	電磁気学Ⅰおよび演習	プログラミングおよび演習
電磁気学Ⅱおよび演習		

専門科目

必修科目

卒業論文 論文・文献講読 電気電子工学実験Ⅰ
 電気電子工学実験ⅡA、ⅢA または 電気電子工学実験ⅡB、ⅢB

システムエレクトロニクスコース

電子情報通信工学コース

選択必修科目

選択必修科目

電気電子機器
 光工学
 光エレクトロニクス
 エネルギーネットワーク工学
 高電圧工学
 電力工学

電子物性工学
 微分方程式Ⅱ
 関数論
 回路網理論
 デジタル電子回路
 計測工学
 制御工学
 マイクロプロセッサ
 電子デバイスⅡ
 パワーエレクトロニクス

信号処理
 画像情報工学
 通信工学
 通信システム工学
 電磁波工学
 高周波伝送工学
 計算工学基礎

電気法規および施設管理 電気電子工学特別講義 電気電子製図 電子情報工学製図

全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区 分	授業科目	単位数	開 講 年 次								備 考						
			1年次		2年次		3年次		4年次								
			前	後	前	後	前	後	前	後							
全学共通教育科目	大学導入科目	工学基礎実験	2	*									◎	2単位必修			
	科学技術と社会	安全工学	2	*		*		*		*					自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。		
		特許法	2	*		*		*		*							
		パンチャービジネス論	2		*		*		*		*						
		知的財産権	2		*		*		*		*						
		技術者倫理	2	*		*		*		*		*					
		科学技術コミュニケーション論	2			*		*		*		*					
	共生人文社会科学	工学部共通特別講義()	2												合計6単位以上を修得すること。		
		共生人文社会科学A	現代倫理論	2	*	*											
			現代宗教論	2	*	*											
			多文化共生論	2	*	*											
			シエンダー論	2								*					
		共生人文社会科学B	共生社会政策論	2						*							
			国際平和論	2						*							
			人間と文化社会の構造	哲学	2					*	*						
				文学・芸術	2					*	*						
				心理学	2					*	*						
			社会の構造	教育	2					*							
				日本国憲法	2	*	*										
	経済学			2	*	*											
	社会学	2		*	*												
	歴史学	2		*	*												
	英語	Integrated English	1	*										◎	6単位以上を修得すること。		
		Paragraph Writing	1		*									◎			
		English Discussion	1		*									◎			
		Essay Writing	1			*								◎			
		English Presentation	1			*								◎			
		English Reading	1				*							◎			
		English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*				
		Academic Reading	1					*		*							
		Academic Communication	1						*		*						
		リテラシー科目	第2外国語	ドイツ語入門Ⅰ	1	*											同一言語の「入門Ⅰ」「入門Ⅱ」「ステップアップ」から2単位修得すること。中級は入門2単位を履修条件とする。
	ドイツ語入門Ⅱ			1		*											
	ドイツ語ステップアップ			1		*											
	ドイツ語中級			1			*		*								
	フランス語入門Ⅰ			1	*												
	フランス語入門Ⅱ			1		*											
	フランス語ステップアップ			1		*											
	フランス語中級			1			*		*								
	中国語入門Ⅰ			1	*												
	中国語入門Ⅱ			1		*											
	中国語ステップアップ			1		*											
	中国語中級			1			*		*								
	スペイン語入門Ⅰ			1	*												
	スペイン語入門Ⅱ			1		*											
スペイン語ステップアップ	1			*													
韓国語入門Ⅰ	1			*													
韓国語入門Ⅱ	1				*												
韓国語ステップアップ	1		*														
国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*			※				
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2	*										◎	1単位以上修得すること。			
	体力学実技Ⅰ	1	*														
	生涯スポーツ実技Ⅰ	1	*	*													
日本語科目	日本語Ⅰ	2	*		*		*		*				※				
	日本語Ⅱ	1		*		*		*		*			※				
日本事情科目	日本事情Ⅰ	2	*										※				
	日本事情Ⅱ	2		*		*		*		*			※				

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

電気電子工学科

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
全学共通教育科目 自然科学系基礎科目	T A T I 科目 数学	線形代数学Ⅰ	合田・(津田)	◎2	2									必修科目13単位を含め、数学・物理学・化学・生物学から19単位を修得すること。 ※
		微分積分学Ⅰおよび演習	(桧垣)・金城	◎3	4									
	T A T I 科目 物理学	物理学基礎および演習	鮫島・田中(洋)	◎3		4								
		化学基礎	(芦間 英典)	2	2									
	T A T I 科目 生物学	生物学基礎	(大澤 郁朗)	2	2									
		線形代数学Ⅱ	畠中・合田	◎2		2								
	T A T I 科目 数学	微分積分学Ⅱおよび演習	直井(克)・金城	◎3		4								
		数理統計学	瀧山 健	2			2							
	T A T I 科目 物理学	量子力学概論	白樫 淳一	2					2					
		熱統計力学	鮫島 俊之	2						2				
	T A T I 科目 化学	物理化学	(芦間 英典)	2					2					
		地学	(北沢・中島)	2	2	2	2		2		2			
	専門基礎科目	地学実験	(榊原 保志)	1			2		2		2			
		微分方程式Ⅰ コンピュータ基礎演習 基礎電気回路Ⅰおよび演習 基礎電気回路Ⅱおよび演習 ベクトル解析および演習 フーリエ解析および演習 電気電子材料 電磁気学Ⅰおよび演習 電磁気学Ⅱおよび演習 電子デバイスⅠおよび演習 基礎電子回路および演習 論理回路および演習 プログラミングおよび演習	白樫・田中(聡)	◎2	2									
榊田・竹村			◎1		2									
須田・上野			◎3	4										
鄧・長坂			◎3		4									
岩井・高木			◎3		4									
田中(洋)・西館・岩井			◎3			4								
飯村 靖文			◎2			2								
宇野・有馬			◎3			4								
清水(大)・有馬			◎3				4							
須田・白樫			◎3				4							
上野・涌井			◎3				4							
田中(聡)・藤吉			◎3				4							
山田・清水(昭)			◎3			2	2							

備考(1) ◎印の授業科目は、必修とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位の算入できる。

電気電子工学科

コース	教育分野	教 育 研 究	担 当 教 員 (専 任)	研究室所在
システムエレクトロニクス	システムエレクトロニクス	新しい素子・材料の創出、またこれらをベースとした先端的な電気電子システムの構築に必要な教育研究をおこなう。演習を交えて電気電子工学の基礎を徹底して理解することをベースに、特にハード的な視点で材料からシステムまで応用する力を涵養する。具体的な専門科目として電子物性工学、電子デバイス、電子回路、電力工学、パワーエレクトロニクス、光工学、光デバイス、光エレクトロニクス、通信工学、計測工学などが用意されている。ハードとソフトの視点をバランスよく養うために、電子情報通信工学コースとの強い関係のもとに教育研究をおこなう。	飯村靖文 上野智雄 白樫淳一 鮫島俊之 須田良幸 高木康博 涌井伸二 鄧明聡 清水大雅 田中洋介 久保若菜 岡野一郎	新1号館 310A室 5号館 201室 5号館 205室 新1号館 310B室 新1号館 313A室 新1号館 201室 3号館 205室 3号館 208室 新1号館 N313B室 新1号館 206A室 5号館 208室 12号館 327室
	留学生担当		長坂研	5号館 503室
電子情報通信工学	電子情報通信工学	人間や環境と機械間の情報交換、またその情報の伝達・共有をおこなう先端技術の創出に必要な教育研究をおこなう。演習を交えて電気電子工学の基礎を徹底して理解することをベースに、特にソフト的な視点でシステムを設計開発する力を涵養する。具体的な専門科目として信号処理、電子回路、回路理論、マイクロプロセッサ、通信工学、計測工学、制御工学などが用意されている。ハードとソフトの視点をバランスよく養うために、システムエレクトロニクスコースとの強い関係のもとに教育研究をおこなう。	宇野亨 田中聡久 藤吉邦洋 清水昭伸 有馬卓司 瀧山健 梅林健太 (山田晃) (梶田晃司) (岩井俊昭) (西館泉) 飛嶋隆信	5号館 403室 5号館 305室 5号館 502室 5号館 302室 5号館 402室 5号館 407室 5号館 405室 BASE 本館 519室 BASE 本館 520室 BASE 本館 612室 BASE 本館 614室 12号館 425室

() 内の教員は、生物システム応用科学府所属

8. 情報工学科

(1) 学科の教育内容

工学とは、ものを“つくる”学問です。本学科の教育を受けた人が“つくる”のは情報を扱うシステムです。すでに、コンピュータや情報ネットワークは一般化していて、その使い方を教えることは本学科の役目ではありません。本学科の使命は、グローバル化、ボーダレス化が急速に進行する状況の中で、情報化社会における有形・無形の優れた情報を扱うシステムを創り出し、造り上げてゆく基礎能力を持った人材を世に送り出すことです。新しい情報を扱うシステムを創り出し、それを実際に造り上げる能力、すなわち、設計能力は、知識の修得だけでは得られません。情報工学の基礎理論に基づいて、自らの手で設計して、動作させ、その経験をフィードバックし、さらに仲間との共同作業を実践することで、はじめて設計能力が身につきます。この教育理念にもとづき、本学科のカリキュラムにおいては、その場となる実験・演習を最も重視しています。

専門基礎科目は、数学を中心とした自然科学、コンピュータとプログラミングの基礎を学びます。これらの科目は、情報工学の専門科目の基礎となるものです。また、2年次後期から3年次前期にかけて、専門科目が増えても視野が狭まることのないように、専門科目と関連性を持たせた教養科目である専門教養科目が配置されています。

コアカリキュラムは、米国のコンピュータ科学・工学を扱う主たる学会である IEEE-CS と ACM により提案された、コンピュータ科学を履修する学部学生のためのカリキュラムガイドライン CC2001 に準拠しています。1年次、2年次のコアカリキュラムの科目の多くは必修科目です。また、情報工学の基礎理論をしっかりと身につけるため、それら必修科目には演習が併設されています。

3年次から、専門科目は「計算機システム系」、「数理知能系」、「情報メディア系」の3つの科目群に分かれます。各科目群には取得すべき最低単位数が設定されていますが、最低単位数だけでなく、将来の各人の方向性により、同じ科目群の科目は多く選択することが推奨されます。一方、実験・演習は、科目と併設されるのではなく、各教員の研究内容に近い課題に毎週取り組むこととなります。各課題は単にこなすのではなく、各人が独創性を発揮することも期待されます。

4年次の卒業論文は、学部教育の仕上げです。研究室で教員の指導のもとに、これまで学んだ知識や経験を総動員して、自らのリーダーシップでシステムや手法を考案、設計、開発、試作に取り組み、その結果を論文としてまとめます。

4年次までのカリキュラムは、情報工学の基礎を徹底的に身につけることを主眼とし、最先端の研究活動は大学院において行うことを意識してカリキュラムは編成されています。大学において、充実した研究活動を求める人は、その後大学院へ進学することになります。

(2) 進級基準

情報工学科では、3年次に進級する際の進級基準を設けます。

3年次進級基準：1、2年次に開講される情報工学科の全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）・専門基礎科目・専門科目のうち必修科目の未履修数の合計が4科目以下であること。

なお、3年次に進級できない留年生には、3年次の開講科目（必修科目を除く）の履修を認めます。

(3) 卒業に必要な単位

各科目区分毎の卒業に必要な単位数は次の表のとおりです。各区分の具体的な授業科目名等は、全学共通教育科目課程表(110 ページ)及び学科課程表 (111～112 ページ) で確認して下さい。

情報工学科 (S)

科目区分	全学共通教育科目(自然科学系基礎科目を除く)												全学共通教育科目(自然科学系基礎科目)・専門基礎科目					専門科目					合計 (①+②+③+④)					
	大学導入科目		持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学		リテラシー科目		スポーツ健康科学科目		小計①		自然科学系基礎科目及び専門基礎科目の数学		小計②		コア科目		アドバンスド科目及びコース科目		小計③			※自由選択単位④				
							英語	第2外国語					自然科学系基礎科目	専門基礎科目(数学を除く)											必修	選択必修	選択	必修
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
必要単位数	2	0	0	0	0	6	6	0	0	2	1	0	17	12	1	5	5	1	0	24	26	9	0	0	30	65	18 以上	124 以上

※自由選択単位の詳細については履修案内32ページを参照してください。

(4) 卒業論文の履修及び基準について

①卒業論文の履修

- 卒業論文は専門科目に関する授業科目で、必修8単位になります。
- 履修登録・提出時期・審査方法は以下のとおりです。
 - 卒業論文の履修は4年次の前学期履修登録期間内に、学務情報システム (SPICA) にて登録すること。
 - 卒業論文は卒業年次の1月末日までに指導教員に提出し、その審査は各学科で行い、指導教員が成績を評価する。

3) 履修基準

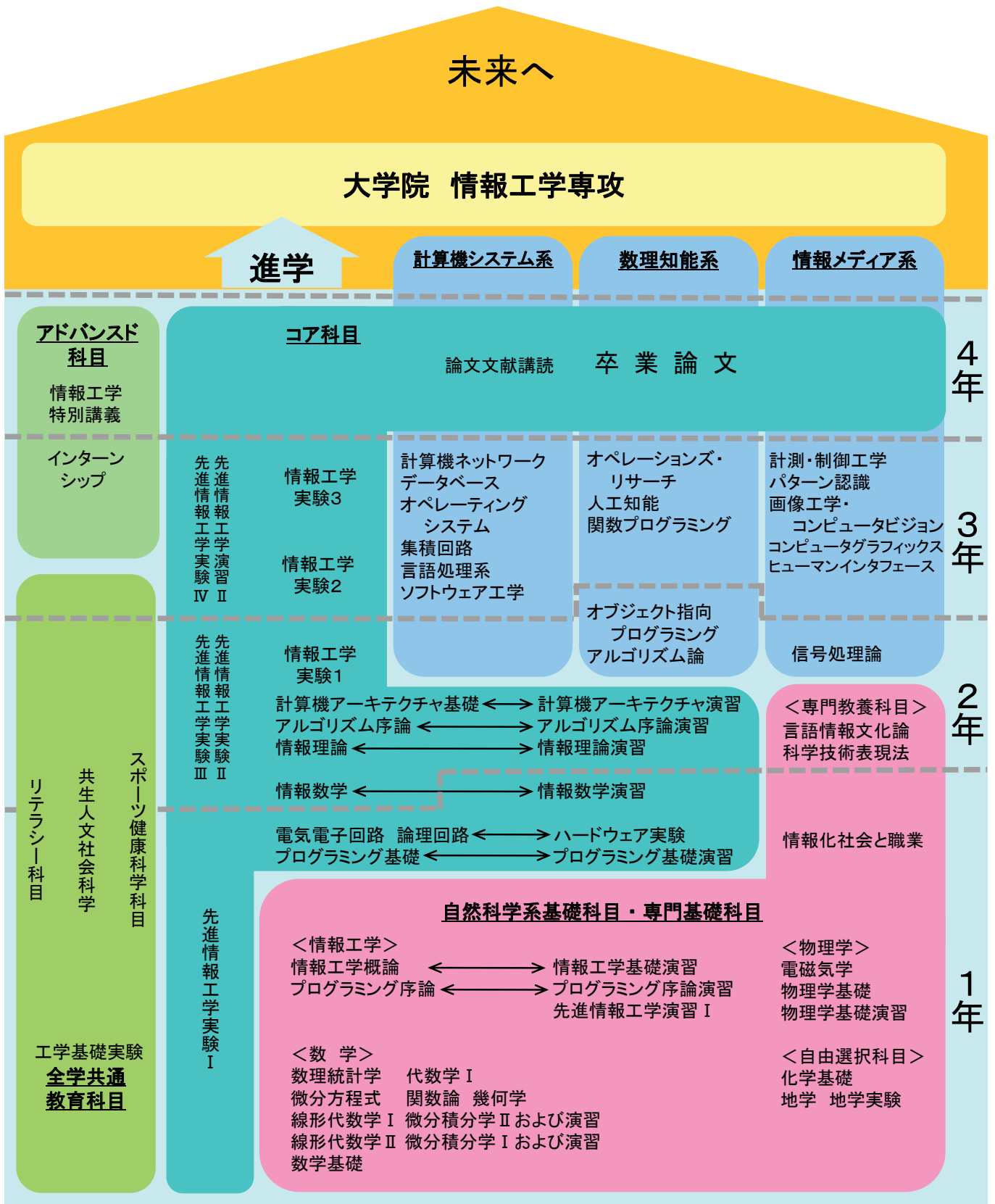
3年次終了までに、次の「②卒業論文履修についての基準」に示す必要な単位を修得していなければ、次の年度において卒業論文を履修することができません。

なお、研究室の配属については、各学科で決定されます。ガイダンスは各学科から別途指示があります。

②卒業論文履修についての基準

- 4年次に開講される必修科目を除き、未修得必修科目の単位数が4単位以下であること。ただし、その未修得必修科目の単位数の内、全学共通教育科目以外の実験・演習科目の未修得単位数は2単位以下であること。
- 卒業論文を除いた卒業に必要な単位数 (124 - 8 = 116 単位) の中の未修得単位数が10単位以下であること。
- 3年次に編入した学生は必ずしも上記の基準を適用しないで、個別に別途協議の上、定める。

情報工学科コースツリー



全学共通教育科目課程表（自然科学系基礎科目を除く）

区分	授業科目	単位数	開講年次								備考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
全学共通教育科目	大学導入科目	工学基礎実験	2	*								◎	2単位必修		
	科学技術と社会	安全工学	2	*		*		*		*			自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。		
		特許法	2	*		*		*		*					
		パンチャービジネス論	2		*		*		*		*				
		知的財産権	2		*		*		*		*				
		技術者倫理	2	*		*		*		*					
		工学部共通特別講義()	2			*		*		*					
	共生人文社会科学	共生人文社会科学A	現代倫理論	2	*	*							合計6単位以上を修得すること。		
			現代宗教論	2	*	*									
			多文化共生論	2	*	*									
			シエンダー論	2							*				
		共生人文社会科学B	人間と文化の構造	共生社会政策論	2					*					
				国際平和論	2					*					
				哲学	2					*	*				
			社会の構造	文学・芸術学	2					*	*				
				心理学	2					*	*				
				教育学	2					*					
	英語	英語	Integrated English	1	*								◎	6単位以上を修得すること。	
			Paragraph Writing	1		*							◎		
			English Discussion	1		*							◎		
			Essay Writing	1			*						◎		
			English Presentation	1			*						◎		
			English Reading	1			*						◎		
			English Exam Preparation Course	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*		
			Academic Reading	1					*		*				
			Academic Communication	1					*		*				
			第2外国語	リテラシー科目	ドイツ語入門Ⅰ	1	*								
	ドイツ語入門Ⅱ	1				*									
	ドイツ語ステップアップ	1				*									
	ドイツ語中級	1					*		*						
	フランス語入門Ⅰ	1			*										
	フランス語入門Ⅱ	1				*									
	フランス語ステップアップ	1				*									
	フランス語中級	1					*		*						
	中国語入門Ⅰ	1			*										
	中国語入門Ⅱ	1				*									
	中国語ステップアップ	1				*									
	中国語中級	1					*		*						
	スペイン語入門Ⅰ	1			*										
	スペイン語入門Ⅱ	1				*									
	スペイン語ステップアップ	1			*										
	韓国語入門Ⅰ	1			*										
	韓国語入門Ⅱ	1				*									
	韓国語ステップアップ	1	*												
	国際コミュニケーション演習	Communication Skills for Scientists	1		*		*		*		*		※		
スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学科目	スポーツ健康科学理論	2	*								◎	1単位以上修得すること。		
		体力学実技Ⅰ	1	*											
		生涯スポーツ実技Ⅰ	1	*	*										
日本語科目	日本語科目	日本語Ⅰ	2	*		*		*		*			※		
		日本語Ⅱ	1		*		*		*		*		※		
日本事情科目	日本事情科目	日本事情Ⅰ	2	*									※		
		日本事情Ⅱ	2		*		*		*		*		※		

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
 (2) 日本語科目、日本事情科目は外国人留学生等対象とする。
 ※ 自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
 () については、別に定めるテーマから選択するものとする。

自然科学系基礎科目・専門基礎科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
全学共通教育科目 自然科学系基礎科目	T A T I 科目 数学	線形代数学Ⅰ	畠中 英里	◎2	2									※1
		微分積分学Ⅰおよび演習	村田 実貴生	◎3	4									
	T A T I 科目 物理学	物理学基礎	(井原 茂男)	○2		2								
		物理学基礎演習	(南葉 利通)	○1	2									
	T A T I 科目 化学	化学基礎	(阿部 穰里)	2	2									
		線形代数学Ⅱ	原 伸生	◎2		2								
	T A T I 科目 数学	微分積分学Ⅱおよび演習	村田 実貴生	◎3		4								
		数理統計学	(木村 泰紀)	◎2			2							
		物理学	電磁気学	(南葉 利通)	○2			2						
			地学	(北沢・中島)	2	2	2	2		2		2		
専門基礎科目	数学	地学実験	(榊原 保志)	1			2		2		2		※2	
		微分方程式	前田 博信	2			2							
		関数論	(西村 滋人)	2			2							
		幾何学	原 伸生	2			2							
		代数学Ⅰ	(與口 卓志)	2				2						
	情報工学	数学基礎	(磯島 伸)	1	1									
		情報工学概論	各教員	◎2	2									
		プログラミング序論	中川・山井	◎2	2									
		情報工学基礎演習	清水・田中	◎1	2									
		プログラミング序論演習	朱・藤本	△1	2									
専門教養科目	先進情報工学演習Ⅰ	専任教員	△1	2										
	情報化社会と職業	(酒井 信一郎)	1	1										
	科学技術表現法	宇野 良子	2				2							
	言語情報文化論	篠原 和子	2				2							

備考 (1) ◎印の授業科目については、必修とする。

(2) ○印および△印の授業科目は、選択必修とする。

※1 必修科目12単位を含め、数学・物理学・化学から18単位以上を修得すること。

ただし○印から1科目以上修得すること。

※2 自由選択単位として卒業に必要な単位として算入できる。

※3 必修科目5単位、△印の科目から1単位以上を含め、6単位以上を修得すること。

情報工学科

専門科目

区分	授業科目	担当教員	単位数	毎週授業時間数								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
専門科目	コア科目	プログラミング基礎	藤田 桂英	◎2		2								※1
		電気・電子回路	(榎橋 康博)	◎2		2								
		論理回路	藤田(欣)・中條	◎2		2								
		プログラミング基礎演習	矢野 史朗	◎1		2								
		ハードウェア実験	矢野 史朗	◎1		2								
		アルゴリズム序論	宮代 隆平	◎2			2							
		計算機アーキテクチャ基礎	中條 拓伯	◎2			2							
		情報数学	渡辺 峻	◎2			2							
		情報理論	杉浦 慎哉	◎2			2							
		アルゴリズム序論演習	北川 直哉	◎1			2							
		計算機アーキテクチャ演習	(大島 浩太)	◎1			2							
		情報理論演習	堀田 政二	◎1			2							
		情報数学演習	斎藤 隆文	◎1		2								
		情報工学実験1	専任教員	◎2				6						
		情報工学実験2	専任教員	◎2					6					
		情報工学実験3	専任教員	◎2						6				
		論文・文献講読	専任教員	▲1							2			
		先進情報工学演習Ⅱ	専任教員	▲1					2					
		卒業論文	専任教員	●8										
	先進情報工学実験Ⅰ	専任教員	●2		2									
先進情報工学実験Ⅱ	専任教員	●2			2									
先進情報工学実験Ⅲ	専任教員	●2				2								
先進情報工学実験Ⅳ	専任教員	●2						2						
アドバンスド科目	情報工学特別講義(機械学習)	堀田 政二	2										30単位以上修得すること。	
	情報工学特別講義(ロボティクス・システム工学)	藤波 香織	2						2					
	情報工学特別講義()	()	2											
	情報工学特別講義()	()	2											
	情報工学特別講義()	()	2											
	情報工学特別講義()	()	2											
	インターンシップ		2						2					
コース科目	計算機システム	集積回路	中條 拓伯	2						2				
		ソフトウェア工学	藤波 香織	2					2					
		オペレーティングシステム	並木・山田	2					2					
	数理知能	言語処理系	並木・金子	2					2		2			
		計算機ネットワーク	杉浦・山井	2						2				
		データベース	山田・並木	2						2				
	情報メディア	アルゴリズム論	金子 敬一	2					2					
		オブジェクト指向プログラミング	近藤 敏之	2					2					
		関数プログラミング	(ボサール)	2						2				
		人工知能	藤田 桂英	2					2					
		オペレーションズ・リサーチ	宮代 隆平	2						2				
		コンピュータグラフィックス	斎藤 隆文	2					2					
		ヒューマンインタフェース	藤田 欣也	2					2					
情報処理論	田中 雄一	2					2							
計測・制御工学	藤田(欣)・近藤(敏)	2						2						
パターン認識	中川・堀田	2						2						
画像工学・コンピュータビジョン	清水 郁子	2						2						

備考(1)◎印の授業科目は、必修とする。

(2)▲印および●印の授業科目は、選択必修とする。

(3)情報工学特別講義については、開始前に課題名を定めて開講し、合計12単位まで修得できる。

※1 必修科目26単位、▲印の科目から1単位以上、●印の科目から8単位以上を含め、35単位以上を修得すること。

情報工学科

教育分野	教 育 研 究	担 当 教 員 (専 任)	研究室所在
コ ン ピ ユ ー タ サ イ エ ン ス	コンピュータサイエンスの専門カリキュラム。	並木 美太郎	7号館 5 F 室
	研究分野は、数理情報学、アルゴリズム工学、人工知能工学、コンピュータシステム工学、システム情報学、認識制御工学、情報ネットワーク工学、メディア対話工学、モデリング応用学、仮想環境創造工学、情報教育工学。	山田 浩史	12号館 521 室
		金子 敬一	10号館 5 U 室
		藤田 欣也	10号館 4 V 室
		清水 郁子	10号館 5 Y 室
		中條 拓伯	7号館 3 C 室
	授業内容は、数理工学基礎、アルゴリズムとデータ構造、計算機アーキテクチャ、オペレーティングシステム、コンピュータネットワーク、プログラム言語、ソフトウェア工学、コンピュータグラフィックス、ヒューマンインターフェース、仮想現実工学、自然言語情報学など。	中川 正樹	10号館 5 X 室
		近藤 敏之	10号館 415 室
		藤波 香織	7号館 3 E 室
		堀田 政二	10号館 315 室
		宮代 隆平	12号館 522 室
		山井 成良	7号館 2 D 室
		篠原 和子	12号館 325 室
		宇野 良子	12号館 326 室
		原 伸生	12号館 214 室
		村田 実貴生	12号館 213 室
		藤田 桂英	10号館 403 室
		杉浦 慎哉	7号館 4 E 室
		渡辺 峻	10号館 317 室
		(齋藤隆文)	BASE 本館 620 室
(田中雄一)		BASE 本館 619 室	

※ () 内の教員は、生物システム応用科学府所属

9. 工学部共通専門科目

区分	授業科目	単位数	毎週授業時間数								備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	共通科目	工学部特別講義Ⅰ()	2									自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
		工学部特別講義Ⅱ()	1									
		環境科学Ⅰ	2									
		環境科学Ⅱ	2									
		環境科学Ⅲ	2									
	国際科目	Japanese Science and Technology	2						2		2	2単位まで、自由選択単位として卒業に必要な単位に算入できる。
		International Cooperation of Science and Technology	2						2		2	
		Engineering for Sustainable Society	2						2		2	
Environment for Sustainable Society		2						2		2		

備考 (1)工学部特別講義Ⅰ・Ⅱについては、開始前に課題名を定め開講する。

(2)国際科目は科学技術短期プログラム(STEP)留学生用の科目でもあるため、授業は英語で行われる。

10. 開放科目（整合教育）

大学院（学府）と学部が協力して教育効果を高めるために、教育上有益と認められる場合、成績が優秀で大学院（学府）への進学意欲のある学部4年次生に対して、大学院（学府）で開講されている開放科目の履修を認め、進学後に単位を認定する制度です。

1. 定義

学部生が受講する大学院（学府）科目を「開放科目」と称する。

2. 受講条件

- (1) 1～3年次後学期までの通算GPAが**3.0以上**であること。
- (2) **本学大学院（学府）の進学希望者**であること。

3. 履修年次

4年次とする。

4. 上限単位数・単位認定

4単位とする。

修得した単位は、学部卒業後、引き続き大学院（学府）へ進学した場合、大学院（学府）において単位認定され、修了要件に含めることができる。

※学部の卒業要件単位には含まれません。

5. 履修可能科目

教務係窓口にてお問い合わせください。

6. 履修方法

全ての受講条件を満たしており、学部指導教員および授業担当教員の承認が得られた場合に限り、所定の期日（前学期および後学期の履修登録期間内）までに、別紙「開放科目履修許可願」により、履修登録を行ってください。

7. その他

- (1) CAP制度から除外されます。
- (2) 当該科目の試験に合格した場合、大学院進学後、当該科目の再履修は認められません。
- (3) 3年次編入学生も同様に適用されます。

11. 東京農工大学グローバル・プロフェッショナルプログラム

1. グローバル・プロフェッショナルプログラムとは

本プログラムは、国際社会の中で日本のプレゼンスを高めることに貢献し得る理工系グローバル・プロフェッショナル（トップ研究者・トップ技術者・プロフェッショナル人材）の育成をめざし、学部1年から博士課程生までを対象に展開する。

グローバル・プロフェッショナルへのキャリアプロセスとしては、学部1年から博士課程までの一貫教育を中核としつつ、ダイバーシティの観点から複線型キャリアを採用し、途中からのエントリー、途中でのキャリアチェンジも支援する。

2. 参加要件

本プログラムは、能力別カリキュラムを採用している。「プライマリー」→「ミドル」→「トップ」の三段階となっており、「プライマリー」からスタートする学生に関しては、学年を問わず「意欲」重視で採用する。その他の段階「ミドル」「トップ」から参加をする学生に関しては、

- ・ TOEIC・TOEFL等の英語資格及び英語プレゼン
- ・ 課外活動・インターンシップ等の経験
- ・ 専門性や研究能力

などを確認して採用を決定する。（詳細は後日配付する資料を参照）

3. 本プログラム履修生への特典

- ・ 博士課程または博士後期課程修了時に学長名の「グローバル・プロフェッショナルプログラム修了認定証」を授与
- ・ 海外派遣に関する渡航補助
- ・ スーパースキップ制度の対象

★スーパースキップ制度

グローバル・プロフェッショナルプログラムに参加している学生のうち基準を満たす者は、希望によりスーパースキップ制度により標準履修年限（9年）を6年または7年まで短縮することができる。

プログラム詳細は、グローバル・プロフェッショナルプログラム Web サイトをご参照ください。

<http://tuat-gp.jp/>

IV. 単位互換制度について

IV. 単位互換制度について

単位互換制度の概要

本学は、単位互換協定校（東京外国語大学・東京学芸大学・電気通信大学・一橋大学（以上本学を含めて、「多摩地区国立5大学協定校」という）・東京海洋大学・国際基督教大学・琉球大学および長岡技術科学大学と相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的として単位互換を実施しています。

この制度は、本学在学中に協定校において履修した授業科目について修得した単位を、本学において修得した単位として認定するものです。学生便覧「国立大学法人東京農工大学における学生の派遣、留学及び受入れに関する規程」を必ず参照してください。

この制度により本学から他大学へ送り出す学生を『派遣学生』、本学が他大学から受け入れる学生を『特別聴講学生』といいます。後学期派遣のガイダンスは行いません。

1. 多摩地区国立5大学・東京海洋大学・国際基督教大学・琉球大学・長岡技術科学大学

1-1. 出願資格

- ・多摩地区国立5大学協定校・東京海洋大学および国際基督教大学
派遣時に本学に在学する2年次以上の学部学生。
- ・琉球大学および長岡技術科学大学
派遣時に本学に在学する2年次および3年次の学部学生。

1-2. 出願手続

(1) ガイダンス（多摩地区国立5大学のみ）への出席

出願希望者に対して、1月中旬頃にガイダンスを実施しますので、必ず出席してください。なお、一度派遣学生を経験した学生であっても、次年度に協定校の授業科目履修を希望する場合は、その年度毎に内容や注意事項が変わる可能性がありますので、その場合も必ずガイダンスに出席するようにしてください。

ガイダンスの日程等詳細は12月中旬頃にWEB掲示板にてお知らせします。

なお、各大学における前学期および通年科目はガイダンス時に配布します。また、後学期科目は、6月上旬頃掲示します。

(2) 履修計画の作成

- ・多摩地区国立5大学協定校・東京海洋大学および国際基督教大学

本学から受入れ大学までの通学時間を考慮の上、無理のない履修計画を立てるようにしてください。

・琉球大学および長岡技術科学大学

琉球大学および長岡技術科学大学との単位互換にあたっては国内留学の形式をとっているため、派遣期間中は本学授業科目の単位の修得ができません。そのため卒業必要単位数を念頭におき、本学授業科目への振替可能な科目を積極的に履修することが必要となってきます。シラバス等を参考にして、所属学科の教育委員と十分相談して履修計画を立てるようにしてください。

(3) 出願書類の提出

受講希望者は、各学科教育委員の承認を得た上で、受付期間に「他大学の授業科目の履修願」などの書類を教務係に提出してください。出願受付期間は次のとおりです。

前学期および通年科目・・・1月中旬

後学期科目・・・6月下旬

受付期間を過ぎた書類は、一切受け付けません。

(4) 受入可否の確認

協定校における派遣受入可否の結果は、前学期および通年科目については3月下旬に、後学期科目については9月中旬に、大学の個人メール（webメール）で応募者にお知らせします。

1-3. 単位認定及び学業成績

(1) 多摩地区国立5大学協定校・東京海洋大学および国際基督教大学

受入れ大学からの成績通知に基づき、単位が授与されている授業科目について、原則として自由選択単位として認定されます。なお、卒業要件単位として認定可能な単位数を超えた授業科目については課程外履修科目として取扱われます。単位認定を受けた授業科目の成績は、原則として当該大学の授業科目名および単位数がそのまま表記され、評価は本学評価基準に対応されて記載されます。

(2) 琉球大学および長岡技術科学大学

受入れ大学からの成績通知に基づき、単位が認定されます。

1-4. その他

(1) 授業料

派遣学生は、本学の授業料を納入しなければなりません（国立大学法人東京農工大学における学生の派遣、留学及び受入れに関する規程、第9条）。ただし、派遣学生は、派遣先大学において検定料、入学料及び授業料は徴収されません。

(2) 試験実施方法

受験上の取扱及び追試験等の実施については、受入れ大学の規則によります。受入れ大学と本学の試験日時が重複した場合には、本学の授業科目について追試験等の措置が講じられますので、履修者本人が本学の授業担当教員と相談してください。

(3) 受入れ大学の施設の利用

履修上必要な施設・設備（附属図書館、食堂等）を利用することができます。

その際、受入れ大学が発行する「特別聴講学生証」及び本学学生証を携行してください。

V. 資格・免許状について

V. 資格・免許状について

1. 教職課程について

1 教育職員免許状取得の意義

中学校及び高等学校の教員となるには、教育職員免許法、同施行規則及び本学学則の定めるところにより、所定の基礎資格を修得し、かつ、教育職員免許状を取得するための定められた単位を修得することによって、免許状を授与されるに必要な要件を満たし、教育職員免許状を取得しなければならない。

公立学校の教員となるには、各都道府県教育委員会等が実施する教員採用候補者選考試験に合格し（登録され）採用されて、はじめて教員となることができる。

私立学校については別途個別に教員採用試験が実施されている。

なお、教育職員免許状は、一定の欠格条項（教育職員免許法第5条）該当者には授与されず、これに該当するに至った場合には、その有する免許状は効力を失うことになるので注意すること。

（注）「教育職員免許法」第5条第1項第3号から第7号までの規定

（欠格条項）

3号 成年被後見人又は被保佐人

4号 禁錮以上の刑に処せられた者

5号 免許状がその効力を失い、当該失効の日から3年を経過しない者

6号 免許状取上げの処分を受け、当該処分の日から3年を経過しない者

7号 日本国憲法施行の日以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

2 教職課程の設置

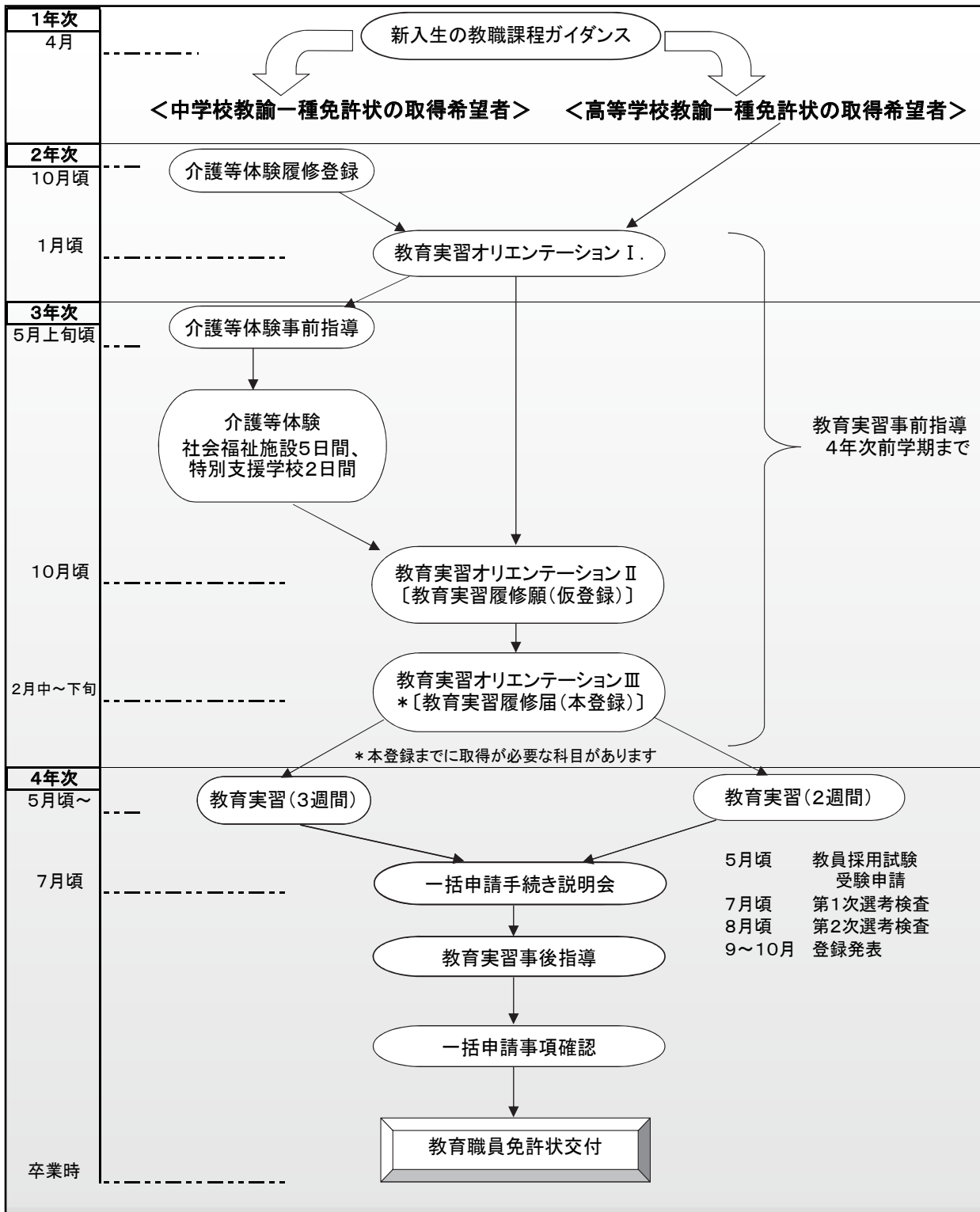
東京農工大学の学部及び大学院には、その学科、専攻ごとに教育職員免許法に基づいて、中学校及び高等学校の教育職員免許状を取得するための課程が設置されている。

この課程において定められた科目の単位を修得すれば、教育職員免許状を取得することができる。

3 教育職員免許状の取得できる学部・学科ごとの免許状の種類

学 部 ・ 学 科		中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
工 学 部	生 命 工 学 科 応 用 分 子 化 学 科 有 機 材 料 化 学 科 化 学 シ ス テ ム 工 学 科 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科	理 科	理 科
	物 理 シ ス テ ム 工 学 科	数 学	数 学
		理 科	理 科
	情 報 工 学 科	数 学	数 学
			情 報

4 教員免許状取得までの流れ



5 教職課程の履修と手続き等

教職に関する科目、教科に関する科目、施行規則第66条の6に定める科目は、それぞれ各学部で行われる授業を確認し、通常の授業の履修手続きによって履修すること。

教育実習は、事前にオリエンテーションを受講し、履修届を提出して履修することとなるので特に注意することが必要である。

また、教職に関する科目及び教科に関する科目のうち、集中講義で行われる科目があるので、別途掲示される開講日時等に特に注意すること。

教職に関する科目のうち、隔年開講（毎年開講されない）等で、入学年度により履修できる年次が異なる科目があるので特に注意すること。詳細については、「6 教育職員免許状の取得のための課程で履修する科目・単位数等」を参照すること。

※教科に関する科目、教科又は教職に関する科目、施行規則第66条の6に定める科目は卒業要件に入るが、教職に関する科目は卒業要件単位とならないので注意すること。

6 教育職員免許状の取得のための課程で履修する科目・単位数等

免許状取得に必要な所要資格は、表1に示すとおり。

一種免許状は、基礎資格を得ること及び必要単位等を修得することにより、取得することができる。

専修免許状は、

- ① 基礎資格を得ること
- ② 同一学校種・同一教科の一種免許状取得に必要な条件を学部授業科目の単位取得等によって満たすこと
- ③ 大学院の授業科目で取得希望免許教科の「教科に関する科目」に認定されている科目を24単位以上修得すること

により、取得することができる。

【表1】

免許状の種類	所要資格	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目 ^{a)}	施行規則第66条の6に定める科目				介護等体験
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	情報機器の操作	
						⇒(1)				
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8	2	2	2	2	必要	
高等学校教諭一種免許状		20	25 ^{b)}	16	2	2	2	2	—	
中学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること	24	/	/	/	/	/	/	* ^{c)}	
高等学校教諭専修免許状		24	/	/	/	/	/	/	—	
根拠となる法令		ア				イ			ウ	

ア 教育職員免許法第五条別表第一

イ 教育職員免許法施行規則第六六条の六

ウ 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律

a) 「教科又は教職に関する科目」

下記①と②の合計が必要単位数を満たすよう修得すること。

① 「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」で修得した単位のうち、それぞれの科目の最低修得単位数を超えて修得した単位数。

② 本学が指定する「教科又は教職に関する科目」→6（3）参照

b) 「教職に関する科目 2.5 単位」

免許法上、2.3 単位となっているが、「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」を

〈免許法上：高校 6 単位〉⇒〈本学：高校 8 単位〉とし、「教職に関する科目」の必要単位数を 2.5 単位とする。

c) 介護等体験の「*」

既に中学校の免許状を取得しているもの（平成 10 年 3 月 31 日までに在学し、卒業するまでに所要資格を得た者を含む）は不要。

取得する教育職員免許状の種類ごとに、次の科目の単位数を修得する。

(1) 施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目		左欄に対応する授業科目	
科目名	単位数	工学部	
日本国憲法	2	日本国憲法	
体 育	2	体力学実技	
		生涯スポーツ実技	
		スポーツ健康科学理論	
外国語コミュニケーション	2	生命工学科 機械システム工学科	Integrated English Paragraph Writing English Discussion English Presentation
		応用分子化学科 有機材料化学科 化学システム工学科 電気電子工学科	Integrated English Paragraph Writing
		物理システム工学科	Integrated English Paragraph Writing English Reading
		情報工学科	English Discussion English Presentation
情報機器の操作	2	生命工学科	バイオインフォマティクス基礎
		応用分子化学科	コンピュータ基礎
		有機材料化学科	プログラミング基礎
		化学システム工学科	情報科学基礎
		機械システム工学科	コンピュータプログラミング I CAD演習
		物理システム工学科	コンピュータ解析および演習
		電気電子工学科	プログラミングおよび演習
情報工学科	情報工学概論		

注1) 日本国憲法(2単位)は教育実習の履修届を提出する時(3年次終了時)までに修得

注2) 体育については、3単位以上修得することが望ましい。

(2) 教職に関する科目

免許法科目	科目名	単位数	履修上の留意事項		履修年次		
教職の意義等に関する科目(2単位)	教 職 概 論	2	必修	隔年開講	1・2		
教育の基礎理論に関する科目(6単位)	教 育 原 理	2	必修	隔年開講	1・2		
	教 育 心 理 学	2	必修	隔年開講	1・2		
	教 育 制 度 論	2	必修	隔年開講	1・2		
教育課程及び指導法に関する科目 (中学12単位) (高校 8単位)	教 育 課 程 論	2	必修	隔年開講	1・2		
	数学教育法Ⅰ	2	該 当 教 科 教 育 法 に つ い て は 必 修	<p>数学教育法ⅠⅡⅢⅣはこの順番に毎年度1つずつ開講される。中学校免許状を取得する者はこれらから2つ以上を履修すること。 高校免許状を取得する者はどれか1つでよいが、2つ以上履修することが望ましい。</p> <p>理科教育法ⅠⅡⅢⅣは奇数年度にⅡとⅣが、偶数年度にⅠとⅢが開講され、以後この組合せで同じ授業が隔年開講される。中学校免許状を取得する者はこれらから2つ以上を履修すること。 高校免許状を取得する者はどれか1つでよいが、2つ以上履修することが望ましい。</p> <p>情報教育法ⅠⅡは交互に隔年開講される。免許状取得にはⅠ又はⅡのどちらかだけでよいが、できれば両方とも履修することが望ましい。</p>	1・2・3		
	数学教育法Ⅱ	2					
	数学教育法Ⅲ	2					
	数学教育法Ⅳ	2					
	理科教育法Ⅰ	2			2・3		
	理科教育法Ⅱ	2					
	理科教育法Ⅲ	2					
	理科教育法Ⅳ	2					
	情報教育法Ⅰ	2			1・2・3		
	情報教育法Ⅱ	2					
	道徳教育の研究	2			中学校教諭一種免許状を取得する者は必修	隔年開講	1・2
	特 別 活 動 論	2			必修	毎年開講【集中】	3・4
	教育方法・技術論	2			選択必修	隔年開講	1・2
情 報 教 育 論	2	隔年開講【集中】				1・2・3・4	

免許法科目	科目名	単位数	履修上の留意事項		履修年次
生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 (4単位)	生徒指導・進路指導論	2	必修	隔年開講	1・2
	教育カウンセリング論	2		毎年開講【集中】	1・2
教職実践演習 (2単位)	教職実践演習	2	必修	4年次履修	4
教育実習 (中学 5 単位) (高校 3 単位)	教育実習事前事後指導	1	必修	○教育実習事前事後指導は、2年次から履修します。 ○教育実習は、4年次に履修します。 ○教育実習は、教育実習事前指導を受講していなければ履修できません。 ○教育実習の単位取得(成績評価)は、事前指導、実習校での実習及び事後指導のすべてを総合して行います。	2～4
	中学校教育実習	4	該当免許により必修		4
	高等学校教育実習	2			

(注)

1. 中学校教諭一種免許状を取得する者は、教職に関する科目から必修科目を含め31単位以上を修得しなければならない。
2. 高等学校教諭一種免許状を取得する者は、教職に関する科目から必修科目を含め25単位以上を修得しなければならない。

(3) 教科又は教職に関する科目

科目名	単位数	履修上の留意事項
現代倫理論	2	左記「教科又は教職に関する科目」又は最低修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」を併せて、中学校免許状を取得する者は8単位以上、高校免許状を取得する者は16単位以上を修得すること。
現代宗教論	2	
多文化共生論	2	
ジェンダー論	2	
共生社会政策論	2	
国際平和論	2	
哲学	2	
文学・芸術学	2	
心理学	2	
教育学	2	
経済学	2	
社会学	2	
歴史学	2	

(4) 教科に関する科目

1) 工学部において中学校教諭一種、高等学校教諭一種の理科の免許状を取得する場合

生命工学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	○物理学基礎	2	生物学	○生物学基礎	2
	電磁気学	2		生命化学Ⅰ	2
	量子力学概論	2		分子生物学Ⅰ	2
	熱力学	2		分子生物学Ⅱ	2
物理学実験	○生命工学実験Ⅰ	4		ライフサイエンス基礎演習Ⅰ	2
化学	○化学基礎	2	生物学実験	○工学基礎実験	2
	生命有機化学Ⅰ	2		生命工学実験Ⅲ	4
	生命物理化学Ⅰ	2		基礎生物学実験	2
化学実験	○生命工学実験Ⅱ	4	地学	○地学	2
			地学実験	△地学実験	1

応用分子化学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	○力学	2	化学	高分子化学	2
	○電磁気学	2		無機化学Ⅱ	2
	量子化学Ⅰ	2		物理化学Ⅲ	2
	応用物理化学	2		有機化学Ⅲ	2
	応用分子化学基礎演習Ⅰ	1		反応速度論	2
エネルギー化学	2	有機反応論	2		
物理学実験	○応用分子化学実験Ⅲ	3	半導体化学	2	
化学	○有機化学Ⅰ	2	化学実験	○応用分子化学実験Ⅰ	3
	○物理化学Ⅰ	2		○応用分子化学実験Ⅱ	3
	無機分析化学	2	生物学	生物学	2
	無機化学Ⅰ	2		○生物化学Ⅰ	2
	有機化学Ⅱ	2		生物化学Ⅱ	2
	物理化学Ⅱ	2	生物学実験	○工学基礎実験	2
	有機機器分析	2	地学	○地学	2
	無機機器分析	2	地学実験	△地学実験	1
	応用分子化学基礎演習Ⅱ	1			

有機材料化学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	○物理学基礎	2	化学	熱力学Ⅱ	2
	力学概論	2		有機化学Ⅱ	2
	振動・波動の物理	2		量子化学Ⅰ	2
	材料電磁気学	2		高分子化学Ⅰ	2
物理学実験	○科学基礎実験	1	化学実験	○有機材料化学実験Ⅱ	4
	有機材料化学実験Ⅰ	4		有機材料化学実験Ⅲ	4
化学	○熱力学Ⅰ	2	生物学	生物学	2
	○無機化学Ⅰ	2		○生物機能化学	2
	分析化学	2	生物学実験	○工学基礎実験	2
	○有機化学Ⅰ	2	地学	○地学	2
	反応速度論	2	地学実験	△地学実験	1

化学システム工学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	○物理学基礎	2	化学	化学基礎	2
	○電磁気学	2		反応速度論	2
	量子力学概論	2		化学工学序論	1
物理学実験	○化学システム工学実験Ⅲ	3		化学工学基礎	2
化学	○有機化学基礎	2	化学実験	○化学システム工学実験Ⅰ	3
	分析化学	2	化学システム工学実験Ⅱ	3	
	○無機化学基礎	2	生物学	○生物学基礎	2
	有機化学	2	生物化学	2	
	平衡論	2	生物学実験	○工学基礎実験	2
	機器分析化学	2	地学	○地学	2
			地学実験	△地学実験	1

機械システム工学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	○物理学基礎	2	物理学	伝熱学Ⅰ	2
	○物理学基礎演習	1		伝熱学Ⅱ	2
	機械力学Ⅰ	2		エネルギー変換工学	2
	機械力学Ⅱ	2		航空宇宙流体力学	2
	流体力学Ⅰ	2		機械材料学	2
	熱工学Ⅰ	2		機械電子工学Ⅰ	2
	○電磁気学	2	物理学実験	○機械システム工学実験Ⅱ	2
	量子力学概論	2	○機械システム工学実験Ⅲ	2	
	材料力学Ⅰ	2	化学	○化学基礎	2
	材料力学Ⅱ	2	化学実験	○機械システム工学実験Ⅰ	2
	○静力学	2	生物学	○生物学基礎	2
	動力学	2	生物学実験	○工学基礎実験	2
	熱工学Ⅱ	2	地学	○地学	2
	流体力学Ⅱ	2	地学実験	△地学実験	1

物理システム工学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	力学入門	2	物理学	○量子力学Ⅰ	2
	○力学Ⅰ	2		量子力学Ⅱ	2
	力学Ⅱ	2	物理学実験	○物理システム工学実験Ⅰ	2
	電磁気学入門	2		○物理システム工学実験Ⅱ	2
	○電磁気学Ⅰ	2		○物理システム工学基礎実験	1
	電磁気学Ⅱ	2	化学	○化学基礎	2
	量子力学入門	2		物理化学	2
	力学演習	1	化学実験	○物理システム工学実験Ⅲ	2
	物質科学入門	2	生物学	○生物学基礎	2
	環境科学	2	生物学実験	○工学基礎実験	2
	エネルギー科学	2	地学	○地学	2
	電磁気学演習	1	地学実験	△地学実験	1

電 気 電 子 工 学 科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
物理学	○ 物理学基礎および演習	3	物理学実験	○ 電気電子工学実験ⅡA 又は電気電子工学実験ⅡB	2
	○ 電磁気学Ⅰおよび演習	3		電気電子工学実験ⅢA	2
	○ 電磁気学Ⅱおよび演習	3		電気電子工学実験ⅢB	2
	量子力学概論	2			
	熱統計力学	2	化学	○ 化学基礎 物理化学	2
	○ 基礎電気回路Ⅰおよび演習	3			
	基礎電気回路Ⅱおよび演習	3	化学実験	○ 電気電子工学実験Ⅰ	2
	ベクトル解析および演習	3	生物学	○ 生物学基礎	2
			生物学実験	○ 工学基礎実験	2
			地学	○ 地学	2
		地学実験	△ 地学実験	1	

(注)

1. 理科の中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、「科目区分」すべての領域から『○印及び△印を付したすべての授業科目』を含め、20単位以上を修得しなければならない。
2. 理科の高等学校教諭一種の免許状を取得しようとする者は、地学実験を除くすべての「科目区分」において、『○印を付したすべての授業科目』を含め、20単位以上を修得しなければならない。
3. 教科に関する科目の修得単位数が必要単位数である20単位を超える場合、その超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に算入することができる。

2) 工学部において中学校教諭一種、高等学校教諭一種の数学の免許状を取得する場合

物 理 シ ス テ ム 工 学 科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
代数学	代数学Ⅰ	2	解析学	関数論	2
	物理数学Ⅰ	2		量子力学演習	1
	○線形代数学Ⅰ	2	確率論、統計学	○熱物理学入門	2
	○線形代数学Ⅱ	2		熱統計力学	2
	物理数学演習	1		物理数学Ⅱ	2
幾何学	○幾何学	2	物理実験学	2	
	振動・波動	2	熱統計力学演習	1	
	フォトニクス	2			
解析学	○微分積分学Ⅰおよび演習	3	コンピュータ	○コンピュータ基礎実験	1
	○微分積分学Ⅱおよび演習	3		計測・制御回路	2
	○微分方程式Ⅰ	2		電子回路	2

情報工学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
代数学	○線形代数学Ⅰ	2	確率論、統計学	○数理統計学	2
	○線形代数学Ⅱ	2		○情報理論	2
	○代数学Ⅰ	2		○情報理論演習	1
	○論理回路	2		情報数学	2
幾何学	○幾何学	2	コンピュータ	情報数学演習	1
解析学	○微分積分学Ⅰおよび演習	3		オペレーションズ・リサーチ	2
	○微分積分学Ⅱおよび演習	3		関数プログラミング	2
	○微分方程式	2		アルゴリズム論	2
	○関数論	2		○情報工学基礎演習	1
	○信号処理論	2		○アルゴリズム序論演習	1

(注)

1. 数学の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、「科目区分」すべての領域から『○印を付したすべての授業科目』を含め、20単位以上を修得しなければならない。
2. 教科に関する科目の修得単位数が必要単位数である20単位を超える場合、その超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に算入することができる。

3) 工学部において高等学校教諭一種の情報の免許状を取得する場合

情報工学科					
科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数	科目区分	左欄に対応する学科開設科目	単位数
情報社会及び情報倫理	○言語情報文化論	2	情報システム	○計算機アーキテクチャ基礎	2
	○特許法	2		○ヒューマンインターフェース	2
コンピュータ及び情報処理	○プログラミング序論	2		○計算機アーキテクチャ演習	1
	○プログラミング基礎	2		○情報工学実験2	2
	○アルゴリズム序論	2	情報通信ネットワーク	○計算機ネットワーク	2
	○言語処理系	2	マルチメディア表現及び技術	○コンピュータグラフィックス	2
	○オペレーティングシステム	2		○パターン認識	2
	○計測・制御工学	2		○画像工学・コンピュータビジョン	2
	○プログラミング序論演習	1		○情報工学実験3	2
○プログラミング基礎演習	1	情報と職業	○情報化社会と職業	1	
情報システム	○データベース	2			
	○ソフトウェア工学	2			

(注)

1. 情報の高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、「科目区分」すべての領域から『○印を付したすべての授業科目』を含め、20単位以上を修得しなければならない。
2. 教科に関する科目の修得単位数が必要単位数である20単位を超える場合、その超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に算入することができる。

(5) 他大学で修得した単位の認定

入学する前に、教職課程の認定を受けていない大学（短期大学を含む）又は高等専門学校の前4学年及び第5学年に係る課程で修得した単位若しくは専攻科の課程での学修のうち、「教科に関する科目」として適当であると認める科目については、本学の定めるところにより認定することができるので、該当者は申し出ること。

(6) 教育実習について

ア 教育実習の意義

教職への道を選ぶ際、教育現場における観察・参加・実習などを、総合的・体験的に予め学習することを通して、確かな教職観を身につける。

イ 教育実習を履修する要件・手続き等

(ア) 履修の要件

教育実習を行う時まで、日本国憲法2単位及び教職に関する科目（教科教育法Ⅰ～Ⅳを含む）12単位以上を履修しておくこと。

卒業見込があること。（科目等履修生を除く。）

(イ) 履修の手続き

教育実習を受講する者は、「教育実習事前事後指導」（オリエンテーションⅠ～Ⅲおよび4年次前期に開講する講義）を必ず受講し、学部が指示する期間に所定の手続きをとり、教育実習履修届を提出すること。

(ウ) 教育実習実施

教育実習の履修には、次の授業・実習の全体が含まれる。

成績評価は、事前指導、本実習及び事後指導のすべてを修得した者について行い、「教育実習事前事後指導」1単位、「中学校教育実習」4単位又は「高等学校教育実習」2単位を認定する。

科 目	実 施 時 期	授 業 内 容 等
教育実習事前事後指導 (1単位)	教育実習事前指導 2年次1月頃～ ・オリエンテーションⅠ →2年次1月頃 ・オリエンテーションⅡ →3年次10月頃 ・オリエンテーションⅢ →3年次2月頃 ・講義 →4年次前期	教育実習の目的・内容・展開・ 教育機器の意義と利用
高等学校教育実習 (2単位)	教育実習 4年次 5～10月	教育実習校での実習
中学校教育実習 (4単位)	教育実習事後指導 4年次 教育実習終了後	レポートを提出し実習経験を 踏まえての討議等

(7) 介護等体験について

中学校教諭一種免許状を取得する学生は「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年6月18日公布）同法施行規則（同年11月26日公布）により、平成10年度入学生から介護等体験を行うことが義務付けられた。

そこで3年次の学生が東京都において社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の介護等体験を行うことになる。（2年次の10月に実施する介護等体験ガイダンスに出席し、介護等体験履修願を提出すること。）

7 教育職員免許状の申請・交付

教育職員免許状は、各都道府県の教育委員会が授与することとされており、個人でそれぞれ居住地の都道府県教育委員会に申請することとなっているが、卒業後にすぐ免許状の取得を必要とする人たちのため、東京都教育委員会では、迅速な事務処理の方法として、大学でとりまとめて免許状の申請手続を行う「一括申請」の制度をとっている。一括申請をするために必要な説明会を4年次の7月頃に開催するので、これに出席し必要な手続を取る。さらに、4年次の1～2月に申請手数料を納付すること。

この手続を行い東京都教育委員会の一括審査で承認された者には、卒業式当日に教育職員免許状が交付される。

8 教職に関する科目の講義要目

各科目の講義要目は、本学ウェブサイトのシラバスを参照すること。

2. 学芸員課程

博物館には専門的職員として学芸員を置くことが、博物館法第4条の3により定められています。本学では博物館学芸員資格を取得しようとする者のために、博物館に関する授業科目を開設しています。なお、博物館課程の履修は3年以上かかります。専門科目等の日程を考慮して履修計画を立ててください。

また、3年次編入生は学部卒業までに課程を修了することはできません。3年次編入生で履修を希望する者は、事前に必ず教務係に問い合わせてください。

【博物館学芸員資格を取得するために履修する科目・単位数等】

授 業 科 目	単 位 数	時間数	開講 キャンパス	備 考
	必 修			
生涯学習概論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館概論	2	30	小金井	
博物館経営論	2	30	府 中	奇数年度開講予定
博物館資料論	2	30	小金井	
博物館展示論	2	30	小金井	
博物館資料保存論	2	30	小金井	
博物館情報・メディア論	2	30	府 中	奇数年度開講予定
博物館教育論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館実習	3	90	小金井	通年開講
合 計	19	330		

- ・博物館に関する授業科目の単位は卒業に必要な単位としては認められません。
- ・博物館に関する授業科目は集中講義で行われます。開講日程等はWEB掲示板にてお知らせするので良く確認してください。

【学芸員課程ガイダンスについて】

毎年4月に「学芸員課程ガイダンス」を開催します。履修を希望する者は、履修についての注意事項などの説明を行いますので、必ず出席してください。開催日時および場所はWEB掲示板にてお知らせします。

【博物館実習について】

- ・博物館実習は3年次以上が履修可能で、通年で開講されます。
- ・博物館実習を履修するには前年度までに「博物館実習」以外の全科目を修得済みであることが条件です。

学芸員関係事項の日程

4月	学芸員課程ガイダンス
夏休み	集中講義履修
5月～	博物館実習（通年）
卒業時	学芸員課程修了証書 授与

※ガイダンス・オリエンテーションの開催時期は目安であり、前後することがあります。詳細は掲示板等で確認して下さい。

単位取得者に対して、「博物館に関する科目の単位取得証明書」を教務係で発行しますので必要な場合は申し出て下さい。

3. 電気主任技術者

電気電子工学科では、在学中に所定の科目の単位を修得し、卒業後、一定の実務経験を経た後に電気主任技術者の資格を取得することができます。資格取得を希望する学生は、以下を参照し、必要授業科目を履修するよう履修計画を立てて下さい。

電気主任技術者の資格を取得しようとする者に必要な授業科目の履修に関する要項

平成22年1月27日教育委員会承認

- 1 電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令および同認定基準に基づく電気主任技術者の資格を取得しようとする者（以下「取得希望者」という）が履修すべき授業科目及び単位数を下表のとおり定める。
- 2 取得希望者は、同表の科目区分ごとに指定された授業科目の中から、それぞれ必要単位数以上を修得し、合わせて49単位以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	電気主任技術者の資格を取得するのに必要な授業科目及び単位数
1. 電気工学又は電子工学等の基礎に関するもの	12単位以上	◎ 電磁気学Ⅰおよび演習(3) ◎ 基礎電気回路Ⅰおよび演習(3) ◎ 電磁気学Ⅱおよび演習(3) ◎ 基礎電気回路Ⅱおよび演習(3) ◎ 計測工学(2)
	19単位以上	○ 基礎電子回路および演習(3) ○ 論理回路および演習(3) ○ デジタル電子回路(2) ○ 電子物性工学(2) ○ 電子デバイスⅠおよび演習(3) ○ 電子デバイスⅡ(2)
2. 発電、変電、送電、配電及び電気材料並びに電気法規に関するもの	8単位	◎ 電力工学(2) ◎ 電気電子材料(2) ◎ エネルギーネットワーク工学(2) ◎ 電気法規および施設管理(2)
	10単位以上	○ 高圧工学(2)
3. 電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送及び処理に関するもの	6単位	◎ 電気電子機器(2) ◎ 制御工学(2) ◎ パワーエレクトロニクス(2)
	12単位以上	○ 通信工学(2) ○ プログラミングおよび演習(3) ○ 画像情報工学(2) ○ 計算工学基礎(2) ○ 信号処理(2) ○ マイクロプロセッサ(2) ○ 電磁波工学(2) ○ 通信システム工学(2) ○ コンピュータ基礎演習(1)
4. 電気工学若しくは電子工学実験又は電気工学若しくは電子工学実習に関するもの	4単位以上	◎ 電気電子工学実験Ⅰ(2) ◎ 電気電子工学実験ⅢA(2) ◎ 電気電子工学実験ⅡA(2) ◎ 電気電子工学実験ⅡB(2)
	6単位以上	○ 電気電子工学実験ⅢB(2)
5. 電気及び電子機器設計又は電気及び電子機器製図に関するもの	2単位以上	○ 電気電子製図(1) ○ 電子情報工学製図(1)
計	49単位以上	()は単位数を表す。

(備考) ◎印科目は、必ず開設しなければならない授業科目を、○印科目は、その他の授業科目を示す。

(注 1) 必要単位数を修得する際に○印科目も含めて修得すること。

(注 2) この要項により所定の単位を修得し卒業（大学院においては修了）した者は、所定の内容・年数の「実務の経験」を経て電気主任技術者の免状を取得することができる。

VI. 履修関係 Q & A

VI. 履修関係 Q & A

教務係の窓口でよく聞かれる質問事項です。参考にしてください。

●履修申告について

時間割表の配布はいつからですか？

前期分は3月中旬以降、後期分は9月中旬頃配布します。詳しい日時についてはWEB掲示板にて周知します。

CAP制度はどのような科目が対象ですか？

本冊子の34ページを参照してください。

前学期から開講される通年科目の登録を忘れました。後学期に履修登録することはできますか？

前学期から開講される通年科目の登録を後学期から行うことはできません。履修登録対象学期にかならず履修登録するようにしてください。

前年度に単位を落としてしまった科目と本年度の必修科目との開講が重なっています。両方の科目を履修すること（重複履修）ができるでしょうか？

重複履修はいかなる場合も認めていません。

4年次学生で履修する科目がありません。履修登録をしなくても良いですか？

卒業論文の履修登録はしましたか？ それでも履修登録がない場合は、SPICAで「今学期は履修しない」にチェックをして確認ボタンを押してください。

履修登録の期間を過ぎてしまいました。受け付けてもらえますか？

確認期間があるので、必ず確認の上修正を行ってください。確認期間後は受け付けません。

履修科目を学期途中で追加したいのですがどうすれば良いですか？

履修登録が可能なのは履修登録期間及び確認期間のみです。以降の追加登録は認めません。

第2外国語科目が希望のクラスに配属されませんでした。他の外国語を履修することはできますか？

自分が配属されたクラス以外での履修はできません。外国語科目は授業規模に限りがありますので、配属されたクラスの授業を必ず履修してください。（2年次以上になれば希望のクラスでの履修が認められます）

上の学年の授業内容に興味があり履修したいのですが、履修することは可能ですか？

上位学年科目は原則として履修することはできませんが、特別な事情がある場合は教育委員に相談してください。ただし、E科およびS科2年次留年生については一部の年次外科目の履修を認めていますので、本冊子の該当するページ（E科は99ページ、S科は107ページ）を参照し履修登録期間内に履修登録届を提出してください。

他学科の科目を履修したいのですが履修することは可能ですか？

別途の手続きによることで履修することができます。

他の学科の全学共通教育科目（自然科学系基礎科目）・専門基礎科目の単位が取りやすいと聞きました。他の学科の授業を履修してもいいですか？

後学期から休学したのですが、前学期に登録した通年科目の履修はどのような扱いになりますか？

風邪（葬式・事故・入院等）で授業を休みました。欠席届を出したいのですが？

授業担当教員と連絡を取りたいのですがどうすればよいですか？

レポート・課題に本やインターネットの内容を使うことができますか？

授業で配られた教材をインターネット上で公開することはできますか？

授業内容を撮影・録音することはできますか？

外国語検定試験等に基づく単位認定はいつ受け付けていますか？

履修登録を忘れましたが、授業に出席しました。試験に合格したら単位をもらうことができますか？

「単位が取りやすい」という理由では他学科の授業は履修できません。自学科の授業を履修するのが原則ですが再履修の授業時間が自学科必修授業と重複してしまう、該当科目の理解を含める目的、等各学科の指定する特定の条件を満たす場合に限り他学科の授業履修が認められることがあります。詳細は38ページの該当項目をご参照ください。

休学した時点で履修登録は無効となります。ただし、特別な理由があるときは履修を認める場合がありますので、学科教育委員に相談してください。休学前に良く確認し、事前に学科の教育委員と相談しておく必要があります。

本学では公欠制度を採用していませんので、授業を休んだ時は欠席となります。ただし、学校感染症（ex. インフルエンザ・麻疹）に罹患した場合は出席停止となりますので、詳しい手続きの方法は、学生便覧の「学校感染症に罹患した場合の授業の取扱いについて」を参照してください。手続き終了後、授業配慮依頼書を発行します。

本学の教員の場合は、各学科ごとの担当教員の頁を参照してください。非常勤講師への連絡は、シラバスや授業中指示された連絡先に行ってください。教務係で連絡先を教えることはできません。

本やインターネットの情報をレポート・課題にそのまま使うことは許されません。一部分を引用して使う場合でも引用箇所や出典を示す必要があります。

授業で配られた教材はあくまで学生が個人で利用するためのものです。勝手にインターネット上に公開を行うと著作権の侵害になる場合があります。

担当教員の許可をもらってから行ってください。また、撮影・録音をしたデータは個人的な利用のみ認められています。

4月と10月の月上旬に申請を受け付けています。詳しい日程はWEB掲示板にて周知します。

履修登録していない科目は、たとえ出席し、試験に合格したとしても単位は認定されません。

●授業について

●単位・成績について

成績はいつ発表されるのですか？

付与された成績を授業担当教員に確認したいのですがどうすればよいですか？

卒業できるか否か確認したいのですが？

昨年度『C』の成績を取った科目を今年度もう一度履修して、AかBを取ったら成績を変更してくれるのですか？

2単位の学科専門科目を1単位は学科専門科目として、1単位は自由選択単位として充当したいのですが可能ですか？

証明書を即日発行してもらえますか？

窓口で申請した証明書の受け取りの際に学生証を忘れました。受け取れますか？

窓口で申請した証明書などの書類の受け取りを代理人に頼めますか？

休学の申請はいつまでに行えばよいでしょうか？

他学科で取得できる教員免許状を取得することは可能ですか？

1年次の教職課程オリエンテーションに出席していないのですが、教職課程を履修することはできますか？

前学期の成績は9月中旬に、後学期の成績は3月中旬に発表します。詳しい日程についてはWEB掲示板にて周知します。

各学期の初めに成績確認期間があります。詳しい日程や確認の方法については、WEB掲示板でお知らせします。

履修案内と成績表を参照し自分で卒業できるかを確認してください。卒業認定は3月上旬の委員会にて行われます。委員会終了後にSPICAの各自のポータル画面、『学籍情報照会』で確認してください。

一度成績（S・A・B・C）がついた科目は履修できません。したがって、成績は変わりません。

可能です。

証明書の種類によって異なりますので学生便覧を参照してください。

証明書は個人情報ですので、学生証がなければ証明書をお渡しすることはできません。

止むを得ない事情により証明書を受け取れない場合は、委任状にて代理人が受け取ることができます。

休学希望日の1か月前までに教務係に休学願を提出してください。なお、一度支払った授業料は学期の途中で返付することができませんので注意してください。詳しくは教務係までお問い合わせください。

工学部では認めていません。自学科で取得できる教員免許状を取得してください。

教職課程は1年次前期から履修することを原則とします。1年次後期以降から教職課程を履修する場合は教職担当教員の指導を受けてください。本学のカリキュラムでは途中から教職課程を履修した場合、学部卒業時に教職課程を修了できなくなる場合があります。

●各種書類について

●資格・免許状について

VII. SPICA 等基本操作手順

SPICA 基本操作手順

(東京農工大学学務情報システム)

【I】ログイン方法

<アクセスについて>

本学ホームページのメニューバーで「学生生活・就職進学」をクリックします。



「学務情報システム (SPICA) 利用のご案内」をクリックして SPICA 利用案内文へ。

「SPICA 学務情報システムログイン」をクリック





<ログイン画面>

SPICA-IDとパスワードを入力し (①)、
「ログイン」ボタンをクリックします (②)。

※初期パスワードはアカウント通知書に記載さ
れている8桁の数字です。

※パスワードを変更した場合は変更後の
パスワードを入力して下さい。

学生のポータル画面です。
ここにあるメニューを選んで、それ
ぞれの操作を行います。



セキュリティ確保の点から、適宜、パスワードの変更をお勧めいたします。詳細はメディアセンターの
HPで確認してください。

※変更後のパスワードは個人での管理となります。変更後は事務で確認できませんので充分ご注意
下さい。

【Ⅱ】履修登録方法（時間割表から入力する方法と一覧表から入力する方法があります）

<1>時間割表形式入力の場合



学生ポータル画面のメニューで「履修登録」をクリックします。

個人の履修登録画面が時間割表の形式で表示されます。

履修登録する曜日時限の「追加」ボタンをクリックして下さい(①)。一度入力した科目を削除する場合は「削除」ボタンをクリックすることで取り消せます(②)。



履修可能科目一覧が表示されます。

開講対象毎(自学科科目、他学科科目、他学部科目等)に別シートになっています(①)。履修する科目を選んで「追加」ボタンをクリックして下さい(②)。

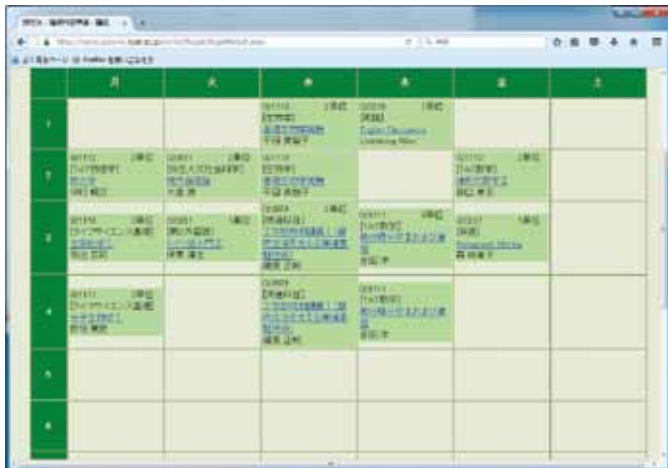
※各画面では、科目名をクリックするとシラバスが表示されます。科目選択時の参考にして下さい。



全ての履修科目の入力が完了したら、
登録画面下の「確認画面へ」をクリック
します。



＜登録エラーがない場合＞



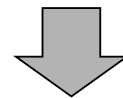
時間割形式の確認画面になります。
(この画面では入力出来ません)



＜登録エラーがある場合＞



時間割の上にエラーの説明が表示されます。エラー科目も
赤く表示されますので、「削除」ボタンで削除してください。



エラー科目の削除後、再度「確認画面へ」をクリックすると、
エラーの無い、時間割形式の確認画面が表示されます。



時間割形式の確認画面下にある「確認」ボタンをクリックします。

再度追加・修正を行いたい場合は「編集画面へ戻る」をクリックして、登録画面から適宜入力し、最後に「確認」ボタンをクリックして下さい。



履修登録手続きはこれで終了です。
「トップページ」をクリックすると、学生ポータルメニュー画面に戻ります。

<2>一覧表形式入力の場合

学生ポータル画面のメニューで「履修登録」をクリックします。



登録画面で「一覧表形式入力」をクリックします。

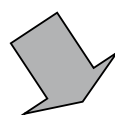
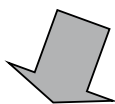
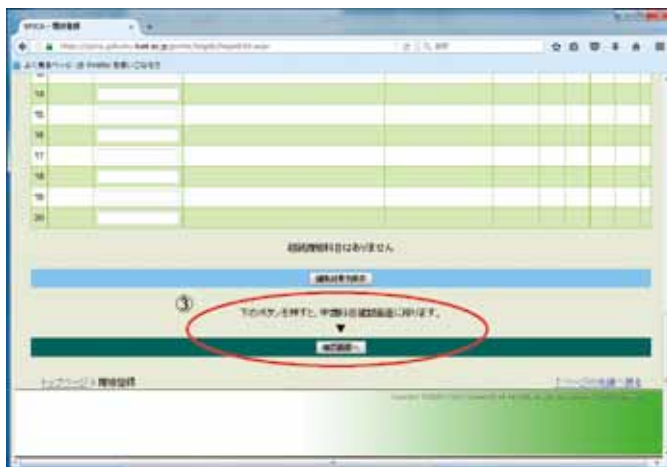
履修したい科目の時間割コードを入力します。(①)



全ての履修科目の入力が完了したら、画面下の「編集結果を保存」をクリックします。(②)



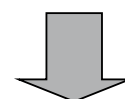
再度同じ画面(一覧表)が表示されますので、一番下の「確認画面へ」をクリックして下さい。(③)



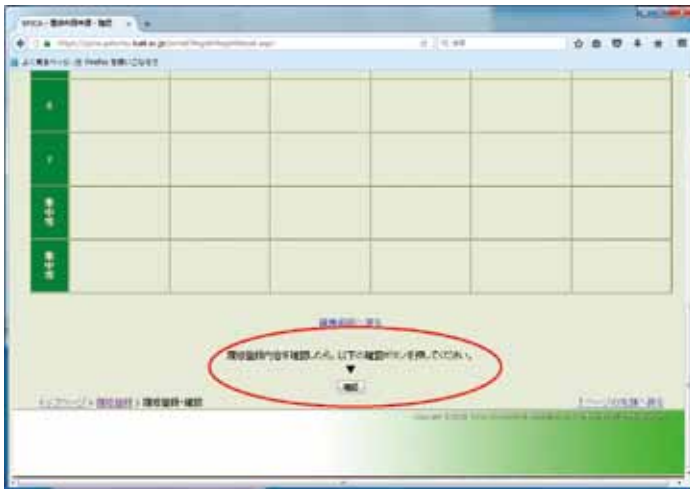
＜登録エラーがない場合＞

＜登録エラーがある場合＞

科目一覧の上にエラーの説明が表示されます。
 エラー科目も備考欄に赤字で表示されますので、
 削除のチェックボックスにチェックを入れて、「編集
 結果の保存」→「確認画面へ」の手順を行なって下さい。



エラーの無い、時間割形式の確認画面になります。



時間割形式の確認画面下にある「確認」ボタンをクリックします。

再度追加・修正を行いたい場合は「編集画面へ戻る」をクリックして、登録画面から適宜入力し、最後に「確認」ボタンをクリックして下さい。



履修登録手続きはこれで終了です。
「トップページ」をクリックすると、学生ポータルメニュー画面に戻ります。

<3>履修登録を行わない場合

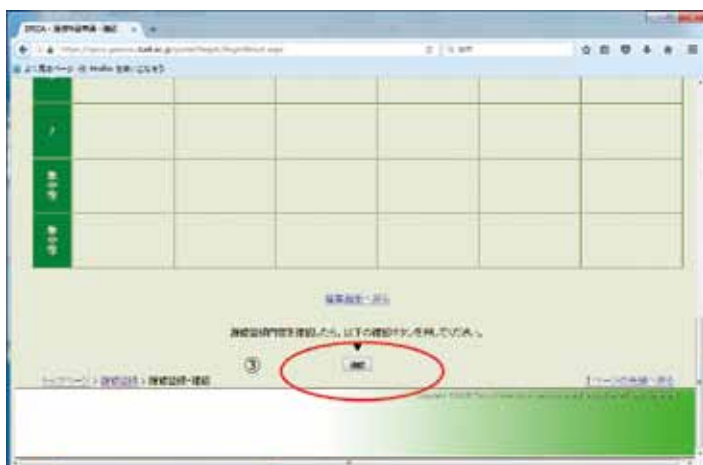
4年次の後期など、集中講義以外の科目の履修登録の必要が無い場合は以下の手続を行なって下さい。
(休学者がこの手続を行なう必要はありません)

登録画面の一番上、「今学期は履修しない」のチェックボックスをクリックして①、「確認画面へ」をクリックして下さい②。

下記の画面が表示されます。



問題なければ画面下にある「確認」ボタンをクリックして、内容を確定して下さい。
(③)



履修登録を行う場合は「編集画面」に戻って登録手続を行なって下さい。

<注>工学部で開講する集中講義の履修登録は別途登録用紙にて行ないます。工学部の集中講義のみ履修する場合もこの手続を行なって下さい。

<4>他学科・他コース・他学部・他専攻科目の履修を希望する場合

自学科開講科目以外の履修を希望する場合、原則として科目の担当教員(大学院生は指導教員)等の許可が必要になります。(自学科の教員の許可が必要な場合があります。詳細は各自問い合わせて下さい。)



時間割形式の入力画面で、他学科・他学部等の科目を履修したい曜日時限の「追加」ボタンをクリックして下さい。

履修可能科目一覧が表示されます。「他学科」、「他学部」、「他専攻」等の科目の中から自分の履修希望科目を探して、「追加」ボタンをクリックします。



追加した科目はオレンジ色で表示されます。このままでは登録されませんので、「確認」ボタンをクリックして下さい。



確認画面が表示されます。
 教員の許可を経ている場合は「はい」をクリックして下さい。

※許可無く「はい」をクリックして履修登録した場合、成績評価が
 つかなくても救済措置はありません。必ず教員の許可を経て
 から登録して下さい。



確認が完了すると、科目が黄色く表示され
 ます。
 この状態にならないと、画面下の確認ボタ
 ンをクリックした際にエラーとなりますので、
 注意して下さい。

※自学科の科目も含め、全ての履修希望科目を入力し終えたら、必ず最終的な確認手順を行なって、
 履修登録完了の画面を表示させて下さい。

【Ⅲ】各種確認ページの閲覧

ポータル画面から、自分の情報が確認できます。



<1>履修時間割（学外でもアクセス可能）



*自分の時間割表が確認できます。

(入力は出来ません)

*「印刷用ページ」をクリックすると、A4サイズでの印刷が出来ます。(①)

*科目名をクリックすると、シラバス画面が表示されます。(②)

<2>シラバス検索

* 検索条件を入力し、「検索」ボタンをクリックします。
(条件は一つでも複数でも検索可能です)



課程表が検索できます。



検索された科目の一覧から該当の科目を探し、「詳細」ボタンをクリックします。

表示されたシラバスは「印刷用ページ」をクリックして、印刷することができます。



<3>成績照会（学内のみ閲覧可能）



ポータル画面で、「成績照会」をクリックすると、個人の過去の成績一覧を参照する事が可能です。

<4>学籍情報照会（学内のみ閲覧可能）



氏名・学籍番号・所属学科などの基本情報、連帯保証人の住所・氏名、休学の履歴などを確認する事が出来ます。

- ※住所変更・改姓等があった場合は、学生支援室まで速やかに申し出て下さい。
- ※成績照会と学籍情報照会は、学外からアクセスすることができません。

<5> 各種お知らせの閲覧について

休講のお知らせや時間割の変更などを確認する事が出来ます。



大学内の掲示板に掲示される全ての情報が記載されるわけではありません。
必ずWEB 掲示板も確認するようにして下さい。

VIII. WEB 揭示板

1. WEB 掲示板の利用案内

工学部・工学府の学生への通知事項は、大学ウェブサイト内の WEB 掲示板で周知されます。
学外のパソコンからもアクセスが可能です。

注) スマートフォン以外の携帯電話は、アクセスできません。



(1) アクセス方法

- ホームページ
↓
① 学生生活・就職進学
↓
② WEB 掲示板
↓
③ 小金井キャンパスの
WEB 掲示板へ
(別ウィンドウで開きます)



(2) 検索方法

掲示板検索フォームを開き

- ・「所属」
- ・「カテゴリー」
- ・「記事内容」(語句の一部を入力)

↓
検索実行

◆ WEB 掲示板では「授業関係」「奨学金・授業料免除」の他、「遺失物情報」を検索することができます。

重要な掲示を見逃さないよう、各自で確認し、有効に活用して下さい。

◆ 【呼出】は WEB 掲示板には公開しません。

大学が付与した個別の Web メールアドレスに送信します。

IX. 平成 29 年度学科長及び
授業関係委員会委員等一覧

IX. 平成29年度学科長及び授業関係委員会委員等一覧

(メールアドレスは末尾に@cc.tuat.ac.jpが付きます)

学 科 長

学 科	学 科 長 名	研 究 室 所 在	電 話 番 号	メー ル
生 命 工 学 科	長 澤 和 夫	10号館1階107室	042-388-7295	knaga
応 用 分 子 化 学 科	大 栗 博 毅	1号館5階N510B室	042-388-7037	h_oguri
有 機 材 料 化 学 科	渡 邊 敏 行	4号館2階238室	042-388-7289	toshi
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	山 下 善 之	13号館8階804室	042-388-7688	yama_pse
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	桑 原 利 彦	6号館4階408室	042-388-7083	kuwabara
物 理 シ ス テ ム 工 学 科	前 橋 兼 三	4号館5階522室	042-388-7231	maehashi
電 気 電 子 工 学 科	鮫 島 俊 之	新1号館3階N310B室	042-388-7109	tsamesim
情 報 工 学 科	近 藤 敏 之	10号館4階415室	042-388-7382	t_kondo

教 育 委 員 会 委 員

委員長 池 袋 一 典
副委員長 上 野 智 雄

学 科	委 員 氏 名	研 究 室 所 在	電 話 番 号	メー ル
生 命 工 学 科	池 袋 一 典	12号館4階401室	042-388-7030	ikebu
	川 野 竜 司	12号館2階210室	042-388-7187	rjkawano
応 用 分 子 化 学 科	村 上 尚	1号館3階S315室	042-388-7035	murak
有 機 材 料 化 学 科	岡 本 昭 子	4号館2階248a室	042-388-7601	aokamoto
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	伏 見 千 尋	4号館3階322室	042-388-7062	cfushimi
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	水 内 郁 夫	9号館2階205室	042-388-7457	mizuuchi
	池 田 浩 治	6号館5階508室	042-388-7085	ikedak
物 理 シ ス テ ム 工 学 科	生 嶋 健 司	4号館5階514室	042-388-7120	ikushima
電 気 電 子 工 学 科	田 中 洋 介	新1号館2階206A室	042-388-7405	tyosuke
	上 野 智 雄	5号館2階201室	042-388-7119	tomoueno
情 報 工 学 科	藤 田 桂 英	10号館4階403室	042-388-7141	katfujj

教 職 課 程 小 委 員 会 委 員

委員長 上 野 智 雄

学 科 等	委 員 氏 名	研 究 室 所 在	電 話 番 号	メー ル
生 命 工 学 科	川 野 竜 司	12号館2階210室	042-388-7187	rjkawano
応 用 分 子 化 学 科	村 上 尚	1号館3階S315室	042-388-7035	murak
有 機 材 料 化 学 科	岡 本 昭 子	4号館2階248a室	042-388-7601	aokamoto
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	伏 見 千 尋	4号館3階322室	042-388-7062	cfushimi
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	池 田 浩 治	6号館5階508室	042-388-7085	ikedak
物 理 シ ス テ ム 工 学 科	生 嶋 健 司	4号館5階514室	042-388-7120	ikushima
電 気 電 子 工 学 科	上 野 智 雄	5号館2階201室	042-388-7119	tomoueno
情 報 工 学 科	藤 田 桂 英	10号館4階403室	042-388-7141	katfujj
教 職 課 程 専 任 教 員	三 浦 巧 也	3号館3階311室	042-388-7606	未定

平成29年度工学部クラス担任名簿

1年次在籍中の学生の相談役としてクラス担任がいます。学習上の問題をはじめとして気にかかることは遠慮なく相談して下さい。

学科	クラス担任	研究室所在	電話番号	メール
生命工学科	一川 尚 広	先端産学連携研究推進センター3階303室	042-388-7186	t-ichi
	池袋 一 典	12号館4階401室	042-388-7030	ikebu
	浅野 竜太郎	11号館4階407A室	042-388-7512	ryutarooa
	川野 竜 司	12号館2階210室	042-388-7187	rjkawano
応用分子化学科	村 上 尚	1号館3階S315室	042-388-7035	murak
	齊藤 重紀夫	新1号館2階S209室	042-388-7667	akio-sai
有機材料化学科	古矢 晋 一	12号館4階422室	042-388-7864	sfuruya@go.tuat.ac.jp
	米澤 宣 行	4号館2階248a室	042-388-7053	yonezawa
	白井 博 明	4号館2階241室	042-388-7055	hirusui
	斎藤 拓	4号館4階448a室	042-388-7294	hsaitou
	渡邊 敏 行	4号館2階238室	042-388-7289	toshi
	荻野 賢 司	BASE本館323室	042-388-7404	kogino
	合 田 洋	12号館2階211室	042-388-7918	goda
	下村 武 史	BASE本館326室	042-388-7051	simo
	尾崎 弘 行	4号館1階120室	042-388-7049	hiroyuki
	尾池 秀 章	1号館1階105室	042-388-7233	oike
	富永 洋 一	4号館1階121室	042-388-7058	ytominag
	村上 義 彦	4号館4階445室	042-388-7387	muray
	中野 幸 司	4号館2階217室	042-388-7162	k_nakano
	村岡 貴 博	4号館2階231室	042-388-7052	muraoka@go.tuat.ac.jp
	畠中 英 里	12号館2階228室	042-388-7056	hataken
	帯刀 陽 子	4号館1階106室	042-388-7494	ytatewa
岡本 昭 子	4号館2階248b室	042-388-7601	aokamoto	
化学システム工学科	徳山 英 昭	新1号館2階215室	042-388-7607	htoku
	伏見 千 尋	4号館3階322室	042-388-7062	cfushimi
機械システム工学科	高 橋 徹	6号館3階304室	042-388-7079	takahas
	水内 郁 夫	9号館2階205室	042-388-7457	mizuuchi
	池田 浩 治	6号館5階508室	042-388-7085	ikedak
	岩本 薫	9号館3階312室	042-388-7389	iwamotok
物理システム工学科	柳澤 実 穂	4号館5階516室	042-388-7113	myanagi
	鵜飼 正 敏	4号館5階510室	042-388-7222	ukai3
	嘉治 寿 彦	4号館4階420室	042-388-7536	kaji-t
	畠山 温	4号館4階437南室	042-388-7554	hatakeya
	箕田 弘 喜	4号館5階509室	042-388-7114	hminoda
	宮地 悟 代	4号館5階536室	042-388-7153	gmiyaji
	村山 能 宏	4号館4階435室	042-388-7107	ymura
	室尾 和 之	4号館5階532室	042-388-7111	muroo
	森下 義 隆	4号館5階504室	042-388-7121	morisita
	山本 明 保	4号館4階408室	042-388-7100	akiyasu
電気電子工学科	田中 洋 介	新1号館2階206A室	042-388-7405	tyosuke
	藤吉 邦 洋	5号館4階502室	042-388-7250	fujiyosi
	梅林 健 太		042-388-7483	ume_k
情報工学科	中條 拓 伯	7号館3階3C室	042-388-7491	nakajo
	篠原 和 子	12号館3階325室	042-388-7582	k-shino
	藤田 桂 英	10号館4階403室	042-388-7141	r-miya

X. 運動施設等の使用について

X-1. 運動施設

本学には、グラウンド、総合屋内運動場、テニスコート、ゴルフ練習場（府中地区のみ）等の運動施設があります。これらの施設は、授業や課外活動による利用以外にも、一般学生向けに公開されています。

（1）利用時間帯および利用手続（共通）

- ① 授業や課外活動等で使用しない月曜日から金曜日までの平日 10 時（テニスコートは 9 時から）～16 時半（総合屋内運動場は 16 時まで）の時間帯は、各施設の利用規則に従い、いつでも使用することができる。
- ② 平日 16 時半以降及び休日に大学公認サークル、クラス、研究室、その他の学内団体が使用を希望する場合は、各地区の運動施設運営協議会に代表を出席させ、使用日程等の調整を受ける。
 - ・ 府中地区の運動施設運営協議会は、毎月第 2 水曜日の 17 時から掲示で指定された場所で開催される（長期休暇前は臨時開催することがある）。
 - ・ 小金井地区の運動施設運営協議会は、毎月第 3 木曜日の 16 時 30 分から掲示で指定された場所で開催される（長期休暇前は臨時開催することがある）。
 - ・ 下記に記載する事項及び各地区の運動施設運営協議会の定めた規則に従うこと。

（2）各施設の利用規則および利用手続

グラウンド（府中地区及び小金井地区）

- ① 雨天時、雨天後、冬季（特に積雪時）など、グラウンド表面が軟弱な時は、原則として使用してはならない。表面を荒らしてしまった場合は、必ず元の状態へ復帰させる。
- ② ビン類・花火・その他の危険物を持ち込まない。
- ③ 車輛（自転車を含む）を入れてはならない。
- ④ 授業時間中は、授業履修学生以外の者はグラウンド内に入らない。
- ⑤ グラウンド内では飲食及び喫煙してはならない。
- ⑥ 使用後は、必ず「ブラシ」または「とんぼ」をかけ整備する。

総合屋内運動場（体育館・武道場・トレーニングルーム）（府中地区及び小金井地区）

- ① 学生証・職員証等本学発行の身分証明証の所持者に限り、使用することができる。ただし、管理人のいない時は原則として使用できない。
- ② トレーニングルームを利用できるのは、事前に講習を受けた者に限る。利用者向け講習会は、毎月、掲示で指定された日時・場所で開催される。
- ③ 利用者は、入館時に受付にて利用申し込みを行なう。
- ④ 室内専用シューズを必ず着用する。土足や裸足による利用は認めない（武道場に限り裸足可）。
- ⑤ 総合屋内運動場内では飲食及び喫煙してはならない。水分補給を目的とした飲料水の摂取は、決められた場所で行なう。
- ⑥ 使用後は、必ず「モップ」等で床を清掃する。
- ⑦ その他、管理人の指示に従う。

テニスコート（府中地区及び小金井地区）

- ① 府中地区は学生系事務棟西側（オムニコート4面）のみが、一般学生向けに公開されている。
- ② 各地区学生支援室学生生活係において、学生証と引換にコート入口の鍵を受け取り、施設へ入場する。使用時間は以下の4区分となっており、制限時間終了後は速やかに鍵を返却する。

I. 9:00～10:20、II. 10:30～11:50、III. 13:00～14:40、IV. 14:50～16:30

- ③ コートの状態が悪い時（例えば積雪時など）は使用できない。
- ④ テニスシューズ（それに準ずる形状のスポーツシューズ）を必ず着用する。
- ⑤ 使用後は、必ず「イージースイープ」または「コートブラシ」をかけ、ネットをゆるめる。
- ⑥ コートを退去する際、他に使用者がいない場合はネットをゆるめ、コート出入口を施錠する。
- ⑦ コート内では飲食及び喫煙してはならない。
- ⑧ その他、各地区学生支援室学生生活係および管理人の指示に従うこと。

ゴルフ練習場（府中地区）

- ① ゴルフ練習場を利用できる者は、スポーツ健康科学科目のゴルフ実技履修者およびスポーツ健康科学担当教員の認定を受けた者に限る（以下、認定者）。
- ② 認定者はスポーツ健康科学担当教員が発行する証明書を府中地区学生支援室学生生活係に提示し、学生証・証明書と引換に練習場入口の鍵を受け取り、施設へ入場する。
- ③ 施設内は、室内専用シューズ等を使用する。土足禁止。
- ④ 打席では、専用マットにボールを置き、打球する。
- ⑤ 的（キャンバス生地）に向けて打球する。
- ⑥ 規定の打席内から打球する。
- ⑦ 他者が打球中は、自分の打席から決して前方に出てはならない。
- ⑧ 複数の者で施設を使用する場合は、ボールの回収を一斉に行う。
- ⑨ 他者が打球中は、その打席には決して入らない。
- ⑩ 練習場を退去する際、他に使用者がいない場合は、練習場入口ドアを施錠する。
- ⑪ 練習場内では飲食及び喫煙してはならない。

（3）スポーツ用具等の貸出

- ・ 府中地区学生支援室学生生活係では、ソフトボール、テニスラケット、バレーボール、サッカーボールの貸出サービスを行なっている。
- ・ 小金井地区学生支援室学生生活係では、テニスラケットとテニスボールの貸出サービスを行なっている。
- ・ 借用する場合には、貸出簿に記入し、学生証と共に窓口に提出する。
- ・ 総合屋内運動場（府中地区及び小金井地区）では、卓球用具一式、バドミントン用具一式、バレーボール一式、バスケットボール等の貸出サービスを行なっている。施設内の受付にて、所定の借用手続きを行なう。使用方法は、管理人の指示に従う。

X-2. 工学部合宿研修施設

工学部合宿研修施設（小金井地区）は、学生の正課及び課外活動等の研修、合宿練習のための合宿研修施設です。利用を希望する者は、以下のような手続きを行なって下さい。

- ① 毎月開催される『サークル代表者会議』（学生自治会によるサークル代表者を集めた会議）に出席する。
- ② サークル代表者会議の調整を受けた後、「工学部合宿研修施設使用願」を小金井地区学生支援室学生生活係へ使用開始日の7日前までに提出する。
- ③ 使用に当たっては、「東京農工大学合宿研修施設使用心得」を遵守する。

【運動施設等の利用に関する相談窓口】

<事務> 小金井地区学生支援室学生生活係（042-388-7011）

<教員> スポーツ健康科学科目担当 田中秀幸（042-388-7965 内線 7965）

XI. 建物等配置図

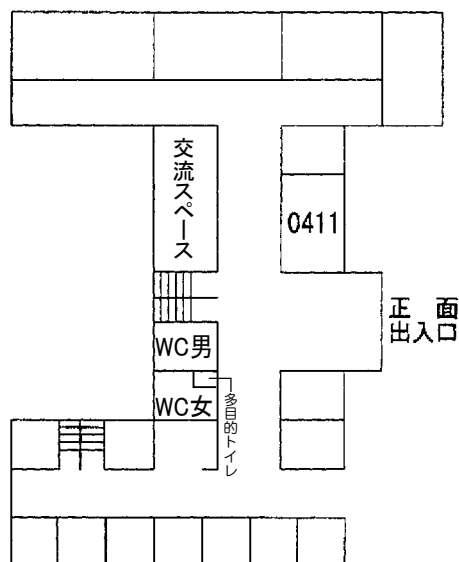
XI. 建物等配置図

小金井キャンパス講義室

4号館	1階	L0411	12号館	1階	L1211～L1217
6号館	2階	製図室	13号館	2階	L1321～L1322
	3階	L0631		3階	L1331～L1332
7号館	1階	L0711	講義棟	1階	L0011～L0017
	3階	PC教室(3K)		2階	L0021～L0026
	4階	PC教室(4K)		3階	L0031～L0035
8号館	1階	L0811、eラーニング受講室	BASE	1階	講義室1～3
	2階	L0821	中央棟	1階	教務第一係、教務第二係
	3階	L0831			学生生活係、入学試験係
11号館	1階	L1111～L1114		2階	非常勤講師室
	5階	L1151～L1153		3階	保健管理センター小金井分室

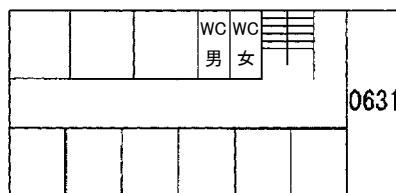
【4号館】

1階

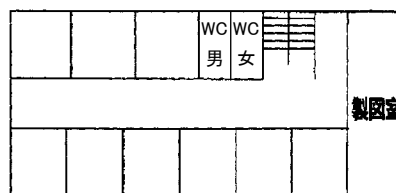


【6号館】

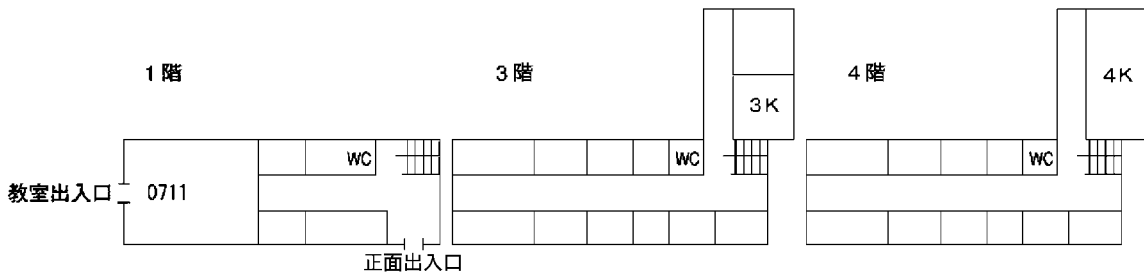
3階



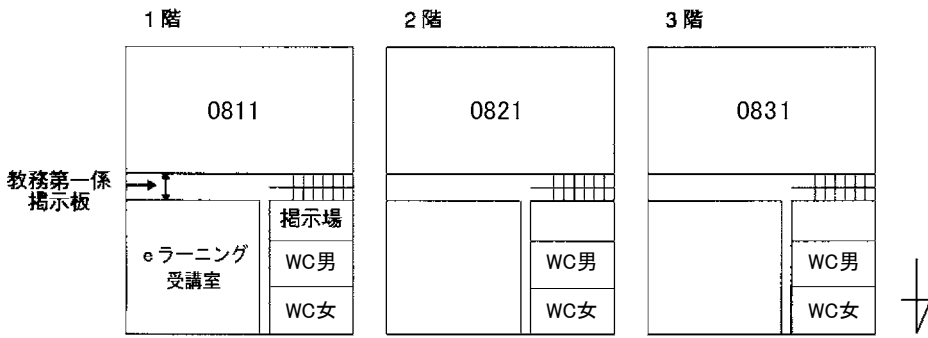
2階



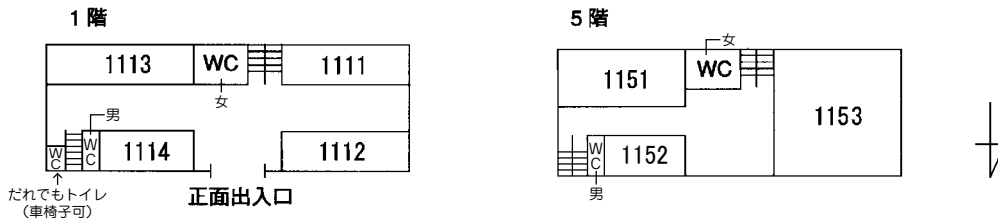
【7号館】



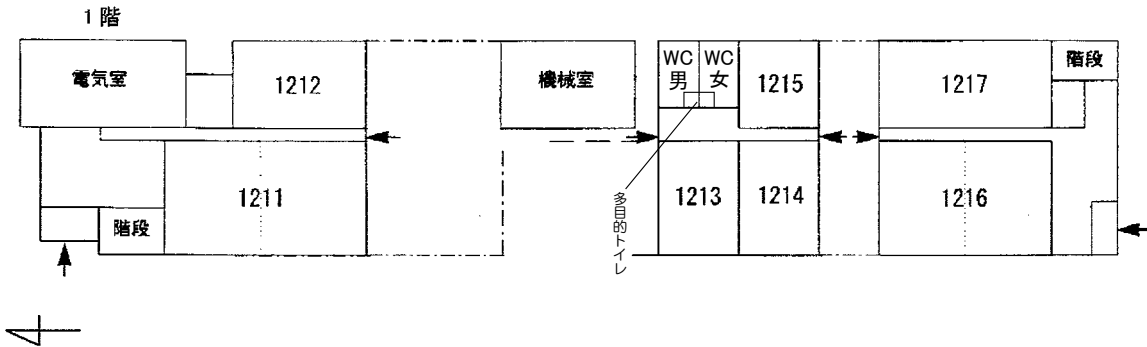
【8号館】



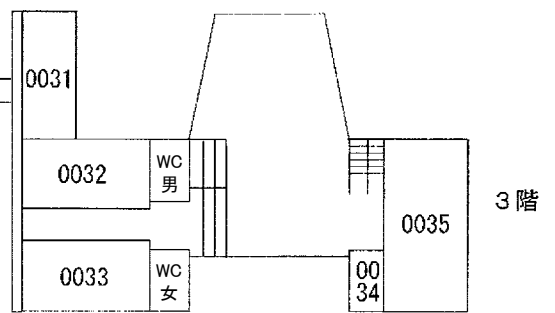
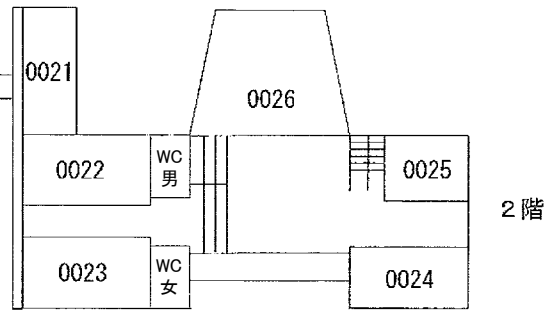
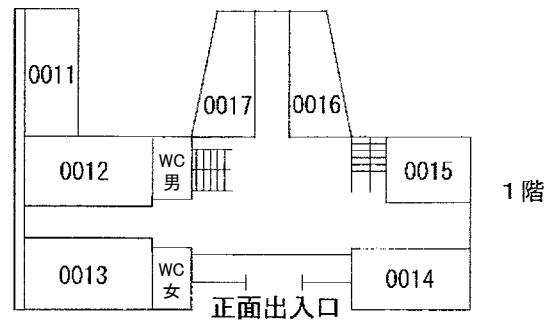
【11号館】



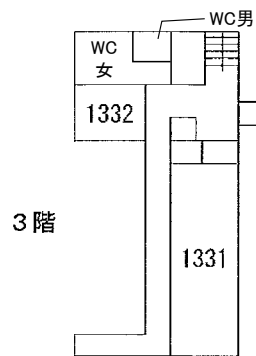
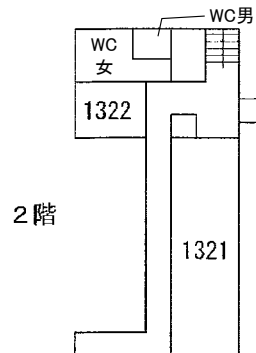
【12号館】



【講義棟】

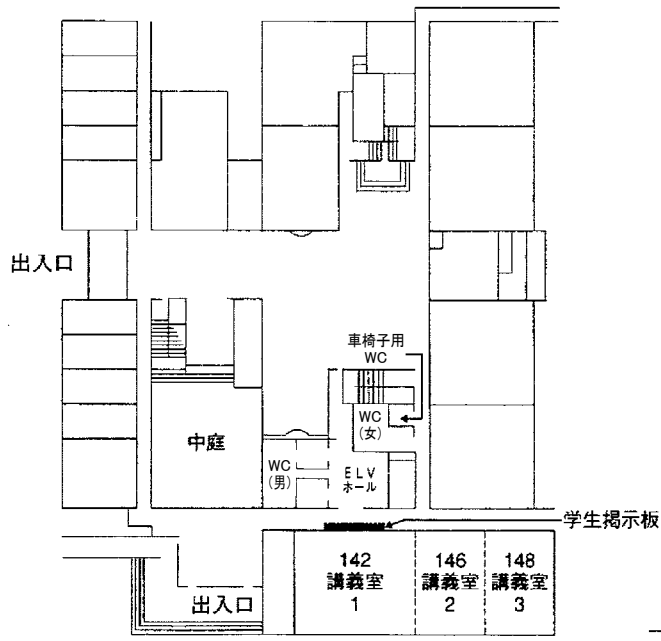


【13号館】



【BASE本館】

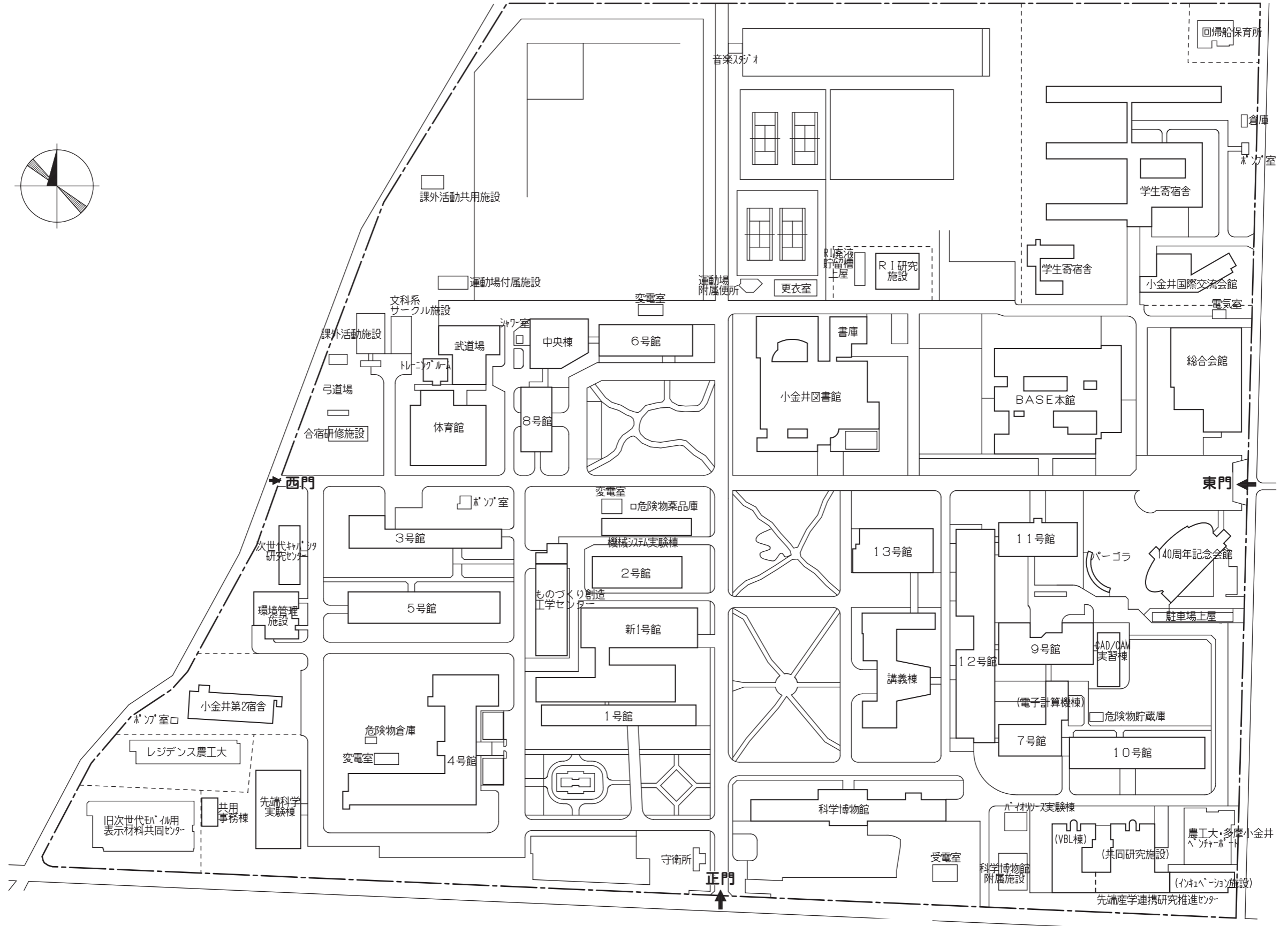
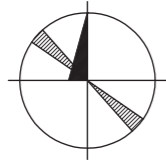
1階



至八王子

JR 中央線

至新宿・東京



小金井キャンパスマップ

2017年度
(平成29年度)

工学部履修案内

東京農工大学工学部

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16
電話 042-388-7010

